

第六十九回帝國議會
衆議院

航路統制法案委員會會議錄(速記)第二回

付託議案

航路統制法案(政府提出)

會議

昭和十一年五月十四日(木曜日)午前九時十六分開議

出席委員左ノ如シ

委員長 戸澤民十郎君

理事最上 政三君 理事清 寛君

理事中井 一夫君

濱野徹太郎君 平野 光雄君

木村吉太郎君 片岡 恒一君

尾崎 重美君 小谷 節夫君

船田 中君 八角 三郎君

盛島 明長君 紅露 昭君

小山 亮君 金井 正夫君

岡崎 憲君 高岡 大輔君

同月十三日委員三浦虎雄君辭任ニ付其ノ補闕トシテ小山亮君ヲ議長ニ於テ選定セリ

出席國務大臣左ノ如シ

逓信大臣 頼母木桂吉君

出席政府委員左ノ如シ

外務省通商局長 松嶋 鹿夫君

逓信政務次官 前田房之助君

逓信參與官 多田 滿長君

逓信省電氣局長 大和田悌二君

逓信省管船局長 小野 猛君

逓信省經理局長 進藤 誠一君

本日ノ會議ニ上リタル議案左ノ如シ

航路統制法案(政府提出)

○戸澤委員長 是ヨリ開會致シマス、逓信大臣ノ御説明ヲ願ヒマス

○頼母木國務大臣 航路統制法案提出ノ理由ハ、既ニ本會議ニ於テ申述ベタ通りデアリマスガ、一應本案ノ要旨ニ付キマシテ、更ニ御説明致シタイト思ヒマス、我國ノ海運業ハ、明治初期ニ於テ初メテ近代の形態ヲ創設セラレテ以來、政府及ビ當業者ノ不撓ノ努力ニ依リマシテ、逐年異常ナル進歩ヲ示シ、更ニ歐洲大戰ヲ契機トシテ劃期的發達ヲ遂ゲ、現在ニ於キマシテハ船腹五百萬噸ヲ擁シテ英米ニ次ギ世界第三位ノ地歩ヲ占メテ居ルノデアリマス、元來海運業ハ世界ノ市場ヲ相手トシ、諸外國間ヲ結ブ海上運送企業タル特性ニ基キマシテ、各國法制ハ原則トシテ之ヲ自由企業トシテ取扱ッテ來タノデアリマスガ、我國ニ於キマシテハ各國ニ比シマシテ海運ノ創設甚シク遅レ、而モ急激ナル國力ノ増進ニ順應スル必

要ガアリマシタ爲メ、海運業ヲ自由企業トシ、當業者ノ營利心ニ依リ自由闊達ナル活動ヲ促スコトハ、斯業ノ伸長ヲ期スル上ニ於テ極メテ必要ダッタノデアリマス、然ルニ近年、我國ノ目覺マシキ發展ニ伴ヒマシテ、海運業者ノ航路施設愈々複雑化スルニ至リ、動モスレバ邦船相互ノ間ニ無謀ナル競爭狀態ヲ現出スルノ傾向ヲ馴致スルニ及ビ、當業者ニ於キマシテモ其弊ニ堪ヘズ、之ヲ是正スルノ必要ヲ痛感シ、從來諸種ノ會議ニ於キマシテ不當ナル競爭ヲ防遏スベシトスル決議又ハ要望ヲ爲シタコト、一再ニシテ止ラナカッタノデアリマス、而シテ斯ノ如キ競爭ハ實ニ我が海運資本ヲ空費シ、斯業ノ健全ナル發達ヲ阻碍スルノミナラズ、動モスレバ我が海運政策又ハ通商貿易政策ニモ背馳スル如キ結果ヲ招來スル虞レアルコトハ、茲ニ多言ヲ要セザル所デアリマシテ、本案ハ當業者ノ極端ナル營利主義ニ基因スル不當ナル競爭ヲ除キ、適正ナル規律統制ノ下ニ航路ノ運營ヲ爲サシメ、以テ我が海運業ヲシテ合理的の經營ノ基礎ニ於テ、十分ナル經濟力及ビ對外競爭力ヲ培養

セシメ、更ニ今後ノ國際海運競爭ニ處シ、一段ノ對外進出ヲ圖ラシメントスル趣意ニ出デタルモノデアリマス、即チ航路ニ於ケル不當ナル競業ガ發生致シマシタ場合ニ於テ、政府ハ我國海運業ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲メ必要アリト認メマシタトキハ、先ヅ當事者ニ對シ勸告ヲ爲シテ其自治的解決ヲ促シ、右ノ勸告其效ヲ奏セザルトキハ、航路ノ經營ニ關スル協定ヲ命ジテ其自主的協調ヲ圖ラシメ、更ニ斯ル協定成立セザル場合ニ於テハ、航路ノ經營ヲ禁止又ハ制限ヲ命ジ得ルノデアリマス、而シテ右ノ行政處分ヲ爲スニ當リマシテハ、原則トシテ航路統制委員會ノ議ヲ經ルコトトシ、能フ限り公平適切ナル結果ヲ得テ、邦船ノ活動ヲ不必要ニ萎縮セシムルコトナク、又既設航路經營者偏重ノ弊ニ陥ラザルヤウ注意スル所存デアリマス

次ニ航路ノ統制ガ確保セラレマスル結果、或ハ獨占ノ弊ヲ生ズル場合モ想像シ得ラレマスノデ、政府ハ運賃其他ノ航路ノ經營條件ガ公益ニ反スト認メマシタトキハ、航路統制委員會ノ議ヲ經テ是ガ是正ニ關シ

必要ナル命令ヲ發シ得ルコトトシ、適當ナル限度ニ於テ一般利用者ノ利益ヲ保護スルコトト致シタノデアリマス

本案ノ趣旨ハ大體以上申述ベマシタ通りデアリマス、何卒政府ノ意ノ存スル所ヲ諒トセラレ、御審議ノ上御賛成アラシコトヲ切望致ス次第デアリマス

○戸澤委員長 通告順ニ依リ質問ヲ許シマス——濱野徹太郎君

○濱野委員 本案ノ立法ノ趣意ハ大體只今ノ御説明デ諒ト致シマスガ、今ノ大臣ノ御説明ノ中ニモアリマシタ通り、我國ノ海運界ハ本來自由ニ世界ノ海運市場ヲ潤歩シテ居ッタノデアリマス、其中ニ於テ二ツノ潮流ガアリマシテ、現在大資本ヲ有シテ居リマス所ノ既成ノ會社ハ、過去現在ニ互テ莫大ナル國家ノ保護ト助長ノ下ニ海運界ニ威ヲ專ラニシテ居リマシタ、之ニ反シテ他ハ自由敢爲ニシテ企業精神ニ富ム社外船ノ人達ガ、世界ノ市場ニ於テ活躍シテ居レバコソ、現在ノ海運業ノ活況ヲ呈シタノデアラウト思ヒマスガ、斯ウ云フ現狀ニ即シテ統制法ト云フモノハ日本ノ海運界ニ對シテハ劃期的ノ立法デアルト云フコトハ言フマデモナイノデス、就テハ私ハ斯ウ云フ劃期的ノ法律ガ目前ニ必要ナリトスル現狀ニ付キマシ

テ、簡單デ宜シイカラ政府委員ノ海運界ノ現狀ニ付テノ説明ヲ承リタイト思ヒマス、即チ斯ウ云フヤウナ劃期的ノ立法ヲ必要トスルニ至ッタ現實ノ狀態、サウ云フタコトニ付テ多少ノ御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○小野政府委員 今ノ御質問デアリマスガ、海運界ノ現狀ハ色々複雑シテ居リマスガ、大體ニ於テ私ノ看取シテ居ル所ヲ申上ゲマス、大臣ノ御説明ニモアリマシタヤウニ、最近日本ノ海運界ハ非常ナ發展ヲ遂ゲテ、實ハ四五年来船腹問題ニ關シテ、又此航路ノ統制問題ニ付テ、寧ロ政府側ヨリハ民間側デ何トカ統制調節ヲスル必要ヲ叫バレテ居ルヤウナ時代ニナッテ居ルノデアリマス、要スルニ船腹ガ四五年前ニ非常ニ多過ギル、ソコデ之ヲ政府ニ於テ統制シテ貰ヒタイト云フヤウナ議論ガアルト同時ニ、一面ニ於テ無用ナ競争ヲスルカラ此無用ナ競争ヲ防止シテ貰ヒタイト云フ風ナ空氣ガ濃厚デアッタノデアリマス、ソコデ政府ニ於キマシテハ今質問者ノ御話ノヤウニ、從來ハ極メテ自由放任ノ政策ヲ採ッテ居ッタノデアリマスガ、斯ノ如キ自由放任ノ或ル程度ノ發達ヲ遂ゲマシタ際ニ、何トカ之ヲ統制是正スル方法ニ進ムノガ最早時代ニ適應シテ居ルノデヤナカラウカト云フコトニナリマ

シテ、昭和七年ニ御承知ノ船腹統制ノ爲ニ船質改善助成施設ト云フモノヲ施行致シマシテ、是ト同時ニ外國カラ古船ノ輸入スルノヲ制限シタノデアリマス、是ガ日本ノ資本主義的、自由主義的ノ海運政策ニ對スル一ツノ重大ナル「エボック」ヲ作ッタ時デアリマシテ、政府民間揃ッテ自由放任主義ニ或ル程度ノ是正ヲ加ヘル第一歩デアアルノデアリマス、ソレガ昭和七年ノ終リデアリマシタ、其當時船腹ヲ非常ニ統制致シマシタ結果、之ニ對シテハ相當自由主義方面ノ海運業者カラ反對ガアッタノデアリマス、日本ノ海運ト云フノハ自由主義ニ放任シタ方ガ發展スルノダ、特ニ餘リ良イ船ヲ作ラヌデ、古船デ宜イデヤナイカ、多々益、辨ズベシト云フヤウナ議論ガ非常ニ盛デアリマシテ、御記憶デモアリマセウガ、昭和七八年頃政府ガ外船ノ輸入ヲ制限致シタ際ニ、之ニ非常ナ反對ヲ所謂自由論者ノ方カラ卷起シマシテ、政府ノ統制ノ利カナイ外地方面ニ其古船ヲ輸入シタ、其結果政府ニ於テモ外地ト協力致シマシテ、外地ニモ輸入制限ノ規定ヲ施行サセテ貰ッタヤウナ時代ガアッタノデアリマス、斯ウ云フ所カラ考ヘテ見マスト、日本ノ海運界ニ二ツノ流れノアルコトヲ私ハ感得シテ居ッタノデアリマス、一ツハ

飽迄自由放任デ行クト云フ主義、他ハ自由主義ヲ認メツ、或ル程度之ヲ是正シテ行ク、此二ツノ大キナ主義ノ争ガアルノデアリマス、現在デモ其大キナ争ノ波ガブツカッテ居ルノデアリマス、政府ニ於キマシテハ自由放任、固ヨリ原則トシテハ自由主義デアルガ、或ハ程度ニ是正ラスベシ、多々益、辨ジ、弱肉強食デ、自由主義ノ結果産業ヲ助長スベシト云フ方針モ全然否認シテ居ルノデアリマセンガ、或ハ程度ノ是正ヲシタイト云フ方針ヲ執ッテ居ルノデアリマス、ソレガ今申上ゲマシタ昭和七年ノ外船輸入制限ト云フモノハ具體的ニ大キナ方針ノ轉向ガ現ハレテ居ルノデアリマス、其外船輸入制限ヲヤリマシタ時ニ、既ニ無謀競争ノ禁止防遏ト云フコトガ、同時ニ同ジ改善議會ノ決議デアッタノデアリマス、此決議ハ御手許ニモ差上ゲテ置キマシタガ、是ハ政府側カラ懲憑シテ作ッタ決議デハナイノデアリマス、寧ロ社外船ノ方面カラ不當競争ノ防止ヲ是非ヤッテ貰ヒタイ、而モ是ハ或ル委員會ヲ設ケテヤルベシト云フヤウナ強キ決議ガアッタノデアリマスガ、當時政府ニ於キマシテハ、船腹ノ統制ヲ先ニシテ、不當競争ノ防遏ニ付テハ先ヅ相當ノ考慮ヲシナケレバナラスト云フノデ、色々調査シテ

居ッタノデアリマスガ、其後色々非難モアリマシタガ、改善助成施設ノ結果、海運界ハ非常ニ持直リマシテ、現在ノ如キ、各國ニ先ンジテ好況ノ第一歩ニ踏出シタノデアリマスルガ、其當時カラ私ハズツ見テ居リマスルト、其當時ノ決議ニナリマシタヤウナ不當ナル競争ガ色々ナ所ニ行ハレテ居ルノデアリマス、ソコデ船腹ノ統制ヲヤル、次ニ航路ノ或ル程度ノ統制ヲヤラウト云フコトニ決意致シマシテ、豫テ以前カラ準備シテ居ッタノデアリマスガ、此機會ニ、近頃準備ガ整ヒマシタノデ、此法案ヲ提出致シタノデアリマス、今御質問ノ海運界ノ情勢ト申シマスカ、要スルニ船腹統制ト云ヒ、航路ノ統制ト云ヒ、此數年來海運界ニ行ハレテ居ル一ツノ流レヲ酌取ッタ案ニ過ギナイノデアリマス、勿論之ニ對シテ自由放任主義ノ反對論ガアルノハ今ニ始ッタコトデハナイノデアリマス、併シ或ル程度ノ自由主義ノ弊ヲ是正スルノガ適當デナイカ、斯ウ感ジテ出シタ次第デアリマス

○濱野委員 此統制法案ヲバ通讀シマス、結局歸スル所ハ、他ノ産業ナドノ統制法ト同ジヤウナ工合ニ同一ノ「コース」ガ進ンデ行クト思フノデアリマス、即チ是ハ政府モ豫見シテ居ラレルヤウデアリマスガ、先ヅ

不當ナル競争ノ防止ニ關シテ政府ハ、第一ニ勸告ヲスル、經營ニ關スル協定ヲスル、又ハ經營ヲ禁止、制限ヲスルト云フコトニナッテ居リマス、サウシテソレガ第三條カラ第四條ニ行クト、茲ニ既成勢力ヲ有スル大會社ノ航路獨占ト云フコトヲ豫想シテ居ル、是ハ政府モ略々豫見シテ居ル事實ラシイ、ソシテ從來政府ガ常ニ統制ニ手ヲ染メル時ニハ、必ズソレハ産業界ノ發達ヲ期待スルトカ、或ハソレガ爲ニ、産業デアレバ、結局消費者ガ利益ヲ得ルノデアルト云フヤウナコトヲバ、説明ノ時ニ絶エズ口ニセラレノデアリマス、其當時ノ政府ノ爲政者ノ趣意トスル所ハ、其通り專ラ違ヒナイノデアリマスガ、結果カラ見ルト必ズシモ法ノ運用ハ皆ク行ッテ居ラナイ、簡單ニ言ヒマスト、麥酒ノ如キ、或ハ又紙ノ如キハ、悉ク消費者ガ其結果トシテ高價ヲ強ヒラレテ迷惑ヲ受ケテ居ルト云フヤウナ實情デアリマス、此立法ノ趣意トスル所モ、亦ヤハリ海運界ノ健全ナル發達ヲ企圖シテ居ルニ違ヒナイノデアリマスガ、結果ハ或ハ逆ナ結果ニ行クノデハナイカト云フコトヲ吾々ハ俱レノデアリマス、只今政府委員ノ御説明ニ依リマシテ、數年以前ニ社外船ガ特ニ進ンデ統制ヲ要求シタヤウナ形勢ニ伺ッ

ノデアリマスルガ、當時ト今日トハ著シク實情ヲ異ニシテ居ル、今ヨリ六七年前ト云フト、非常ニ不景氣ナ時デアル、サウシテ今日ノ日本ノ海運界ヲバ大觀シマスルト、先程申上ゲマスル通り、一方ニハ巨大ナル資本ヲ擁シテ海運界ヲ壟斷シテ居ル所ノ大會社ガ儼トシテ日本ニアリマスガ、ソレハ會社自ラノ力ニ依ッテ發達シタノデハナクシテ、或ハ政府ノ手厚イ所ノ保護助長ニ依ッテ今日ノ大ヲ成シテ居ル、然ルニ多年ノ不景氣ニ處シテ、微力ナル所ノ群小ノ社外船ガ漸ク辛ウジテ生命ヲ維持スル爲ニ非常ナ努力ヲシテ、不景氣ノ最中ニ於キマシテハ一方ニ大資本ヲ擁スル會社ガ市場ノ景氣ノ如何ニ依ラズ、兎ニ角ニモ經營タケハ健全ニシテ行ケル、補助ヲ受ケテ居ルト云フ實情ニ照シテ、群小社外船主ガ寧ロ進ンデ統制ヲ叫ブト云フコトハ、當時ノ實情上必要デアッタト考ヘル、然ルニ其後數年過ギマシテ、日本ノ國情ハ非常ニ變ッテ居リマス、日本經濟界ノ情勢、景氣ト云フモノハ違ッテ居リマス、當時ハ貿易ナドモ非常ニ衰退シテ居ッタ、不景氣デアリマシタガ、今日ノ貿易界ト云フモノハ世界ノ到ル處ニ日本ノ商品ガ進出シテ居ル、隨テ海運界モ其尖端ヲ承ル爲ニ非常ナ活氣ヲ呈シテ居ルデアラウ

ト思フ、サウシテ日本ノ大體ノ形勢ヲ見ルト云フト、ドウシテモ移民ヲ盛ニスルトカ、或ハ商品ノ輸出ハ何ヲ犠牲ニシテモヤラナケレバナラヌ、日本ガドウシテ見テモ海外ニ飛躍シナケレバナラヌト云フ國策ハ、政府モ民間モ共ニ論調ヲ一ニシテ來タコトハ、此數年來ノ爭フコトノ出來ナイ形勢デアルト思フノデス、サウスルト今日ノ此社外船、群小ノ企業家ノ活躍ト云フモノハ、是ハ當分ノ間將來ノ見透シガ付ク程ノ十分活躍ノ餘地ガアラウト思フノデス、此數年以前ノ狀態ト今日ノ實情トヲバ能ク比較シテ見ル時ニ、此法律ノ趣意ガ果シテ必要ナリヤ、將又其趣意目的ガ達成出來ルカ、今マデ國家ノ厚キ恩典ニ依ッテ生キテ來テ居リマシタ所ノ大會社ガ、大資本ヲ擁シテサウシテ定期航路、斯界ノ誰ガ考ヘテモ一目明ナヤウナ有利ナル定期航路ト云フモノヲ獨占シテ居ル、斯ウ云フ所ニ敢爲ニシテ勇敢ナル社外船ガ侵入シヨウトシテモ、到底許サレザル事實デアリマス、然ラバ群小ノ社外船ガ自由ト敢爲ニ勇ヲ鼓シテ何處マデモ新ナル航路ヲ開拓シ、新ナル市場ヲ開拓シテ、ソコデ第一線ニ躍ッテ居リマス時ニ、多大ノ犠牲ヲ拂ッテ社外船ガ活躍シテ居リマス時ニ、漸クソレガ有望視サレマシテ、採算ガ取レ

ルヤウニナルト、茲ニ潤澤ナル資本ト、サウシテ有ユル設備ニ於テ劣ル所ナキ既成ノ會社ガ割込シテ來ル、サウスウズル間ニ段々定期航路ニナツテシマフ、斯ウ云ツタ一般ノ情勢ガ馴致セラレタ時ニ、然ラバ色々ノ協定ヲバ命ズルカ、勸告スル、サウ云フ時ニ落チテ行ク所ハ何處デアアルカト云フト、結局大會社ノ獨占ト云フコトニナツテシマフデヤナイデセウカ、斯ウ云フヤウナ事實ハ、是ハ多クノ議論ヲ用ヒズシテ有ユル方面ニ見ラレル現象デアラウト私ハ考ヘル、當局ハ此邊ニ對シテドウ云フ慮リヲ考ヘテ居ルカラバ承リタイノデアリマス

○小野政府委員 御尋ノ前段ハ、ア、云フ決意ヲシタノハ不況時代デアッテ大分情勢ガ違フ、斯ウ云フノデアリマスガ、其通りデアリマスケレドモ、海運界ガ非常ニ好クナツト云フコトデハナイノデアリマス、海運業ハ御案内ノ如ク日本ダケノ事情ヲ以テ論ズルノデハナイノデアリマシテ、廣ク世界ノ海運事情ガ好クナツテ居ルカドウカト云フコトデ、日本海運ガ好クナツテ居ルカドウカト云フコトニナルノデアリマス、最前申上ゲマシヤウニ日本ノ海運ハ船腹ノ統制デアルトカ、或ハ爲替ノ低落ニ依ル差違デアルトカ云フヤウナ關係デ、先ヅ他ノ國

ヨリ比較的好クナツテ居ルノデアリマスガ、私共ノ考デハ日本ノ海運ハ、世界、寧ロ海外ニ進出シテ活動シテ貰ヒタイ、海運ノ使命ハ寧ロ近海ヨリハ大西洋デアルトカ、歐羅巴方面ニ出テ貰ヒタイノデアリマスガ、不幸ニシテ、マダ大西洋、歐羅巴方面ハ景氣ガ回復シテ居ラスノデアリマス、最近伊「エ」戦争ノ結果相當向フデハ海運界ハ緊張シテ居リマスガ、伊「エ」戦争終結ヲ告ゲマシテ、或ハ又向フノ景氣ガ落潮ニ陥ルノデハナカラウカト云フヤウナ一抹ノ暗影スラアルノデアリマス、斯ノ如クマダ遠洋ノ方ハ活潑ニナツテ居ラナイ、ソコデ日本ノ海運業者ハ遠洋ニ押出スニハマダソレダケニ採算ガ宜シクナイ、隨テ遠洋ニ押出スベキデアアルガ、自然東洋近海デ相爭フト云フヤウナ現狀ニナツテ居ルノデアリマス、私共ハ何トカシテ此日本近海デ爭フコトヲ止メテ遠ク出タラドウカト言ヒマスケレドモ、今申上ゲマシタヤウニ遠洋、特ニ歐羅巴方面ニハ餘リ宜クナイカラ、自然近海ニ躊躇スルヤウナ現狀ニ相成テ居ルノデアリマス、ソコデ是ガ非常ニ好況デアアルカト申シマス、私ハサシテ好況ニ非ズ、マダノ安心ノ足ラス狀況デアルト心得ルノデアリマスガ、假ニ東

洋近海方面ハ好況トシテモ、海運業ノ性質カラ見テモ、東洋ノ方面ニ餘リ重複シテ無用ナ航路ノ競争ヲシテ貰ヒタクナイノデアリマス、隨テ斯ウ云フ案ニナツタノデアリマスガ、又後段ノ大會社ノ保護ニ墮スルト云フノハドウカ、斯ウ云フ御質問デアリマスガ、是ハ逡信大臣モ本會議デ十分御説明ニナツタノデアリマスガ、又私共立案者ト致シマシテモ、大會社、既設會社ノ擁護ト云フヤウナ存念ハ毛頭ナイノデアリマス、所謂社外船同士ノ爭——實ハ世ノ中デ社船ト社外船ト爭フト申シマスケレドモ、中々社船同士ノ爭モ相當深刻ナモノガアルノデアリマス、社外船ト社船同士ノ爭ハ勿論アルノデアリマス、又社外船同士ノ爭モアリマス、此爭ガドノ程度ニナツタ時ニ不當ナ競争ナリヤ否ヤト云フコトハ、中々一概ニ申上ゲラレナイノデアリマスガ、社船ト社外船ノ爭ヲ目標トシテ此案ガ考ヘラレタト云フヤウナコトハ全然ナイノデアリマシテ、如何ナル場合デモ、苟モ誰ガ見テモ不當ダト思ハレル場合ニハ、此法ノ運用ニ依ッテ何トカソレヲ制限致シタイト思ヒマス、斷ジテ既設大資本ヲ擁護シヨウト云フヤウナ考ヘハ持ッテ居リマセヌ、此點御諒承ヲ願ヒマス

○濱野委員 今ノ政府委員ノ御答辯デ、日本ノ海運界ガ數年前ト比シテ景氣ガ恢復シテ居ラナイトアナタハ言ハレマシタガ、是ハ意見ノ相違ト云フヨリモ、數字ニ依ッテ明カデアリマス、ソレデハ資料ノ提供ヲ求メマスガ、世界各國繋船ニ關スル統計ヲ、此數年來、少クモ昭和四年此方ノモノハ全部御示ヲ願ヒタイ、ソレカラ簡單ニ申上ゲマスガ、定期航路ハ姑ク措イテ、例ヘバ昭和四年ト今日ト云フモノト比較ヲシマス、社外船ガ主トシテ活躍シテ居リマス所ノ南米トカ亞弗利加、大洋洲ナドト云フモノノ貿易ガ著シイ進展ヲ示シテ居リマス、昭和四年ニ南米ニ對スル輸出ヲ日本ノ全輸出ノ比率ニ求メマスルト、四年ニ一デアッタノガ、昭和十年ニハ二・八ニナツテ居ル、亞弗利加デハ「パーセンテージ」ガ昭和四年ニ二・八デアッタモノガ、四倍ノ八・四ニナツテ居ル、金高ニ換算スルト南米、亞弗利加ノ如キハ昭和四年ト十年トノ比ガ一乃至三デアル、中米貿易ノ如キハ八倍半ト云フヤウナ躍進ヲ示シテ居ル、而シテ何ト云ッテモ世界ノ貿易界ニ於テハ日本ノ貿易ノ進展ハ一番著シイ、貿易ニ伴ッテ海運ハ活況ヲ呈スルモノデアアル、サウシテ所謂舊世界ニアラズシテ、新市場ノ開拓ト云フコトガ、今日ノ日本ノ貿易界ノ趨勢デアルトスルト、其

新市場ニ對シテ進出シテ航路ヲ開拓シテ居ル者ハ、大局カラ言フナラバ社外船ノ活躍ノ結果デハナイカ、ダカラ私ハ只今ノ政府委員ノ御言葉デハ聊カ首肯シ兼ネル者デア、今ノ政府委員ノ御言葉デハ、獨占ト云フコトヲ社船ノ擁護ト云フヤウナ言葉ニ解釋セラレタ、言葉ノ解釋ハドウデモ宜イガ、

私ノハ先ニ獨占ト申シタ意味ハ、即チ何モ政府ガ社船ヲ擁護スルト云フヤウナ立場ヲ執リ勝チダト云フコトヲ申シタノデアリマセヌカ、併シ本法運用ノ結果ハ結局サウ云フコトニ墮シテ行カナイカト言フノデス、大資本ヲ擁スル既成會社ノ獨占ニ墮シテ行カナイカト言フノデス、ダカラソレニ對シテ政府ハドウ云フ用意ヲ持ッテ居ルカ、ドウ云フ考慮ヲ今カラ拂ッテ居ルカト言フノデス、先程モ申上ゲタ通り政府ノ力ニ依ル所ノ統制、政府ガ幾分ナリトモ干渉ナサル所ノ統制ハ、總テ立法當時ニ於テハ完全ニシテ良イヤウナ方面バカリノ説明ヲ受ケテ居リマス、安全ニ業界ガ統制サレテ健全ナル發達ヲ遂ゲル結果ハ、消費者若クハ利用者ノ利益ニナルノダト云フヤウニ説明サレテ居ッテ、事實其經過ハ甚ダ面白クナイ、逆ナ「コース」ヲ辿ッテ居ル、ダカラ私モ其點ニ顧ミルト、ヤハリ是モサウ云ッタヤウナ結局

ハ海運ヲ利用スル側ノ人ガ不利益ヲ受ケルノデハナイカ、消費者ト云フ言葉ハ當ラナイカモ知レマセヌガ、利用者側ニ於テドウ云フ結果ヲ生ズルカト云フコトヲ考ヘテ居ルノデアリマス、其點ニ對シテドウ云フ御用意ガアルカト云フコトヲ伺ッタニ過ギマセヌ、モウ一遍御説明ヲ御願致シマス

○頼母木國務大臣 此法案ガ既設ノ大會社、即チ大資本ヲ擁護スル結果ニナリハシナイカ、又サウ云フ結果ニナラヌヤウニスル方法ヲ何カ考ヘテ居ルカト云フ御質問ダラウト思ヒマス、濱野君ノ先程仰シヤッタヤウニ、兎ニ角日本ノ海運業ハ所謂社外船ト云フモノノ自由ナ行動ニ依ッテ發達シテ參タコトハ確ニ事實デアリマス、ソレニ對シテ從來政府ガ何等ノ考慮モ拂ッテ居ナイト云フコトハ誤ッテ居ル態度デハナイカ、私ハ斯ウ考ヘテ居ル、定期航路ニ對シテ國家ガ補助ヲ與ヘテ居リマス理由ハ、遞信省ハ特別會計ニナッテ居リマスガ、アノ郵便其他ノ事業、此郵便等ノ貨物ヲ其定期船ニ日ヲ決メテ積出シテ、其運輸ヲスルト云フヤウナ一ツノ大ナル使命、之ニ對スル所謂補助デアルト同時ニ、一ツノ命令ヲ受ケテソレヲ遂行スルト云フコトニ依ッテ、自由ナ運輸業者トシテハ非常ニ不利益ナ立場ニアル場合

ガ多イノデアリマス、或處ニ自由ナ行動ガ執レルナラバ、何處ノ港ニハ斯ウ云フ大貨物が積マレテ居ル、斯ウ云フ客ガ待ッテ居ル、其處ヘ直グニ其船ヲ向ケテ

〔委員長退席、清委員長代理著席〕

ソレヲ積ンデ自由ニ航海スルト云フコトハ會社トシテハ大變ナ利益デアリマスガ、一定ノ日ヲ定メラレテ、所謂回數ヲ決メラレテ、ソシテ時間ヲ決メテ定期ニ運輸スルト云フコトハ一ツノ義務デアリマス、其義務ニ對スル一ツノ報酬デアアルノデモアルノデアリマスシ、必シモ大會社ヲ擁護スルト云フ立前デ出來テ居ルモノデナクシテ、無論國策カラ定期航路ヲ開イテ、サウシテ日本國家ガ之ニ補助ヲ與ヘテ發達セシムルト云フ趣旨ハ十分ニアリマスケレドモ、其趣旨バカリデハナイノデアリマシテ、サウ云フヤウナ義務ヲ有シテ居ルノデアリマス、併シモウ一ツハ十年前ニ私ガ遞信省ニ御厄介ニナッテ居リマス時ニ東阿弗利加ニ航路ヲ開始致シマシタ、其當時ハ東阿弗利加ニ定期航路ヲ開クト云フコトハ相當ニ冒險ノ仕事デアッタと思フノデアリマス、是ハ日本ノ貿易ガ東阿弗利加ニ發展致シテ居ッタカラデモナケレバ、又其方面ニ日本ノ船ガ澤山進出シテ居ッタ譯デモナイノデアリマス、初メ

ハ郵船會社ヲシテ其航路ニ當ラシメタイ——大會社ノ力デナケレバ永續ノ見込ガアリマセヌカラ、郵船會社ヲシテ當ラシメタイト思ヒマシタガ、郵船會社ハ之ヲ辭退シマシテ、大阪商船會社ガ進ンデ其航路ニ當リタイト云フコトデ、慥カ四十萬圓ノ補助ノ下ニ十年前ニ航路ヲ開始シタノデアリマス、是ガ今日ハ非常ナ成功ヲ致シマシテ、今日ハ補助モ三十萬圓ニ減ッテ居リマス、而シテ商船會社ハ山下汽船ニ自分ノ積ム貨物ヲ分ケテ、山下汽船ヲシテ協調シテ運輸ノ事業ニ當ッテ居ルヤウナ盛況ヲ今日ハ見テ居ルノデアリマス、此航路補助ニ關スル問題ハ十分ニ考ヘナケレバナラヌコトデアリマシテ、將來ニ見透シヲ付ケテ

〔清委員長代理退席、委員長著席〕

開始スル場合モアリ、又是ハ日本ノ面目トシテ此間ノ航路ハドウシテモ日本ガ獨占ヲシナケレバナラヌト云フ見地ノ下ニヤラナケレバナラヌ場合モアリ、又貿易ノ進展ニ促サレテ進出スル場合モアリ、色々様々ノ場合ガアルト考ヘルノデアリマス、兎ニモ角ニモ明治初年以來爲シ來ッテ所ノ航路補助ノ問題ニ付キマシテハ今日ハ再檢討ヲスル必要アリト認メマス、殊ニ私ガ洵ニ遺憾ト存ジテ居ル所ハ、大西洋ノ航路デアリマ

ス、此航路ニ日本船が未ダ進入ラシテ居ナイノデアリマス、之ニ優秀ナ船ヲ以テ世界列強ト伍シテ其競争ニ参加シテ、而シテ我國ノ海運業が大西洋ニモ進出スルト云フコトハ國威ヲ發揚スル上ニモ必要デアリ、又日本トシテハドウシテモヤラナケレバナラヌト考ヘマスカラ、斯ウ云フ所ヘ社外船ガ優秀ノ船ヲ以テ進出スルト云フコトデアラナラバ、私共ハ十分ニ考ヘナケレバナラヌ、殊ニ新シイ航路ヲ社外船が見出シテ、ソレニ從事シテ行クト云フコトガアルナラバ、是モ十分考ヘテヤラナケレバナラヌト考ヘマス、是ハ英國ノ補助法ニモ倣ヒマシテ私ハ必ズ再檢討ラシテ、成案ヲ得マシタラバ又御協賛ヲ求メル場合ガアルト信ジテ居リマス

○濱野委員 只今大臣ノ御説明デ政府ガ補助航路ニ對シテ再檢討セラレ社船社外船ヲ同一視スベシト云フ御言明ハ私ハ満足致シマス、實際今マデ日本ノ海運界ニ對シテ政府ノ採リ來レル唯一ノ政策ハ有力ナル會社ニ金ヲヤルト云フコト以外ニ、何等ノ方法ヲ講ジテ居ラナカッタノデアリマス、ソレガ「ハンデキヤップ」トナッテ當然ニ發達スベキ運命ヲ持ッテ居ル社外船ガ案外左様ナ状態ニ立到ッテ居ラナイト云フコトハ、政

府ガ既成ノ大會社ニ金ダケヤレバ宜イノダト云フサウ云フ立前ガ宜シクナカッタノデアリマス、事ハ甚ダ小デアリマスガ、一例ヲ私ハ御參考ニ申上ゲテ置キタイト思フ、今日ノ日本ノ海運界ハ海事統計ノ示ス所ニ依ルト、四千隻五百萬噸ト云フ莫大ナ數ヲ

バ算ヘテ居リマシテ、其六割三分マデハ海外航路ニ從事シテ居ルト云フコトヲ示サレテ居リマス、私ノ示ス實例ハ内海航路ノ極ク一小部分デアリマスガ、政府ガ命令航路トシテ居ル船ガ自社ノ利益ノ壟斷ニ專ラニシテ、如何ニ沿岸ノ之ヲ利用スル旅客ニ對シテ無關心デアッタカト云フコトノ實例ヲ御參考トシテ申上ゲタイト思フ、大阪カラ名古屋ニ至ル航路ハ大阪商船會社ノ命令航路ニシテ同社ノ最大ノ利益線トカ聞イテ居ル、其當時——今カラ數十年前ノコトデアリマスガ、百噸位ノチッボケナ船ヲ廻シテ居ッタ、ソレデ荷物ノ運賃ハ高イ、御客サンヲ御客ラシイ扱ヒヲシナイ、マルデ只デ乗セテ呉レテヤルノダト云フヤウナ、ソレハ實ニ耐ヘラルナイヤウナ扱ヒデ、言葉ハ少シ過ギマスガ、御客サンヲ虐待シテ居ッタ、私ガ子供ノ時カラ覺エテ居ル、串本ノ富豪ノ神田ト云フ人ガ沿岸ノ人ノ共鳴ヲ得テ神田汽船ヲ造ッタガ、是ガヤハリ政府ノ命令航路デ

アル商船會社ニ壓倒サレテ遺憾ナ結果ヲ生ジタ、ソレカラ更ニ又沿岸ノ有志ノ共鳴ヲ俟チテ共立汽船ト云フモノガ設立セラレタ、是ハ沿岸ノ人ノ共鳴ヲ得テ資力ノ應援ヲ得テヤッタニ拘ラズヤハリ政府ノ命令航路タル大阪商船ガ暴威ヲ逞ウシテ有ユル競争ノ後、商品デ言フナラバ運賃ノ「ダンピング」ヲヤッタ、サウシテ一方ガ潰レテシマフト、ソレヲ安イ値デ買収シテシマフト云フアリ來リノ途ヲ取ッテソレモ潰シテシマッタ、ソレ

カラ私ノ村ノ富豪ガ獨力デヤリ出シタ、是モヤハリ沿岸ノ人達ガ非常ニ贊成シテ呉レタノデアアルガ、同一「コース」ヲ取ッテヤハリ潰レテシマッタ、最後ニハ和歌山カラ伊勢ニ至ル沿岸ノ全有力者ガ全部株主ニナルト云フヤウナ有力ナ會社ガ出來テ大阪商船ト覇ヲ爭ウタノデアリマスガ、例ニ依ッテ是モ一年經タヌ内ニ影モ形モナク潰レテシマフヤウナ酷イ目ニ遭ッタ、其後ト云フモノハ大阪商船ト云フモノガ非常ナ暴威ヲ振ッテドウニモ仕様ガナカッタ、所ガ幸ニ紀州ノ紀勢線ト云フ汽車ガ出來ルヤウニナリ、紀州ノ人達ハアノ國有鐵道ガ紀州ノ沿岸ニ出來タト云フコト、ソレ自體ヲ喜ブト共ニ、ソレニ刺戟サレマシテ、商船會社ガ鐵道ガ敷設スル機運ガ迫ッテ來マスルト、今デハ丁度別府

ノ航路ニ匹敵スルヤウナ千六百噸ノ船ヲ廻シテ、旅客ヤ貨物ヲ非常ニ優遇シテ呉レルヤウニナリマシタ、是ガ非常ニ紀州人ニ取ッテハ鐵道ヲ敷イテ呉レタコト自體ト同ジク嬉シイ、ソレハ鐵道ヲ敷クト云フ機運ガ示サレテ來ルト、内海航路ニ於テ三優秀船ヲ

商船ガ廻シタ、愈々汽車ガ出來テ來ルト云フト運賃ヲ下ゲタ、和歌山カラ田邊マデ汽車ガ付イテ居リマス、サウスルト今マデ四圓バカリシテ居ッタ運賃ヲ二圓五十錢ニ下ゲタ、沿岸ノ汽車ガ通ジナイ處ハ運賃ヲ値下ゲシマセヌ、此小サナ實例ヲ見テモ、大資本ト云フモノガ群小資本家ヲ壓倒スルコトハ海運界ニ於テモチットモ變ラナイノデス、私ハ此點カラ願ミマシテ、如何ニ今日世界的ニ雄飛シテ、船ハ領土ノ延長ダト云フノデ日本ノ領土ヲ世界ノ最尖端マデ持ッテ行ッテ活躍シテ、社外船ノ人達ガ從來何ノ補助モ受ケズ、政府カラ冷眼視サレテ何等ノ補助ヲ受ケテ居ナカッタ社外船ガ、如何ニ今マデ苦シンデ居ッタカト云フ實情ヲ諒トスルニ餘リアルト思フ、幸ニ此際ニ有力ナル社船ノミニ與ヘラレタ補助航路ニ對シテハ再檢討ヲ加ヘラレルト云フ御言明ハ早速私ハ實現セラルルヤウナ機運ヲ醸成シテ貰ヒタイト思フノデス、更ニ又大體カラ言フト、

此内閣ハ庶政一新ト云フコトヲ言テ居リマスガ、庶政一新ト云フコトハ、私達ノ解スル所ニ依リマスルト、既成ノ勢力ニ或種ノ抑壓ヲ加ヘテ、新興ノ勢力ヲ十分ニ羽翼ヲ發揮サセヨウト云フコトガ含マレテ居ルコトデアルト思フノデス、自由競争ノ爲ニ、サウシテ又政府ノ溫室的ノ保護ノ爲ニ、大ニ愈、大ヲ加ヘテ居タ累加シテ居タ所ノ既成ノ勢力ヲバ、此儘助長シテハイカヌ却テ新興勢力ニ充分活躍セシムベシト云フコトガ、庶政一新ノ内容ヲ成スモノダト思フ、サウスルナラバ世界ノ各方面ニ於テ貿易界ノ伸展ニ連レテ、其第一線ヲ承テ居リマスル敢爲ノ精神ニ富ンデ居ル群小社外線ノ企業家ニ對シテ、十分ニ志ヲ展ベテ、世界的ニ活躍スルヤウナ機運ヲ與ヘラレルト云フコトガ現内閣ノ使命トモ合スルコトデアルト思フノデス、私ハ今ノ大臣ノ御説明ガ一日モ早ク實現セラレマシテ、此社外船ト云フモノガ愈、活躍スル機運ガ現レルヤウニ是非御取計ヒヲ願ヒ、至急ニ實現シテ貰ヒタイト思フ

ソコデ私ガ次ニ伺ヒタイノハ、此法律ガ愈、實施サレタ曉ニ於テ、勿論是ハ何デスカ、航路統制委員會ニ掛ケラレテ經營事業ノ制限トカ禁止ト云フコトニナル、サウス

ルト制限禁止ヲ受ケタモノニ對スル救済方法ハドウナルノデスカ、政府側カラ言フナラバ、委員會ノ慎重ナル審議ヲ經タト言フカ分リマセヌケレドモ、之ニ對シテハ本當

ヲ言フナラバ憲法上ニ許サレテ居ル所ノ營業ノ自由ト云フモノニ對シテ頭カラ抑ヘ付ケラレテシマツテ、營業ヲ禁止セラレテシマフ、一ツノ航路ノ禁止ハ社外船其モノニ取ッテハ全生命ヲ奪ハレルコトニナルダラウト思フ、之ニ對シテ此政府ノ行政行爲ニ對スル救済方法ハ此法律ニ於テハ豫見シテ居ルノデアリマスカ、營業ノ自由ヲ剝奪スルト云フコトハ非常ナル處分デアル、ソコデ之ニ對スル救済ハ行政裁判ヲ仰グト云フコト以外ニ方法ガナイノデスヨ、其競争ノ相手方ニ對シテハ是ハ問題デナイ、政府ノ命令行爲、處分行爲ニ依ッテ營業ヲ禁止サレタリ制限セラレル此救済方法ハ、ドウモ國家ノ行爲デアルカラシテ、救済ヲ仰ガウトスルナラバ、行政裁判ヲ仰グヨリ外現在ノ機構デハ許サレテ居ナイト思フ、然ルニ行政裁判所ニ之ヲバ争ッテ、政府ノ行爲ノ不當ヲ鳴ラス場合ニ當ッテハ、此原因ガ制限セラレテ居ル、即チ行政廳ノ違法處分ニ關スル行政裁判ト云フ法律ヲ見レバ、ドウモ之ニ當リサウナ所ガナイ、此法律ノ營業免許ノ拒否

又ハ取消ト云フ文字ニ該當スルカト考ヘテ見ルガ、海運業ト云フモノハ免許ト云フコトヲ前提トシナイ、全ク自由企業デアル、サウスルト免許ノ拒否取消ニハ當ラナイ、行政裁判所ノ訴訟原因ハ特殊ノ法律ノ規定ガアルカ、然ラズンバ只今讀上ゲマシタ法律ニ定メテ居ル場合デナケレバ、行政行爲、處分行爲ニ對シテ不服ヲ申立テル方法ガ許サレテ居ラナイヤウニ思フ、政府ハ此處分ニ對シテハ救済スル方法ハドウ云フヤウナ工合ニ考ヘテ居ラレマスカ、此點或ハ私ノ寡聞デアルカ分リマセヌカラ御説明ヲ願ヒマス

○小野政府委員 此點ガ此統制委員會デ慎重ナ審査ヲ致シマシタ結果不當ナモノデアルト云フコトニナリマシテ、最後ノ行政處分ヲスル次第デアリマスルガ、不當ナ競争ヲシテ最後ノ處分ヲ受ケマシタモノニ付テハ、今濱野サンノ御解釋ノ如ク實ハ補償ノ制度ヲ設ケテ居ラナイノデアリマス、ソレハ色々ナ議論モアリマセウガ、海運ト云フノハ御承知ノヤウニ非常ニ自由ナ行動ガ出來ル、競争ヲシヨウト思ヘバ直グ出來ル性質ノモノデアアルノデアリマス、ソコデ此場合一々ソレヲ制限シテ一々之ニ補償ヲヤルト云フヤウナコトハ統一出來ナイノデヤナ

イカト云フヤウナ議論ガ結局勝ヲ制シマシテ、要スルニ不當ナ競争ト云フコトノ決定ニハ議論モアリマセウケレドモ、補償ハシナイト云フ結論ニナッタノデアリマス、御諒承ヲ願ヒマス

○濱野委員 第三條ノ不當ナル營業ノ防止ニ關シテ勸告ヲ爲ス、其勸告ニ應ズルヤ否ヤト云フコトハ勸告ヲ受ケタ者ノ自由デアリマスカラ、是ハ問題ニナリマセヌ、併シ第二項ニ航路ノ經營ニ關スル協定ヲ爲スベキコトヲ命ジ、航路ノ經營禁止制限ヲスル、禁止ト云フヤウナ極端ナ場合ニ至ルト、是ハ營業ノ自由ヲ剝奪シテシマフ、今政府委員ノ御説明ニナリマシタ航路統制委員會ノ議ヲ經ルト言ヒマスケレドモ、航路統制委員會ノ議ト云フモノハ、是ハ政府部内ノ一種ノ諮問機關デアリマス、總テハ政府ニ於テ命令シ、政府ニ於テ處分シ、政府ノ全責任ニ於テ制限禁止處分ヲ爲スノデアリマス、隨テ斯ウ云フ憲法上許サレテ居リマスル營業ノ自由ヲ剝奪スルト云フヤウナ場合ニハ、必ズ政府ノ處分ニ對シテ不服ノ申立ノ形ヲ作ッテ行カナケレバナラス、又アナタハ今競争ガ自由デアルト言ハレマシタ、是ハドウモ少シ過ギテ居リマセヌカ、競争ハ自由デアルト言フガ、然ラバ競争ヲシテ命令

ニ違反シタ場合ニ於テハ、五千圓以下ノ罰金ヲ受クルデヤアリマセヌカ、第九條デ「第三條第二項ノ規定ニ依ル航路ノ經營ノ禁止若クハ制限ニ關スル命令又ハ第四條ノ規定ニ依ル命令ニ違反シタル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス」ト定メラレテ居ル、更ニ又第十一條ニハ「海運業者ハ支配人其ノ他ノ代理人又ハ船長其ノ他ノ從業者ガ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基ク命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ズ」第十二條ニハ「法人ノ業務ヲ執行スル役員ニ、未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ其ノ法定代理人ニ之ヲ適用ス」ト剩ス所ナク逃ガス所ナク、處罰ヲ決メテ居ル、ソコデ未成年者又ハ禁治產者ガ、此禁止ニ違反シタ場合、法定代理人ガ五百圓以下ノ過料ニ處セラル、此行為ヲモウ一遍繰返シテヤッタ場合ニハ累犯ニナルデハナイカ、ソナ刑法上ノ細カキコトハ暫ク措キマシテ禁止ト云フモノヲ權威アラシムル爲ニハ、自由競争ガ出來ルノデアルカラ、何時デモ更ニ出直シテヤレルト云フ立前デアッデハ、一體何ノ爲ニ處罰規定ニ於テ、本人ガ知ッデモ知ラヌデモ、支配人或ハ船長、其他ノ從業員ガ背イデモ、本人ガ處罰ヲ受ケルト云フコトニシタノデ

アルカ、條文モ三箇條モ四箇條モ設ケテ、其刑ヲ執行ヲ規定シテ居ル、此法律ノ趣意カラ考ヘテモ、罰金ヲ課セラレテ、サウシテ違反シタ者モ亦自由競争ガ出來ルデヤナイカト云フコトハ、ドウモワカシイ、ソレヨリモ寧ロ進ンデ國家ノ處分行爲ニ依ルモノニ對シテハ、此法律ニ於テ行政裁判所ニ出訴スルコトヲ得トシテ、其命令處分ノ不當ヲ鳴ラシ、不服ヲ鳴ラス方法ヲ設ケテヤル方ガ私ハ至當デアルト思フ、ソレトモ又他ニ行政裁判所ニ於テ斯ウ云フヤウナ出訴ノアツタ時ニハ、斯ウ云フヤウナ條文ニ當嵌ルノデアアルカラ特殊ニ定メル必要ハナイト云フコトモ研究ニナッテ居レバ別デアリマサガ、寡聞ニシテ私ハソレヲ知ラナイ、此點ニ付テモウ一遍御意見ヲ承リタイ

○小野政府委員 最初ニ統制委員會ハ諮問機關デ政府ノ自由勝手ニナルノダト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、實ハ之ハ今ノ演野サンノ御話ニ補償問題ト云フコトガアリマシタ、是ハ初メハ諮問機關ト云フ案デアリマシタケレドモ、之ヲ決議機關ト云フコトニ改メマシテ、此決議ニ從フノダト云フ決議機關ニシタ譯デアリマス、政府部内ノドウデモ勝手ニナルヤウナ委員會デアルト云フヤウナ御話モアリマシタガ、實ハ其點

ニモ非常ニ考慮ヲ拂ヒマシテ、統制委員會ノ構成ニ付キマシテハ、政府ノ役人ハ餘リ出ナイモノデ、私ハ今茲ニ腹案ダケ申上ゲマスガ、官廳側ガ三人、ソレカラ船主側、定期船ヲ代表スル者ノ、社外船、不定期船ヲ代表スル者各三名ヅ、ソレカラ最前モドナタカ申サレマシタガ、船舶利用者側ヲ代表シテ、運賃ガ高イト云フ方面ニ對シテ、船舶ノ利用ヲスル產業方面ノ代表者ト致シマシテ、其方面ノ團體ノ——マダ是ハハッキリ決メテハ居リマセヌガ、商工會議所デアルトカ、貿易關係ノ人達、サウ云フヤウナ代表團體ノ方ヲ入レテ、ソレカラ其他ニ政府部外ノ者、學識經驗ノアル者ヲ五名、斯ウ云フコトニナッテ居ルノデアリマシテ、此統制委員會必ズシモ政府部内ノ機關デナイト云フヤウナコトヲ考慮ノ中ニ入レテ居ル積リデアリマス

ソレカラ自由競争ノ點ニ付キマシテ幾分私ノ申上ゲ方ガ惡カッタカモ知レマセヌガ、一ツノ航路ガアル場合ニ、其他ノ船會社ガソレト競争ノ態度ニ出ルト云フコトハ、割合ニ容易ナコトデヤナイカ、是ハ政府ノ財政ノ問題ニモ關係アリマスルガ、補償ヲ取ル爲ニト云フト少シ語弊ガアリマスガ、競争ヲ仕掛ケテソレデ禁止制限ヲ受ケレバ、

必ズ補償ガ取レルト云フヤウナコトニナルヤウナ弊モアリハシナイダラウカト云フヤウナコトデ様々ノ議論ガアリマシテ、結局統制委員會ヲ非常ニ慎重嚴正ニヤレバ、統制委員會ノ判斷ガ適正デアレバ、不當ナル決定ヲスルト云フコトハナカラウト云フコトデ、金錢ニ依ル補償ハ廢メタノデアリマス、アナタノ御解釋ノ通りニ、他ノ法律ニモ行政裁判又ハ訴願等ノ規定ニモ之ニ依ル補償ノ規定ハナイノデアリマス、サウ云フコトニナッテ居リマス

○濱野委員 政府委員ハ私ノ申シタコトヲ御聞達ニナッテ居ル、アナタハ補償ト云フ言葉ヲ盛ンニ使ハレタ、補償ト云フノハ金錢上ノ禁止若クハ制限カラ來タ損害賠償ト云フ氣持デアリマセウガ、私ノ言フノハ金錢上ノ問題デヤナイ、寧ロ金錢上ノ問題デナクシテ、憲法上動カスコトノ出來ナイ營業上ノ自由ト云フモノヲ法律ニ基イテ禁止又ハ制限セラレタ行政處分行爲ニ對シテ、國民ハ當然ソレガ不當ナル場合ニ爭フコトヲ得ルコトハ、立憲國ニ於テ許サレタ權利デアル、其結果トシテ不當處分ナリト行政裁判デ勝訴ノ結果損害賠償ヲ要求スルコトハ當然デアル、枉屈セラレタル命令ニ依ッテ國民ノ權利ヲ伸張スルニハドウシタラ宜イ

カ、平タク言ヘバ行政處分行爲ニ對シテノ不服ノ申立ハ、ドウ云フ風ニシテ申立テルコトヲ許シテ居ルノデアルカト云フコトヲ伺ヒタイ、其結果カラ來ル損害賠償ト云フモノハ、政府ノ行爲ガ不當ナリト云フコトヲ定メタ後デナケレバ損害賠償ト云フコトハ出來ナイ、凡ソ今日ノ法律ヲ少シデモ知ッテ居ル者ハ、國家ノ處分行爲、公法上ノ行爲カラシタコトデ、政府ノ誤リダト云フコトガ行政裁判所ノミデ判定サレルモノデアルト云フ立前デアルコトハ吾々承知シテ居ル、是ハアナタノ方デ少シ御間違ガアル

ソレカラモウ一ツ伺ヒタイノハ政府委員ハ航路統制委員會ノ構成ニ付テ説明サレテ、官廳側ガ三人、船主側、定期社船、社外、不定期、利用者各三人ト云フ御説明ガアツタ、ソレデ航路統制委員會ト云フモノハ政府側ニノミ加擔スルトハ言ハレナイト申サレタガ、是ハドウモワカシイ、今日日本ノ海運界ノ會社ノ現況ヲ見ルト、郵船會社、商船會社ハ自分ノ系統ノ會社ヲ澤山持ッテ居ル、所謂親會社トデモ申シマセウカ、母系・子系ト云フ會社ヲ澤山持ッテ居ル、ダカラ政府ガ愈、此法律ノ威力ヲ發動シナケレバナライト云ッテ航路統制委員會ニ掛ケル場合ニ於テハ、恐ラク今日ノ海運ニ從事

スル會社ハ、親トシテカ子トシテカ、母會社トシテカ子會社トシテカ、其何レカニ於テ利害關係ヲ直接間接ニ持ッテ居ル、サウ云フ人達ガ定期デアラウガ、社外デアラウガ、不定期デアラウガ、サウ云ッタ人達ノ關係シテ居ル此委員會ノ決定ガ、必ズシモ全部妥當ダト誰ガ言ヒ得マセウカ、ソレナラ伺ヒマスガ、決議機關デアレバ、政府ハ其決議ニ從ハナケレバナラヌト云フコトヲ意味シマスガ、ドウ云フコトデスカ、航路統制委員會ハ決議機關デアルト云フコトデアレバ、政府ハ其決議ニ從ヒマスカ

○小野政府委員 決議機關トアレバ其決議ニ拘束サレルノデアリマス

○濱野委員 拘束サレルニシタ所デ政府ノ責任ハ解ケマセヌ、之ヲ命令スルモノハ政府デアリ、執行スルモノハ政府デアリマセウ、罰金ヲ取ルノハ政府デアアル、ドウモ御間違ニナッテ居ル、金錢上ノ損害賠償ヲ私ハ意味シテ居ルノデハアリマセヌ、國家ノ不法ナリト考ヘラル、所ノ處分ヲ受ケタ側カラシテ、不當ナリ、不法ナリト考ヘラレル所ノ政府ノ處分行爲ニ對シテドウシテ枉屈ヲ述ベルカト云フノデス、ソレヲ許サレナクテ、當航路統制委員會ノ審議デ決定シテ、政府ハ其決定ニ從ハウンダ

ト言ウテ附加ケテシマッタラ、立憲國ノ國民ノ營業ノ自由ト云フモノハドウシテ保障サレルノデスカ、是ハ重大ナ問題デス、政府ハ充分考慮サルベキダ、ソレカラモウ一ツ伺ヒタイノハ、今航路ヲ或ハ禁止制限サレタ人達ハ、是ハ今ノ方法ニ依ッテ或ハ不服ヲ許スカ、許サレヌカノ問題ガ起リマスルガ問題ヲ改メテ今度ハ此禁止ノ結果トシテ失業シタル船員ニ對シテ、政府ハドウ云フ考慮ヲ拂ッテ居ルカ聽イテ見タイノデス、是ハ重大ナ問題ダラウト思フ、船主ノ爲シタコトニ對シテ政府ガ命令ヲ發動スル、サウシテ必然的ニ其船ハ當分ノ間失業シナケレバナラヌデセウ、或ハ又政府委員ノ言葉ヲ借りテ言ヘバ、海運界ハ競争ガ自由デアアルカラ、營業停止ノ爲ニ災難ニ出會シタ所ノ船ハ他ノ方面ヘ出動スレバ宜イト、一口ニ其机上カラ言ハレルカ分リマセヌガ、サウハ行カヌデセウ、一生懸命ニナッテ其航路一ツヲ守ッテ居ッテ、所謂委員會カラ不正競争ノ目標、不當競争場ダト認メラレル程ニマデ血ヲ流シテ眞劍ニ爭ッテ其航路ダケヲ死守シテ居ッタ其社外船主ニ取ッテハ、處分行爲ト云フモノハ致命傷ダ、サウスルトソレト共ニ其船ニ乗ッテ居ル所ノ失業船員ハドウ云フ風ナ工合ニナルノ

デスカ、是ハドウ云フ風ニ御考ニナッテ居リマスガ、此場合ニ甚ダ細カイデスカ、商法五百八十一條ノ五ニ依ッテ、海員ハドウ云フヤウナ待遇ヲ受ケルカト云フコトヲ考ヘルノデス、之ニ對シテハ政府ハ何カ考ヘテヤッテ居ラレマスガ

○小野政府委員 是ハ運用ノ問題デアラウト思ヒマスガ、航路ヲ禁止シテ失業者ガ出來ルト云フヤウナ、切迫シタ場合ニ禁止スルカドウカト云フコトハ極メテ運用ヲ慎マナケレバナラヌコトデアラウト思ヒマス、ソコデ假ニサウ云フ強烈ナル作用ヲヤッテ失業者ガ出來タト云フヤウナ場合ニハ、今ノ御話ノ商法其他ノ救済ト云フ外ハ現在ナイノデアリマス、併シ申上ゲマシタヤウニ失業者ヲ直接出スト云フヤウナコトニ運用ガ行クト云フ場合ニハ、餘程政府トシテモ慎重ナ態度ヲ執ルモノト私ハ心得テ居リマス

○濱野委員 最惡ノ場合ニ禁止處分ト云フヤウナモノガ加ハル場合ニ於テハ、殆ド其競争ハ血ヲ見ルヤウナ競争狀態ヲ激成シテ居ル場合デアルト私ハ考ヘル、勿論是ハ船主ノミガ受ケルコトデアッテ、海員トシテハ直接ノ問題デハナイカモ知リマセヌガ、私ハ寧ロ此點ヲ重視シテヤルト云フコトガ、

政府トシテ考ヘルベキコトデアルト思フ、

是ハ又此行政處分ニ對スル不服ノ方法ニ付テ關聯シテ伺ヒタイト思ヒマスルガ、ドウモ

商法ノ條文ノドレヲ考ヘテ見テモ、是ガ不

可抗力ト言ヘルカドウカ、政府ノ命令ニ依ッ

テ其船ガ運航ガ止ッテ、サウシテ失業シタ場

合ニ於テハ、商法ニ言フ所ノ不可抗カニ當

ルカドウカト云フヤウナ場合、サウスルト

云フト海員ハ不可抗カニ當レバ雇止ニナル

シ、當ラネバ船員ハドウナルカ、何レニシ

テモ困ッタ狀態ガ現出スルト思ヒマス、政府

ハ先ヅ斯ウ云フ點カラ能ク考ヘテヤラナ

ケレバナラナイノデス、勿論コンナ點モ航

路統制委員會デ考ヘルト今言ハレマシタケ

レドモ、緒テ其時ニナッテ見ルト云フト、サ

ウ云フヤウナコトハ餘リ考ヘラレズシテ、

唯利害ノ打算ト云フコトガ中心ニナルノデ

ヤナカラウカト云フコトヲ私ハ十分ニ心配

シテ居リマスルカラ、此點ヲ政府ニ於テ十

分考慮シテ貰ヒタイト思ヒマス、私ノ當面

ノ質問ハ之ヲ以テ打切りニシマシテ、又後

デ關聯シテ伺ヒマス

○戸澤委員長 一寸濱野君ニ伺ヒマスガ、

サッキノ參考書類ノ提出ヲ求メラレマスカ

ッテ下サイ

○濱野委員 世界ノ主要海運國ノ繫船狀態、隻數トソレカラ百分比

○小野政府委員 一寸其點ニ付キマシテ、

私ト濱野サンノト同意見ヂヤナイカト思ヒ

マスガ、私ハ海運界ガ非常ニ不況デアルト

斯ウ申上ゲタヤウニ御取リニナリマシタケ

レドモ、東洋ハ非常ニ良クナッテ居リマス

ガ、歐羅巴方面ガ東洋近海程良クナッテ居

ラス、ソレハ歐洲戰前ト最近ノ荷動キノ指

數ト船舶増加ノ指數トヲ見マシテモ、向フ

ハ二、三年前ヨリモ勿論良クナッテ居リマ

ス、日本モ勿論良クナッテ居リマス、ソレデ

比較的良クナッテ居ルガ、マダ安心スル譯ニ

行カス、斯ウ云フコトヲ申上ゲタノデアリ

マシテ、良クナッテ居ルコトハ勿論認メテ居

リマス、統計ハ差上ゲマスカラ……

○濱野委員 私ハ強ヒテ言葉爭ヒマスルノ

ヂヤアリマセスガ、私ノ主張ハ、今日ノ日

本ノ國策トシテ先ヅ貿易立國ト云フヤウナ

コトヲ叫バレテ居リマス、ソレニハ我國ノ

海運ノ進展ガ第一線ニ立ッテ居ルノデアル、

サウシテナタガ先程言ハレマシタ、數年

前ニ社外船カラ進ンデ統制ヲ要望シタ時

代ト今日トハ大イニ趣ヲ異ニシテ居ル、狀

ニ立ッテ居ルノミナラズ、日本ノ海運界ノ向
上ト言ヒマスカ、日本ノ國策デアル所ノ、
世界的ニ進展スルト云フコトガ當面ニ且
ツ將來可ナリノ年數ニ互ッテ肯定サレタ
ル事實ナノデス、數年以前ト大變違ッテ居
ルト云フコトヲ申シタノデアリマスガ、ソ
レニ對シテ繫船數ガ段々動イテ居ルノヂヤ
ナイカト云フ所ニアッタノデスカラ、政府ニ
於テ十分ニ、數年前ノ社外船ノ人々ガ斯ウ
云フ要求ヲシタカラ今日政府ガ進ンデ爲ス
ト云フコトハ、當然ダト云フヤウナ御考ヲ
持ッテ居ラズ、當年ト事情ヲ異ニスルト云
フコトヲハッキリト認識サレテ、サウシテ
現状ニ明ナ認識ヲ有タレルナラバ、私ハ強
ヒテソレハ求メマセヌ

○賴母本國務大臣 濱野君ニ一言申上ゲタ
イノデアリマスガ、ソレハ此統制法ガ日本
ノ海運業ノ發達ヲ阻碍スル爲ニ出來テ居ル、
又將來サウ云フヤウナコトニナリハシナイ
カト云フコトガ濱野君ノ憂慮セラレル重點
デアルト私ハ思ヒマス、私ハ昨日ノ分科會
ニ於テモ言明致シマシタ通り、私ハ只今ノ日
本ハ世界ノ第三ノ海運國デアリ、五百萬噸
ヲ有シテ居リマスガ、其中四百萬噸ガ優秀
船デ、アトノ百萬噸ト云フモノハ劣等ナ船
デアル、私ノ目標ト致シテ居ルコトハ、優秀
船ヲ將來ニ於テ六百萬噸、一位ヲ目指シテ
ハ無謀カモ知レマセヌガ、兎角實力ニ於テ
世界ノ大海運國デアルダケニハ進マナケレ
バナラスト思ッテ居リマス、其意味ニ於テ此
統制法ヲ必要トスルノデアリマス、國內ノ
船ガ互ニ競争ヲシテ、内輪同士デ、鎗ヲ削ッ
テ、互ニ傷ツイテ倒レル、ソレヲ止シテ、サウ
シテ進ンデ世界ノ大海運國ト競争ヲスル、
實力ヲ蓄ヘテ競争ヲサセタイ、未ダ日本ノ
船ガ世界ノ海運國ト一緒ニ進ンデ行クベキ
所ハ澤山アリマスカラ、其方面ニ力ヲ持ッテ
行キタイ、ソレデ日本船ト日本船トノ競争
ハ之ヲ避ケサセタイ、此法律ハ將來ニ向ッテ
ノ法律デアリマシテ、補償問題モ今出テ居
リマスガ、現在長年ノ間ヤッテ居ル航路ヲ
全然之ヲ廢メサスト云フヤウナ趣旨デア
リマセヌ、ドウゾサウ云フヤウニ御考下サッ
テ、此案ヲ成タケ成立致シマスルヤウニ、
御盡力ヲ願ヒタイト思ヒマス

○濱野委員 私モ全く其趣旨ヲ同ジクスル
ノデス、此統制法ガ海運ノ發達ヲ阻碍スル
トハ考ヘテ居リマセヌ、唯法律ノ豫想シテ
居ルラシイヤウナ、第四條ノ獨占ト云フヤ
ウナ弊害ヲバ、結果トシテ招來スルノデハ
ナカラウカト云フコトヲ憂ヘテ居リマスル
ノト、ソレカラ從來全く自由主義ヲ傳統ト

シテ居ッタ所ノ英吉利ノ如キモ、昨年ノ四月

カラ社外船ト言ヒマスカ、不定期航路船ノ

運營ニ對シテ、二百萬磅ノ補助金ヲ出シテ

居ル、次デ千萬磅ノ低利資金ヲ融通シテ、

社外船ノ船質ノ改造、或ハ又船ノ改造ト云

フコトニ、低利資金ヲ千萬磅マデ支出シ、

融通シテ、サウシテ此所謂日本デ言ヘバ社

外船、不定期航路ノ補助助成ニ努メテ居ル、

從來全ク自由放任デアッタ英吉利ガ、斯ウ云

フヤウニ社外船ノ保護ニ努力スルト云フ、

急轉回ヲシタト云フ事實カラ考ヘマシテ

モ、私達ハ日本ノ社外船、不定期船ニ充分

ニ政府ガ保護助成スベキダと思フ、今日ノ

日本ノ國策カラ見テモ、社外船ノ十分ナル

活躍ヲ必要トスルノダト云フ、國策上カラ

見マシテモ、ドウカ十分ノ保護ト助長ヲバ

社外船ニ與ヘラル、コトガ、當然デアルト

云フ希望ヲ述べタノデアリマス、幸ニ今ノ

大臣ノ御説明ニ依ッテ、吾々ノ憂トスル所ニ

付テモ、十分ニ檢討ヲセラレテ居リ、先程

補助ト云フコトニ付テハ再檢討スルト云フ

御言明ヲ得マシタノデ、私ハ之ヲ以テ満足

シマス

○戸澤委員長 濱野サン、宜シウゴザイマ

スカ

○小山委員 今ノニ關聯シテ一寸質問申上

ゲタイ、私ハ海運ノ方ニ付テハ十七年間實

際自分ガ船乗りヲシテ居リマシタノデ、其

點ハ恐ラク管船局長ヨリモ細カク知ッテ居

ル積リデアリマス、デスカ私ハ意地悪い

質問ハシタクナイノデアリマス、デアリマ

スガ一寸伺ヒタイコトハ大臣ガ只今優秀

船ヲ建造シタイ爲ニ、斯ウ云フ統制ヲ行フ

ノダト云フコトヲ御話ニナリマシタ、私ハ

是ハ大變ナ間違デハナイカト考ヘテ居リマ

ス

○賴母木國務大臣 サウ云フコトハ申シマ

セヌ

○小山委員 澤山ノ優秀船ヲ御造リニナル

ト云フ……

○戸澤委員長 優秀船トハ言ハナイ

○小山委員 六百萬噸ノ優秀船ヲ造リタイ

ト云フ御考デ仰シヤッタノデハゴザイマセ

ヌカ

○戸澤委員長 優秀船ハ別ノ問題デス

○小山委員 左様デスカ、ソレナラバ又後

ニ致シマス

○戸澤委員長 次ハ船田君

○船田委員 質問ニ入ル前一寸伺ヒマス

ガ、外務省ノドナタカ御見エニナッテ居リマ

○小野政府委員 御見エニナッテ居リマス

○船田委員 私ハ大臣ニ向ッテ我國ノ海運

政策ノ根本問題ニ付テ、昨日豫算分科會ニ

於キマシテ大體ノ御方針ヲ伺ッタノデアリ

マス、其中ニハ只今濱野君ノ質問セラレマ

シタ航路補助ノ問題ニ付テ、從來ノ政府ガ

ヤッテ居リマシタ優秀船ノミヲ尊重スルト

云フヤリ方ニ付テ、再檢討ヲスルト云フ、

是ハ度々ノ御言明デアリマシタ、隨テソレ

ニ信賴ヲシ、又ソレヲ希望スルモノデアリ

マス、又只今不定期船ニ付テノ補助ノ問題、

之ニ付テモ今大體ノ御方針ヲ御示シナリ

マシタ、其點ハ諒解ヲ致シマシテ、アト海

運政策トシテノ根本方針トシテ承ッテ置キ

タイコトノ一ツハ、船舶行政ノ統一ノ問題、

是モ昨日分科會ニ於テ大體私ノ質問申上、デ

タコトニ御同感デアラル、ヤウニ承ッタノ

デアリマスルガ、此船舶行政上極メテ重要

ナル意義ヲ持ツ船舶統制法ノ法案ヲ審議ス

ルニ當リマシテ、内外地ノ船舶行政ニ對ス

ル政府ノ御方針、申ス迄モナク船ハ内地ニ籍

ヲ置クト外地ニ籍ヲ置クトヲ問ハズシテ、

又廣ク言ヘバ日本船タルト外國船タルトラ

問ハズ、自由ニ航海上ニ於テ競争シ得ル立

場ニアルノデスカ、殊ニ昨年モ大連汽船ノ

アルノデアリマスルガ、ソレハ一日モ早ク

此船舶行政ノ統一ヲ圖リ、船會社同士ノ統

一ヲ圖ルト云フコトモ必要デアリマセウ

ガ、ソレ以上ニ其監督官廳デアル所ノ政府

ノ意圖ガ二途ニ出デ居ルト云フヤウナコト

ハ、最モ是ハ速ニ統制スベキモノデハナイ

カ、即チ官廳同士ノ統制、即チ政府ノ船舶

行政ニ對スル統一ノ方ガ先決問題デナイカ

ト思ヒマスガ、其點ニ付テノ政府トシテノ

御方針ヲ此機會ニ明瞭ニシテ載キタイノデ

アリマス

○賴母木國務大臣 船田君ノ御質問ノ趣意

ニハ、全然同感デアリマシテ、政府ト致シ

マシテハ内外地ノ船舶行政ヲ統一シタイト

考ヘマシテ、其準備ヲ著々進メテ居リマス

○船田委員 モウ一ツ政策ノ問題トシテ重

要ナ問題ハ、船舶ノ素質ヲ改善スル、只今

ノ大臣ガ御言明ニナリマシタヤウニ、所謂

優秀船ヲ造ッテ行クト云フコトニ付キマシ

テハ、昭和七年初メテ我國ニ於テ船舶改善

ノ施設ヲ致スコトニナリマシタ、是ガ世界

ニモ非常ナ影響ヲ與ヘタノデアリマスルガ、

ソレト共ニ船舶金融或ハ海事金融ノ問題ニ

付テ、其必要ガ痛感セラレツ、アルノデア

リマスルガ、此海事金融又ハ船舶金融機關ノ

如何デアリマスカ、此點ヲ先づ根本問題トシテ大臣ニ伺ヒタイ

○頼母木國務大臣 海運金融ニ付キマシテハ、衆議院、貴族院等ニ於テモ多年論議盡サレタ問題デアリマシテ、是ハモウ輿論ノ歸一ヲ見タ問題デアルト考ヘマス、政府ニ於テモ十分其コトニ付テハ考慮ヲ致シテ居リマスガ、只今ハ興業銀行ガ大體其衝ニ當ッテ居ルヤウデアリマスケレドモ、マダ十分デナイコトヲ認メマス、理想ト致シマシテハ此金融機關ヲ早ク成立サセタイト考ヘテ居リマス

○船田委員 前提トシテ伺ッテ置キタイ、大體ノ問題ハ、只今大臣ノ御言明ヲ得マシタカラ此程度ニシマシテ、次ニ此航路統制法案制定ノ理由デアリマスガ、政府ノ御説明ニ依リマスルト、將來ノ我國ノ海運ノ發達ヲ圖ルモノデアルト云フ御趣旨デアリマス、其御趣旨ニハ勿論同感デアリマスガ、其船舶統制法案ヲ御制定ニナル理由ノ具體的ノ問題ト致シマシテ、三、伺ッテ見タイノデス、先ヅ第一ニ御伺致シタイコトハ、日本船ノ相互間ニ於テ、所謂無用ノ競争ヲ致シテ居ルト云フヤウナ實例ガ、ドウ云フ方面ノ航路ニ、又ドウ云フヤウナ事情ニ於テ行ハレテ居ルカ、即チ本法制定ヲ緊急ニ致

サナケレバナラヌト云フ具體的ノ理由ノ御説明ヲ願ヒタイト思フノデアリマス

○小野政府委員 此法案ニ依ッテドノ方面ノ相互競争ヲ統制スルカト云フコトニ觸レルノデアリマスガ、實ハ是ガ眞ニ不當ナリト云フコトヲ只今申上ゲルコトハ出來ニクイノデアリマス、今船田テンノ御引例ニナッタ北鮮航路ノ問題ノ如キハ、是ハ政府自體ノ統制モアリマスガ、同ジヤウナ極ク短カイ航路デ前カラヤッテ居ル船會社ハ、毎年十數萬圓ノ損失ヲ招イテ居ルト云フコトハ明瞭デアリマス、ソレニ後カラ他ノ船會社ガ入ッテ來ルヤウナ場合、是ガ極メテ不當ナコトハ明瞭デアリマス、唯現在ドウ云フモノガアルカト云フコトハ私カラ一寸申上ゲ兼ネルノデアリマス、或ハ御質問ノ點ガ世間デ能ク言ハレテ居リマス日蘭問題等ガ是ノ動機トナッタノデハナイカト云フ點ニ觸レテ居ルノデハナイカト思フノデアリマスガ、是ハ世間デモ公知ノ問題デアリマス、私ノ方ト致シマシテハ海運關係ニ對シマシテ日蘭間ニ現在以上ノ船ヲ配船スルコトニ付テハ、慎重ニ考慮ヲ致シテ居ルノデアリマス、從來アノ方面ニ出テ居ル會社ノ申合セニ依リマス、現在以上ニ配船ヲシナイト云フ申合セニナッテ居ルノデアリマス、ダ

カラ日蘭間ノ配船ノ狀況ハ現在デ私ハ十分ダト思ッテ居リマス、所ガ此問題ハ新聞等ニ出テ居リマスガ、海運關係以外ニ外交的ノ問題トナッテ居ルヤウニ私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、今アナタカラ外務省ノ方面ト云フ御話モアリマシタ、外交問題ニ付キマシテハ若シ御尋ノ點ガ其點デアリマシタナラバ、通商局長カラ御答致スコトニ致シマス、其他ノ航路ニ付テドレヲドウ通用スル、ドウ云フ事態ガアルト云フコトハ只今申上ゲ兼ネルノデアリマス、唯斯ウ云フコトガ是モ世間公知ノ事實デアリマスガ、政府ガ優秀船ニ出シタ補助金ガ今ノ助成施設ニ依ッテ一方ノ航路バカリニ集中スルノデアリマス、政府ガ補助金ヲ出シテ其助成船ガ競争スルト云フコトハ國費ヲ濫費スル、斯ウ云フヤウナ議論ガ數年前ノ助成施設ノ當時カラアル、私共モ政府ガ助成金ヲ三十萬、四十萬ト出シテ居ル船カラ、若シ不法ナル爭ガ出來ルト云フヤウナ事態ガアレバ、是ハ相當政府トシテハ其調停監督ヲシナケレバナラヌト思ッテ居リマスガ、今ドノ方面ニ是ガ集中シテ之ヲドウシテ統制スルカト云フコトハ一寸申上ゲ兼ネルノデアリマス

○船田委員 私ガ御伺致シタカッタノハ詰

リ今度ノ統制法ト云フヤウナモノヲ制定スルニ至リマシタ實際ノ必要ガ何處ニ在ルカト云フコトヲ伺ヒタカッタノデアリマス、只今局長カラ御示ニナリマシタ南洋航路ノ問題、是ガ制定ニ至リマシタ主ナ動機デアラウト思フノデアリマス、併シソレダケノ爲メデアルカ、或ハ又其他ニ同ジヤウナ問題ガアッテ、ドウシテモ斯様ナ統制法ヲ制定シナケレバナラヌ實際ノ必要ガアリ、緊急已ムヲ得ザルモノガアルト云フヤウナ實情ニアルカト云フコトヲ、實ハ私此法制ヲ案議スル所ノ資料トシテ伺ッテ置キタカッタ、ソレハ御示シ願ヘナケレバ無理ニモトハ申シマセヌガ、大體デ宜シウゴザイマスカラドウ云フ方面、例ヘバ南米航路ニ付テハドウ云フコトガアルトカ、或ハ太平洋航路ニ付テハドウ云フコトガアルトカ、本法制定ノ動機デアルト思ハレルモノ、或ハ今後豫想セラルベキ其不當ナ、或ハ無用ナ競争ノ實情、ソレヲ御示シ願ヘレバ大變審議上便宜ダト思ヒマス

○小野政府委員 今ノ御質問ノ南洋航路、是ガ動機デ制定シタト云フサウ云フ存念ハナイノデアリマス、私共立案者ト致シマシテハ、大臣ノ御説明ニモアリマシタヤウニ、日本全體ノ海運ノ健全ナル發達ヲ圖ル爲ニ

ハ、最早此程度ノ統制ヲスルニ至ッテ居ル
ト云フコトカラ來テ居ルノデアリマス、實
例如何ト云フコトデアリマスガ、現在二三
アルヤウデアリマス、マダ將來モ相當出テ
來ルドラウト思ヒマスガ、例ヘバ政府ノ助
成ガ有力航路ニ集中スルト云フ非難ガ相當
ニアル、ソレガ命令航路ノ南米方面ノ競争
狀態ヲ誘發シハシナイカト云フヤウナコト
モアルノデアリマス、其他小航路ニ付キマ
シテモ相當アルノデアリマス、之ヲ直チニ
適用スルカドウカト云フコトハ今考ヘテ居
リマセヌガ、統制スルコトノ虞ガ將來出テ
來ハシナイカ、ダカラ斯ウ云フ法案ヲ作ッテ
用意ヲシテ、不法ナル競争ヲ止メサセ、健
全ナル發達ヲヤラセルト云フコトヲ考ヘテ
居ル次第デアリマス、日蘭問題デ此法案ヲ
出シタト云フヤウナコトハ斷ジテナイノデ
アリマス、是ハ實ハ昨年モ貴族院デ此航路
統制法ヲナゼ出サナイカト云フヤウナコト
ガ昨年ノ議會ニモアリマシタガ、私共ト致
シマシテハ數年來カラ考ヘテ居リマス、偶
日蘭問題ガ發生致シマシタカラ、世間ニ
サウ云フ印象ヲ與ヘテ居リマスガ、ソレハ
非常ナ誤解デアリマス

○船田委員 私ハ法制ヲ審議スル上ニ、全
ク素人トシテ見テ何カサウ言ッタヤウナ實

情ガナイノニ拘ラズ斯ウ云フ統制法ヲ出サ

レルト云フ所ニ實ハ疑ガアル、サッキ大臣ノ
御説明ニナリマシタ將來海運發達ノ爲ニト

云フ其根本ノ御趣旨ハ非常ニ贊成ナンデア
リマスガ、併シサッキ濱野君カラモ指摘サ

レ、マシタヤウニ、相當統制ガ強力ナ
統制ニナルドラウト思フ、サウシテ

而モ場合ニ依ッテハ營業ノ禁止ト云フ所マ
デ行カウト云フ法律デアリマスカラ、ソレ

ニハ無用ナ營業ト云フヤウナモノガ現實ニ
起ッテ居ルト云フ事實ガアル場合、或ハ

又サウ云フ營業ガ起ラントスル危險ニ
曝サレテ居ルト云フ場合ニ初メテ統制法

立案ノ必要ガアルノデハナイカト云フ
ヤウナ感ヲ懷クノデアリマス、ソレガ的

確ニ御示ガ願ヘナイト云フノデアレバ、
色々政府ノ祕密モアリマセウカラ、ソレヲ

無理ニ伺ハウトハシマセヌケレドモ、唯全
體のニ見マシテ、ドウモ問題ニナッテ居ル

南洋航路ト云フコトガ主タル目的デハナイ
カト云フヤウニ見エルノデアリマス、又南

洋航路ノ競業ト云フコトガ主タル目的デ
アッテモ差支ナイト私ハ思ヒマス、併シ南

洋航路ノ競業ノ問題ガ主タル目的デアルト
スレバ、ソコニ相當考ヘテ見ナケレバナラ
ヌ問題ガアルノデハナイカ、ソレハ政府委

員カラモ御指摘ニナリマシタヤウニ日蘭會

商ノ問題デアリマス、實ハ私ハ此日蘭會商
ノ問題ニ付キマシテハ、遞信、或ハ外務、

海軍各省ニ互ッテ御説明ヲ願ヘバ結構ダト
思ヒマスケレドモ、併シ其時間モアリマセ

ヌカラ、幸ニ通商局長ガ御見エニナッテ居リ
マスカラ、此日蘭會商、殊ニ日蘭海運會商

ヲヤッテ居リマシタガ、ソレ等ノ實情、及ビ
此航路統制法ヲ制定シナケレバナラスト云

フ必要ガ其方面ニ理由ガアルノデハナイ
カ、ソレ等ノ點ニ付テ政府ノ御説明ヲ煩シ

タイノデアリマス

○松島政府委員 只今船田君カラ御尋ノア
リマシタ日蘭會商ノ經緯、現在ノ海運會商

ノ模様ニ付テ、簡單ニ私カラ御説明申上ゲ
マス、御承知ノ通り日蘭會商ハ一昨年ノ六

月カラ「バタビヤ」ニ於テ開カレマシタ、約
六箇月ニ互リ彼我ノ間ニ意見ノ交換ヲ遂ゲ

タノデアリマス、其間色々意見ノ交換ヲ
致シマシテ、十二月ニナリマシテ、大體日

本側ノ辛抱シ得ル程度ノ諒解ガ付イタノデ
アリマス、其諒解ノ點ト申シマスノハ、日

本商品ノ輸入制限ニ關シマスル問題、ソレ
カラ日本商人ノ蘭領印度ニ於キマシテ取扱

通商問題ニ關スル會商ハ海運問題ニ關スル

商議ト密接ナル關係ガアル、此二ツノ會商
ノ目的ニシテ吳レナケレバ、會商ハ開キ兼

ネルト云フコトヲ申出テ參ッタノデアリマ
ス、即チ海運事項ニ關スル商議ヲ以テ通商

問題ニ關スル會商ノ内容トシタイト云フコ
トデアリマシタ、然ルニ海運ニ關スル會商

ト云フコトハ、日本政府ノ立前ト致シマシ
テ、出來ルダケ當時ハ通商問題ダケノ話ヲ

シタイト云フコトデ折衝シタノデアリマ
ス、是等ノ經緯ヲ經マシテ遂ニ昨年ノ十二

月ニ代表ハ一先ヅ引揚ゲルコトニ致シマシ
タガ、交渉ハ引續キ代表ノ一部ヲ殘シマシ

テ繼續スルコトニ致シタノデアリマス、併
ナガラ海運問題ニ付テ、蘭印側ハ非常ナ「イ

ンボータンス」ヲ置イテ居ルノデアリマシ
テ、結局民間ノ間ニ於テ豫備會商協議ヲ開

カウト云フ話合ガ付キマシテ、一昨年ノ十
一月カラ神戸ニ於キマシテ民間ノ豫備會商

ヲ開イタノデアリマス、然ルニ昨年ノ三月
マデ色々民間豫備會商ヲ開キマシテ、日本

側ト蘭印海運業者側ト協議ヲシマシタガ、
ソレガ決裂ト申シマスカ、ウマク行カナカッ

タノハ御承知ノ通りデアリマス、然ルニ一
昨年ノ十一月大體彼我ノ間ニ諒解ノ出來マ
シタ日本商品ノ輸入ノ制限、ソレカラ日本

人ノ商人ノ取扱割合、是ハ先ヅ爾後圓滿ニ行ッテ居ルノデアリマス、此取扱ガ不公平デアルトカ、不利益デアルトカ云フコトニ付テ色々議論ハアリマスガ、先ヅ大體ニ於テ過去ノ日本商品ノ輸入實績、ソレカラ日本人ノ取扱高ト云フモノヲ標準トシテヤッテ居ルノデアリマスカラ、先ヅ辛抱ガ出來ルノデアリマス、隨テ之ヲ成文ニ致シマシテ、一ツノ協定ニスルト云フコトニ致シマスレバ、此日本ノ商品ノ輸入及ビ取扱率ト云フモノガ明文化セラレルノデアリマシテ、一定ノ期間地位ガ確定スルノデアリマス、然ルニ此海運ノ問題ガ解決致シマセヌ結果、ソレガ其儘ニナッテ居リマシテ、今尙ホ引續キ交渉繼續ノ形式ニナッテ居ルノデアリマス、然ルニ最近ニ於キマシテ政府ニ於キマシテモ色々努力致シマシタ結果、一ツノ方案ヲ得マシテ、之ニ依ッテ目下交渉ヲ進メテ居ル次第デアリマス、通商事項ニ關スル日蘭會商ノ經過及ビ海運問題ニ關スル民間會商ノ大體ノ狀況ハ以上ノ通りデアリマス

對シマシテ、過般貴族院ニ於キマシテハ、是ガ日濠會商ヲ有利ニ導クコトヲ目的トシタル延長デハナイカト云フ質問ガアッタノデアリマス、併ナガラ通商擁護法ノ期間延長ヲ今回提案致サレマシタノハ、日濠ノミナラズ、將來起ルベキ通商障礙、外國ノ措置ニ對スル對應措置ノ準備ヲ拵ヘテ置クト云フ趣旨デアリマス、今次ノ此航路統制法案モ亦日蘭會商ノ爲ノミデアリマセヌ、一般今後起ルベキ國際情勢ニ對シマシテ、日本ノ地位ヲ有利ニシタイト云フノガ、對外的關係カラ見タ理由デアリマス、尤モ此法律ガ制定セラレルト、日蘭海運會商成立ノ後ニ於テ、若クハ成立前ニ於キマシテモ、日本海運ノ地位ヲ強力ニスルコトニナリマス、出來タ後ニ於キマシテハ、海運會商ニ依ル協定ヲ實施致シマスノニ非常ニ役ニ立ツト云フコトニナルノデアリマス、簡單ニ御説明申上ゲマス

○船田委員 日蘭會商ノ問題ハ此法案審議ノ上ニ重大ナ關係ガアリマスガ、是ハ外交問題ニナリマスカラ餘リ觸レナイコトニ致シタイト思ヒマスガ、ドウモ日蘭會商、殊ニ日蘭海運會商等ニ於ケル跡始末ヲ此統制法デ著ケルノデヤナカラウカ、率直ニ申シマスレバ、私ハサウ云フ感ガ致スノデア

リマス、而モ外務省ノ外交方針、又外交交渉ノ問題カラ、其結末ヲ通商擁護法ノ發動ニ俟タズシテ、遞信省ノ所管ノ方ニ押付ケテシマッタノデハナイカト云フヤウニモ見ラレルノデアリマス、ソレデ只今ノコトヲ御聞キシタノデアリマスガ、本法制定ヲ必要トスル理由トシテ、全般的ニサウ云フ必要ガ現實ニアルト云フコトデアレバ了解シ得ルノデアリマスガ、先程管船局長ノ御説明ニ依ッテモ、事實ハドウモサウ云フモノデナイ、南米ニ付テ見テモ、或ハ北鮮ノ航路ノ問題ニ付テモ、ドウモサウ云フヤウナ無用ノ競業ヲシテ居ルト云フヤウナ實情、又今後ハサウ云フヤウナ心配ト云フモノハ至ッテ少イ、結局此法案制定ノ主眼トスル所ハ南洋航路ノ問題デアル、而モ其南洋航路ノ問題ハドウシテ、斯ウ云フコトニナッタカト言ヘバ、結局其源ハ日蘭會商ノ旨ク行カナイト云フコトニアルノデハナイカ、又事實ドウモサウ見エルノデアリマス、日蘭會商ノ問題ニハ餘リ觸レタクアリマセヌガ、一昨年ノ十二月長岡大使ハ交渉不成立ニシテ其儘引上ゲラレタ、昨年デアリマシタカ、經濟長官ノ「ハルト」氏ガ日本ニ態々見エテ當時ノ廣田外務大臣トノ間ニ廣田「ハルト」協定ト云フモノデ大體話ヲ進メルコトニナッテ居ッタヤウデアリマスガ、ソレモ今日ニ於テハ旨ク行カナカッタ、蘭印ガ非常ニ經濟不況ノ爲ニ憚ンデ居ル、其爲ニ其回復策トシテ盛ニ日本ノ經濟的進出ヲ阻止スルト云フヤウナ行動ニ出テ居ルノデアリマス、之ニ對スルノニハドウシテモ此通商擁護法ノ發動ニ俟ツ以外ニナイノデヤナカラウカト思フ、所ガ南洋ニ海運業ヲ營ンデ居ル其船舶運輸ノ方ノ統制ヲ圖ッテ、サウシテ邦船ノ間ノ統制ハヤリマスケレドモ、併シ最近ノ實情ヲ見ルト云フト、ドン／＼和蘭ノ方ノ船ニ依ッテ日本ノ海運ノ方ガ壓迫ヲサレテ居ル、斯ウ云フヤウナ實情ニ今日アルノデアリマス、結局ニ於テ日蘭會商ノ跡始末ヲ此法案制定ニ依ッテ著ケテ行クト云フヤウナコトニナルノデヤナカラウカ、詰リ外務省ノ外交交渉ニ俟ツベキ問題ヲ、遞信省ノ方ニ押付ケテ居ルノデヤナカラウカ、多少皮肉ナ見方カモ知レマセヌガ、サウ云フヤウナ嫌ヒモアルノデアリマスガ、是ハ現在ノ大臣御就任前ノコトデアリマスガ、サウ云フヤウナ心配ハナイモノデアリマスガ、サウ云フヤウナ縣念ハ全ク私ノ杞憂デアリマセウカ、其點ヲ大臣カラ承ッテ置キタイト思ヒマス

○賴母木國務大臣 日蘭會商ノ道具ニ之ヲ

使フ爲ニ外務省ヨリ押付ラレタノデハナイ
カト云フヤウナ御疑ガアルヤウニ見エマ
ス、斷ジテ左様ナコトハアリマセヌ、私ガ
之ニ賛成ヲ致シテ特別議會ニ出シマシタ理
由ハ、實ハ今マデノヤリ方何事モ餘リ自
由ニ委セ過ギテ、所謂無方針デ居ッタノデ、
今日之ヲ統制シナケレバナラヌガ、其統制
ガ非常ニ困難ニナッテ居ル實例ハ澤山アリ
マス、ソレデ日本ノ海運業ハ只今申シマシ
タ通りモウ非常ナ發達ヲ遂ゲテ居ル、自由
經濟主義ニ依ッテ斯ウ云フ發達ヲ遂ゲタト
モ言ヒ得ルデアリマセウガ、併シソレニ弊
ガ伴ッテ場合ハ、此内閣トシテハ、殊ニ庶
政一新ノ立前カラ是正ラシテ行ク必要ガア
ル、ソレハ統制經濟主義ニ依ッテソレヲス
ルノダ、ソナナコトデハナイ、日本ニハ統
制主義者カラ言ヒマスレバ、或ハ隨分サウ
云フモノガアルト云フヤウニモ考ヘラレル
コトガ澤山アリマスケレドモ、若シモソレ
ニ弊ガアリマスナラバ、ソレハドウシテモ
是正シテ行カナケレバナラス、兎ニ角船舶
改善ノ補助ニ依リマシテ、日本ノ船ハ餘程
良クナッテ居ル、是ガ爲ニ非常ニ各地ニ於テ
海運業ガ良クナッタト云フコトハ、此法律ニ
依ッテ招來シテ居ルコトモ非常ニ多イノデ
アリマス、ソレデ殆ド今日ハ紐育航路ト云

フモノハ日本ノ獨占ト言ッテモ宜イ位ニ發
達シテ居ル、今後私共ガ目標トスル二百萬
噸尙ホ此優秀船舶ヲ殖ヤサウト云フ政策ヲ執
ル場合ニ於テ、若シモ此法案ヲ今日ニ於テ
制定シテ置キマセヌト、獨占ヲシテ居ル日
本ノ航路ヲ徒ニ又紊スト云フ結果ニナル虞
モアルノデアリマス、デスカラ兎ニ角目標
ヲ無用ノ、殊ニ二重投資ニナラヌヤウニ、
而シテ他ニマダ日本船舶ノ進出セナイ場所
ガアルノデアリマスカラ、此方面ニ全力ヲ
注ガセタイ、而シテ國內競争デナクシテ、
國外競争ニ全力ヲ舉ゲタイト云フコトガ根
本ノ趣旨デアリマス、決シテ日本ノ船舶ノ
發達ヲ抑制スル爲ニ出シタモノデナイ、又
日蘭協商ノ道具ニ使フ爲ニ作ッタノデナイ
ト云フコトヲ御諒承ヲ願ヒタイト思ヒマ
ス、併シ此法案ガ成立致シマシタ爲ニ、若シ
モ日蘭協商ニ利益ヲ與ヘマスナラバ、是ハ
洵ニ副作用トシテ結構ナコトト思ヒマス、
何故ナラバ日本ノ蘭印ニ輸出スルモノハ一
億五千萬モアル、日本ニ入ルモノハ僅ニ六
千萬圓、九千萬圓ト云フモノハ輸出超過ニ
ナッテ、日本ノ貿易上カラ言ヘバ大切ナ數字
デアリマス、斯ウ云フ問題ガ日本ニ有利ニ
ナルコトデアリマスレバ、此案ノ副作用ニ
於テサウ云フ結果ヲ生ズルコトガ出來マス

ナラバ、ソレハ私ハ非常ニ國家ノ爲ニ喜バ
シイコト、考ヘマスガ、併シソレヲスルガ
爲ニ、此航路統制法ヲ作ッタト云フ譯デハ
ナイ、即チ六百萬噸ヲ目標トシテ居ル私共
ハ、將來ニ於テ無用ナ競争ノ起ラヌヤウニ
自由主義ニ相當ノ抑制ヲ加ヘルコトハ已ム
ヲ得ヌ施設ト考ヘテ、之ヲ提出シタ所以デ
アリマス

○船田委員 只今大臣ノ御示シニナルコト
ハ洵ニ御尤モダト思フノデス、殊ニ海運ノ
發達ノ爲ニ御作りニナルト云フ御趣旨モ能
ク分リマス、併シ只今大臣ガ御示シニナッ
タ中デモ、紐育航路ガ最近ニ非常ニ發達シ
タト云フコトデアリマスガ、ソレハ優秀船
ガ就航スルヤウニナッタト云フコトニ重點
ガアルノデアリマス、邦船同志ノ不當ナ競
業ニ依ッテ抑制サレテ居ルト云フヨリハ、大
イニ競争ヲシ、サウシテ自由主義云々ノ問
題モアリマシタガ、私ハ今日ノ經濟組織ノ
下ニ於テ相當ナ統制ヲシ、或ハ或ル程度ノ
計畫經濟ヲヤッテ行カナケレバナラヌト云
フコトハ認メマスガ、ソレハ仕事ノ性質ニ
依ッテ非常ニ違フデハナイカ、殊ニ海運ノ如
キ航海自由ノ原則ニ於テ、如何ナル國ノ船
トモ競争スルト云フ場合ニ、日本ノ船ノ間
ダケニ於テハ手ヲ縛リ、足ヲ縛ルト云フヤ

ウナコトヲシテ置イテモ、外國ノ船トノ競
争ニ就テハ一體ドウナル、是ハ外國船トノ
間ノ競争ト云フモノハ、之ニ依ッテ縛ル譯
ニモドウスル譯ニモ行カナイ、斯ウ云フ場
合ニ其競争ニ打勝ツニハドウスルカ、ヤハ
リ船貨ノ改善トカ、先刻濱野君カラ御指摘
ニナッタ不定期船ニ對スル政府ノ助成ト云
フヤウナ別途ノ方法ガアルデハナイカ、又
少クトモ其方法ト相並ンデ行ハレルニアラ
ザレバ、唯邦船同志ノ競争ヲ抑制スルト云
フコトダケデ、其目的ヲ達スルコトハ出來
ヌデハナカラウカト思フノデアリマス、併
シソレハ是以上申上ゲマス議論ニナリマ
スカラ申上ゲマセヌガ、サウ云フ點ニ於テ
本法制定ノ根本ノ理由、又ハ實情ヲ伺ヒタ
カッタノデアリマスガ、時間モアリマセヌカ
ラ今度ハ此法案自體ノ問題ニ付テ、少シク
内容ニ付テ伺ヒタイト思ヒマス、本法ノ第二
條ノ問題デアリマスガ「遠洋區域、近海區
域又ハ勅令ヲ以テ定ムル沿海區域」ト云フ
コトニ書分ケテアリマスガ、其「勅令ヲ以
テ定ムル沿海區域」ト云フノハドウ云フモ
ノデアリマスガ、ソレハ政府委員カラ御答
ヲ願ヒタイ

○小野政府委員 現在ノ沿海區域ハ相當廣
イ範圍ニ互ッテ居リマシテ、例ヘバ朝鮮内地

間ノ關釜間ノ航路ノ如キハ沿海區域デアリマス、大體此法案ハ原則トシテ相當重要ナ航路ニ適用スルト云フヤウナ原則デアリマスガ、朝鮮内地間ノ如キハ沿海デハアルガ、相當重要ナ航路デアル、ソレカラ北海道、樺太ノ木材ヲ搬出スル此航路モ沿海デアリマスガ、相當重要ナ航路デアルト云フノデ、勅令デ其重要サヲ考慮シテ決メルノデアリマス

○船田委員 次ニ御伺致シタイノハ、第三條ニ所謂「不當ナル競業ノ防止」ト云フコトガアリマスガ、此不當ナル競業ト云フコトノ意味、是ハ勿論政府ノ御認定ニ依ルコトと思ヒマスガ、其標準等ガアリマスナラバ、ソレヲ伺ヒタイと思ヒマス

○小野政府委員 是ハ觀念的ニ申シマスルト、健全ナル海運ノ發達ヲ妨ゲルヤウナ競争ガ不當ダト斯ウ申シ得ルノデアリマス、併シ個々ノ具體的問題ニナリマセヌト何ガ不當カト云フ斷定ハ下サレナイノデアリマスガ、大體ノ目安ハ非常ニ荷物ガ少ナイ、誰ガ見テモ非常ニ配船ガ多イト云フヤウナ場合ヲ想像シテ居ルノデアリマス、一々ノ場合ハ其航路ノ狀況ヤ荷動キノ調査ヲシタ後デナイト明確ニ斷定ヲ下シ得ナイと思ヒマスガ、一應私共ガ解釋シテ居ル所デハ、今

申上ゲマシヤウニ、實情カラ見テ非常ニ荷物モ交通量モ少イニ拘ラズ、配船ガ多ウ過ギルト云フコトガ認定サレタ場合ヲ不當ト申スノデアリマス

○船田委員 次ニ御伺致シタイコトハ、第五條ノ行政官廳ノ屈出ノ事項デアリマスガ、ドウ云フ屈出ヲ爲スカ、其命令ノ腹案等ガアリマシタラ……

○小野政府委員 ソレハ相當詳シクアリマスガ、御手許ニ差上ゲマセウ

○船田委員 只今ノ點ハ草案ヲ拜見スルコトニ致シマシテ、ソレカラ先程濱野君カラモ御質問ノアツタ點デアリマスガ、此禁止命令等ニ對スル救済方法ノ問題デアリマス、先程局長ノ御説明ニ依ルト、其禁止命令ノ結果トシテ船ヲ繋船シナケレバナラス、或ハ其爲ニ従業員ガ失業ヲスル、斯ウ云フヤウナ場合ニ於テ、恐ラク禁止ニナラヌノデハナイカト云フヤウナ御話ガアリマシタガ、サウスルト其説明自體ガ非常ニ矛盾スル、ソレナラバ初メカラ禁止ガ出來ナイト云フコトニナルノデスガ、其點ハ如何デスカ、恐ラク私ノ間違ヒカ、或ハ局長ノ御説明ガ足りナカタノデハナイカト思ヒマスガ、濱野君ニ對スル御答辯中ニ禁止命令ヲ出シタ結果船ヲ繋船シテシマハナケレバナ

ラス、失業者ガ澤山出ル、サウ云フ場合ニハ恐ラク統制委員會ニ掛ケテ禁止ヲスルト云フコトニナラヌノデハナイカト云フ御話ガアリマシタガ、其點如何デスカ

○小野政府委員 是ハ最モ極端ナ場合ヲ申上ゲタノデアリマス、統制委員會ノ運用デ失業問題ヲ起ス場合ハサウ起ラナイノデハナイカ、斯ウ云フコトヲ事實問題トシテ申上ゲタノデアリマシテ、理論トシテハサウ云フコトモアリ得ル、アリ得ルガ現在ノ此案トシテハ補償問題ハ考ヘテ居ラス、實際ハ中々ソコ迄行クニハ餘程ノ慎重ナ考慮ヲ要スルカト思ヒマス、理論上ハ最後ノ點マデ行キ得ルト云フコトニナッテ居リマス、併シ最後ノ點マデ行ッタ場合ニ補償スルカドウカト云フ點ニ付テハ此法案デハ補償ハ致サナイ、斯ウ云フコトニナッテ居リマス

○舟田委員 其點ハ諒解致シマシタガ、ソレカラモウ一ツ、是ハ實情ヲ伺ッテ置キタイノデアリマスガ、先程ノ通商局長ノ御説明ニ關聯スルコトデアリマスガ、昨年ノ七月六日デアリマシタカ、南洋海運會社ト云フモノガ、四社ガ合併シテ設立サレマシタ、所ガソレニ石原産業モ參加シテ居リナガラ、本年ノ三月十五日ニハ南洋航路ト云フ新設會社ヲ造リマシテ、サウシテ同ジ南洋

航路ニ就業スルコトニナッテ居ルヤウデアリマスガ、元來南洋海運ガ出來ル時ニハ、斯ウ云フモノヲ統制スルト云フ趣旨ニ於テ御造リニナッテ、サウシテ而モソレニハ前ノ管船局長淺野平二氏ガ社長トシテ居ラレルノデアリマスガ、一體ドウ云フ譯デ斯ウ云フコトニナッテアルノデアリマスガ、其間ニ何カ政府トノ交渉等ノ點ニ於テ行違ヒ等ガアルノデハナカラウカト思ヒマスガ、一體斯ウ云フコトガ、本法制定ノ一ツノ主ナ動機ニナッタノデハナカラウカト思ヒマス、吾々ガ一寸新聞等ニ依ッテ見マス、一旦南洋海運ト云フモノヲ創立シテ、ソレニ參加シテ居リナガラ、其重要ナ分子トシテ參加シテ居ルモノガ、又獨立ヲシテ別個ノ會社ヲ造ルト云フヤウナコトニナルニハ、其處ニ餘程何等カノ事情ガ伏在スルノデハナカラウカト、斯ウ見ラレルノデアリマス、若シサウ云フヤウナコトデアレバ、折角ナ立派ナ法案ヲ作ラレテモ、中ニ所期ノ目的ヲ達スルコトガ出來ナイデハナイカト云フヤウナ懸念ヲ持ッテ居ルノデアリマスガ、其間ノ實情ハ如何デアリマスガ、御差支ナキ限リ御説明ヲ願ヒタイ

○小野政府委員 此問題ハ個人ノ問題ニ觸レマスノデ、申上ゲ兼ネル部分モ相當多イ

ト心得ルノデアリマス、昨年七月ニ南洋海運株式會社ガ設立致シタノデアリマス、ソレニハ南洋郵船會社、日本郵船會社、大阪商船會社、石原産業株式會社、此四社ガ合同シテ出來タノデアリマスガ、是ハ申スマデモナク、蘭印航路ニ於テ、今マデ非常ニ日本船同士ノ足竝ガ揃ハナイ、ソコデ之ヲ結束シテ蘭印ニ當ラウト云フ御趣旨デアラウト思フノデアリマス、床次前遞相ノ御幹旋ニ依ッテ出來タノデアリマスガ、其際ニ私共ノ聞キ及ンデ居ル所デハ、各社共極メテ諒解ヲ致シマシテ、設立ノ際ノ總會ニ於キマシテモ、各社此會社ノ前途ヲ祝福シタ、今指摘致サレマシタ石原君モ此會社ノ前途ヲ祝福致シタト云フヤウナ、極メテ和ヤカナコトニナッデ居ルノデアリマス、然ルニ今御話ノ如ク、最近又南洋航路會社ト云フモノヲ立テマシテ、ソレハ石原氏ノ方カラ言ヒマスレバ、別會社ト云フコトニナッデ居ルノデアリマスガ、其會社設立當時ノ申合セニ、此關係ノ四社ハ南洋航路ニハ配船シナイ、競争シナイ、斯ウ云フ盟約ヲシテ居ルノデアリマス、要スルニ南洋、蘭印ニ對シテハ、今十二杯使ッテ居リマスガ、其十二杯デ十分ダ、是以上各關係者ハ配船シナイト云フ約束ヲシテ居ルノデアリマス、私共モ

其約束ハ極メテ妥當ナモノト心得テ居ルノデアリマス、然ルニ如何ナル譯デアリマスカ、最近、石原君ノ申ス所ニ依リテスレバ、別會社デアルト申シテ居ルノデアリマスカ、或ル程度ノ資本デ以テ南洋航路會社ト云フモノガ設立致サレタノデアリマス、ドウ云フ譯デスウ云フ行違ヒニナツタカ、斯ウドウモ其間ノ行動ニ付テ諒解ニ苦シンデ居ルノデアリマス、何ガ故ニ斯ノ如ク明カニ契約シテアルニ拘ラズ、實質的ニハ契約ニ反シタヤウナ新ナル會社ヲ造ルト云フコトハ、ドウ云フ考デアルカ、私自身モ分ラナイノデアリマス、其點ヲ申上ゲテ御答辯ト致シマス

○船田委員 此問題ハ個人ニ關係スル問題デスカラ、私ハ是以上ハ伺ヒマセヌガ、ドウモ南洋航路ノ問題ニ付キマシテハ、サウ云フ點ニ非常ナ弱點ガアリ、サウシテ不當ナ競争ガ行ハレル、サウシテ其個人ノ間ノ、個人會社ノ間ノ問題ノ爲ニ、本法ガ制定サレルノデハナйкаト云フヤウナ疑ガソコニ生ズルノデアリマス、併シ其點ハ今ノ御説明ニ依ッテ明瞭ニナリマシタカラ、私ハ是以上ハ御同致シマセヌ、尙ホ他ノ質問ハ同僚ノ諸君カラ致シマスカラ、唯私ハ昨日大臣

ガ御言明ニナリマシタヤウニ、船舶改善ノ問題、或ハ不定期航路ニ對スル助成ノ問題、即チ航路補助ノ問題ヲ再檢討スル、サウシテ本邦ノ海運發達ノ爲ニ御盡力ニナルト云フコトヲ御願申上ゲマス、殊ニ通商問題ハ、如何ニ經濟外交、通商發展ヲ唱ヘマシテモ、結局ソレノ方法手段タル船ノ問題ト云フモノヲ不可分のニ考ヘナケレバ到底其目的ヲ達スルコトガ出來ナイノデアリマスカラ、其方面ニ於テ本法ガ役立ツヤウニ御盡力ヲ御願シタイト云フ希望ヲ申上ゲテ、私ハ質問ヲ打切りマス

○戸澤委員長 尾崎君

○尾崎委員 前質疑者ニ依リマシテ、海運政策ニ對スル遞信大臣ノ御方針ガ明瞭ニナリマシタノデ、私共ノ細カイ質問ノ大半ハ既ニソレニ依ッテ其必要無キコトニナリマシタ、唯私ハ此機會ニ於テ大臣ニ御方針トシテ伺ヒタイノハ、私平素行政整理ノ問題ト致シマシテ、通信行政、海運行政竝ニ内務省ニ屬シテ居リマスル所ノ港灣行政、ソレカラ鐵道省ニ屬シテ居リマスル所ノ連絡航路ヲ特ニ重要視致シマシテ、願クハ鐵道行政全般ヲ一括致シマシテ、交通省ノ如キモノヲ作ッタ方ガ寧ロ煩瑣ナ行政手段ト餘計ノ經費トヲ省ク爲ニ將來必

要ナ改善デハナイカ、斯様ニ思ッデ居ルノデアリマス、之ニ對シマシテ、遞信大臣ハ何等サウ云フ方面ニ思フ致サレテ居リマセヌカドウカ、又交通省設置ノ如キコトニ付キマシテ、御考慮ニナッデ居ラヌト致シマスレバ、此内務省ニ屬スル所ノ港灣行政、即チ一面カラ申シマスルト、港灣警察ニ屬シテ居リマスルガ、連絡船ノ航路、是等ニ付テ、海運行政トノ關係ヲ如何ニ事務當局ハ御考ニナッデ居ルカ、將來之ニ對シテ何等カノ御考ヲ持ッデ居ラレルノカドウカ、御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○賴母木國務大臣 只今ノ御尋ハ現内閣ト致シマシテ、行政機構ノ改革ヲモ考ヘテ居ルノデアリマスルカラ、多年論ゼラレテ居ル交通省ノ問題等モ無論其時ニ問題トナルコトデアラウト存ジマス、只今私ガ交通省ヲ置ク方ガ宜イト云フ考ヲ縱シ持ッテ居リマシテモ、此處デ左様ニスルト云フコトヲ申上ゲル譯ニハ參リマセヌ、何レ各部門ニ互ッテ會合ヲ致シマスル時ニハサウ云フコトヲ十分考慮ノ中ニ入レマシテ、最モ適正デアリ、最モ事務其他ニ於テ簡捷ノ度ヲ高メルト云フヤウナコトニナリマスコトハ、是ハ無論考ヘテ行カナケレバナラヌコトヲ考ヘテ居リマス

○尾崎委員 私方附隨シテ御尋致シマシタ點ニ付テ事務當局ノ御考ヲ伺ヒタイ

○小野政府委員 後段ニ御述ニナリマシタノハ港灣行政ト海路行政ヲ如何ニ統制スルカト云フ問題デアリマシタト思ヒマス、實ハ港灣行政統一ト云フ問題モ多年ニ亙リテ論議致サレテ居ッタデアリマスガ、ソレハ御承知ノ如ク、一ツノ港ニ入レルノニ船ノ方ハ遞信省、税關ノ關係ハ大藏省、ソレカラ土木、植物検査ノ方デハ内務省又ハ農林省、斯ウ云フ工合ニ、別々ナ役所ニ煩雜ナル届出、又ハ手續ヲスルト云フコトハ、事業ノ圓滿ナ運行ガ出來ナイ、何カ一ツニ纏メテヤッタドウカ、斯ウ云フ議論ガ相當盛ンデアリ、且ツ非常ニ有力ナ議論デアリマシテ、此問題ハ多年關係省デ何トカ斯ノ如キ煩瑣ナ手續ヲ省ケルヤウナ方法ヲ考ヘヨウト云フヤウナコトデ折衝致シマシタ結果、從前港ノ港務部ト云フモノガ内務省ニ屬シテ居リマシタガ、現在ニ於テハ大藏省ニ統一サレテ大體ニ於テ大藏省ノ稅務關係デアル、コ、マデ一方ハ進ンデ居ル、ソレカラ後ノ植物検査デアルトカ、土木其他デアリマスとか云フヤウナモノニ付テハ、是ハ中々、今大臣モ仰シヤッタヤウニ、行政ノ根本問題ニ觸レルノデ、直グニハ行カナイ

ノデアリマスガ、差當リ海事關係ニ付テハ廳舍タケデモ合同シテ、一ツニスルト云フヤウナ方針デ、例ヘバ門司デアルトカ、神戸ダトカ云フ所デハ、同ジ建物ノ中ニ港務部モ、ソレカラ植物検査モ入ッテ居リマス、

斯ウ云フヤウナコトデ、差向キノ問題ハ處理、善處シテ居ルノデアリマスガ、徹底的ナ根本ノ此機構ノ問題ハ將來能ク考ヘテ参リタイト思ヒマス

○尾崎委員 新内閣ノ庶政一新ノ一端ト致シマシテ、大臣ハ遞信行政ニ付キマシテ、必ズ再檢討ノ結果御成案ハ得ラレルモノト確信シテ居リマスルガ、私ハソレニ付キマシテ、國防ト海運政策トノ關係デアリマス、之ニ付テ簡單ニ御示シテ願ヒタイト思ヒマスルガ、從來御承知ノ如ク、國家非常ノ場合ニ當リマシテハ、帝國ノ海員ハ直チニ帝國海軍ノ補助的行動ヲ開始致シマシテ、所謂豫備將校トカ、或ハ其他海軍ノ行動ニ付キマシテ有力ナル「アシスタント」ニナルコトハ明カナノデゴザイマス、又船舶ニ付キマシテモ、其輸送機關トナリ、其他ノ任務ニ就クコトハ明カデアリマスガ、今ヤ我國ハ所謂非常時ニ直面シマシテ、國防ニ付キマシテモ、日清、日露戰爭ノ當時ニ比シテ、非常ニ大ナル組織ト重要ナル施設ト構ヘテ致シテ居リマス、隨テ此海運政策ニ付キマシテ、現在ノ狀態デハ、此國防ノ伸展ノ狀態ニ副フコトガ出來ヌデアラウト思フノデアリマスルガ、具體的ニ回答シナイデモ宜シウゴザイマスガ、大體方針ト致シマシテ、ドウ云フ構ヘヲシテ居ラレカ、之ヲ御示ヲ願ヒタイノデゴザイマス、例ヘバ羅津港ノ完成ト共ニ、北滿第一ノ國防線タル所ノ、詰リ新京カラ羅津ニ参リマシテ、所謂日本海ヲ中心トスル北ニ對スル國防、斯ノ如キ新シク充實サレタ所ノ國防策ニ付キマシテ、現在其日本海ヲ航海シテ居リマスル所ノ連絡ノ汽船ト致シマシテハ、御承知ノ如ク洵ニ貧弱ナ船ヲ用ヒテ居ル、之ニ對シマシテ私共素人ナガラ、何トカ、此歐洲航路、南米航路、南洋航路ノ方ハ盛ンニ政府ガ力ヲ入レテ居ラレルガ、軍事上カラ見テ最モ必要デアリ、而モ將來ニ向ッテ緊要ヲ感ズル所ノ日本海航路ニ對シテ、遞信省ハ恰モ拱手傍觀ヲシテ居ルカノ如ク見受ケラル、程ニ、何等ノ新シイ施設ガナイ、斯様ニ私共ハ感ジテ居リマス、ソレカラ又稱ヘル所ノ海軍方面ノ所謂南方進出策ニ付キマシテ、遞信當局モ所謂海運政策ト致シテ呼應スベキ方策ヲ執ラレナケレバナラナイ、斯様ノコトニ付キマシテハ、

無論新大臣ハ何等カノ御政策ガアルト思ヒマスルガ、事務當局ニ於カレテモ、新内閣成立前カラ一體斯ウ云フコトハ劃策スベキ問題デアリマシテ、新内閣ガ出來テ初メテ其處ニ起ル問題デハナイ、前内閣ニ於テモ、

前々内閣ニ於テモ、サウ云フコトハ考ヘナケレバナラヌノデアリマス、私ハ新内閣ノ所信ヲ聞クト云フ意味ヨリモ、遞信省ガ所謂國防ニ對スル遞信省デ、ト申シマスルカ、遞信省ノ一ツノ輿論トナルベキ何カ其處ニ成案ガアルノデハナイカ、御差支ガナケレバ此點ニ付テ御説明ガ願ヒタイト思ヒマス

○賴母木國務大臣 日本ノ商船ガ海軍ノ補助艦艇ノ任務ヲ遂行スル爲ニハ、助成船ニ對シマシテハ軍器ヲ据付ケル設備ヲ命ジテアリマス、今後吾々ガ理想トシテ居リマスル優秀船ニ對シテハ、無論完全ナル防備施設、攻撃設備ヲ致サセル考デアリマス、又南洋方面ニ對シテモ十分ニ今後海運業ノ發展ヲ期シ、躍進日本ノ南方進出ニ付テハ、之ニ伴フ政策ノ實行ヲ致ス積リデアリマス、例ヘテ申シマスレバ、空軍ノ擴張ニ伴ヒ、日本ノ航空會社ヲシテ、商船ガ海軍ノ補助艦艇トナリマスル通りニ、ヤハリ防空ノ用ニモ之ヲ使フコトガ出來マスルヤウニ、又其飛行士ハ空軍ノ士官同様ナ心掛ヲ

以テ、將來ニ處スルヤウニ致シタイト考ヘテ居リマス、先ヅ第一ニ今年ハ臺北カラ香港、「ハノイ」ヲ經テ「バンコク」ニ至ル定期航空ヲ今回ノ豫算ニ御協賛ヲ願フテ居リマスガ、之ヲ海外進出ノ第一歩ト致シマシテ、航空事業ニモヤハリサウ云フヤウナ御質問ノ趣旨ニ副フヤウナ意味ニ於テ段々施設ヲ進メテ行キタイト考ヘマス

○戸澤委員長 金井君

○尾崎委員 マダアリマス

○戸澤委員長 サウデスカ、デヤ成ベク簡單ニ御願致シマス

○尾崎委員 簡單ニト仰シタルノデアリマスシ、前質疑者ガ大概盡シマシタカラ省キマスガ、航路補助ニ付キマシテ——極ク簡單デ宜シウゴザイマスガ——再檢討ノ御言明ヲ得マシタノデ吾々非常ニ安心致シマシタガ、明年度ノ豫算ニ關聯シテ何カ御成案ガ立チサウデゴザイマスガ、ソレカラモウ一ツ簡單デ宜シウゴザイマス——モウ一ツハ此航路補助ノ準據法ハ遠洋航路補助法ダト思ッテ居リマスガ、其他ニ此近海航路ニ對スル補助ノ準據法ハナイノデアリマセウカ、此航路補助法ヲ統一一致シマシテ、何カ法律案デモ提出スルヤウナ御成案ハゴザイマスマイカ

○賴母木國務大臣 補助ニ關スルコトハ内外總テヲ通ジテ考ヘタイト思ヒマス、只今之ニ付テ法案ヲ出スカ出サスカト云フコトハ、今的確ニハ申上ゲラレマセウガ、當然何カノ調査ヲセナケレバナヌコト、信ジマス

〔委員長退席、清委員長代理著席〕

○尾崎委員 希望ヲ述ベテ御參考ニ供シタイト思ヒマスルガ、私ハ大正三年頃カラ大會社ニ對スル逓信省ノ補助方針ガドウモ宜クナイ、所謂傳統的ニ宜クタイト云フ意見ヲ持ッテ居ル一人デゴザイマス、是ハ郵便汽船時代以來カラノ傳統的ノ、所謂深い長イ歴史ヲ持ッテ居ルノデアリマスカラ、中々一朝一夕ニ是ノ改正ハムヅカシイト思ヒマスルケレドモ、世ノ非難ハ總テ之ニ集中サレテ居リマス、先程社外船ニ對スル注目ヲ喚起シタ質問ガゴザイマシタガ、私ハ其反對ニ此大會社、即チ商船、郵船、其會社ニ對スル補助ニ付テハ特ニ將來社會ノ非難ヲ煽ラナイヤウニ御注意ヲ願ヒタイ、之ヲ希望トシテ申上ゲマス——委員長續イテ質問ヲ御許シ下サイマスカ

○清委員長代理 オヤリ下サイ

○尾崎委員 御提案ノ法案ニ付キマシテ一寸御尋致シタイトデアリマスルガ、此法案

ハ所謂帝國ノ法律デゴザイマスルカラ、帝國憲法ニ依ッテ關東州、朝鮮、臺灣ノ如キ方面ニハ行ハレナイモノト解釋致シテ宜シイノデゴザイマセウカ、又サウ解釋致シマスナラバ、御承知通り、大正三四年頃カラ七八年頃マデニ社外船ノ殆ド大部ハ關東州ニ籍ヲ置イタヤウニ記憶致シテ居リマスルガ、斯ウ云ッタヤウナ重大ナ關係ガ起ルガ、之ニ對シテ政府ハドウ御處置ニナルカ

○小野政府委員 此法案ハ此儘デハ外地ニ適用サレナイノデアリマス、唯此處ニモ外地關係ノ方ガ見エテ居リマスルガ、必要ニ應ジテ外地ニ施行スル、恐ラク外地ノ關係廳ノ方ト致シマシテハ此法案ノ施行自體ニハ異存ハナイト心得ルノデアリマス、唯ソレガ今時機ナリヤ否ヤト云フコトニ付テ考慮中ノヤウニ拜察致シテ居リマス、ソレカラ第二點ノ關東州ニ外國カラ來テ、輸入スルモノガ相當多クナリマシタ、所謂關東州置籍船ト云フヤウナ御存ジノ如キ弊害ヲ生ジハシナイカト云フコトデアルト思ヒマス

ルガ、關東州ハ御承知ノヤウニ、大連ガ自由港デアリマスルノデ、アスコニ入リマス、輸入サレル船ハ輸入稅ガ課ラナイ、ソコデ關東州ニ事實上非常ニ船ガ、船籍ガ集マルト云フコトニナッタノデアリマスルガ、是ハ大

正十三年ト思ヒマスガ、逓信省ト關東廳ト協議ノ上勅令ヲ出シマシテ、其以後ハ關東州ニハ關東州ヲ中心ニスル會社以外ノ船ハ籍ヲ置ケナイト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、其上ニ最近デハ輸入制限令ヲ設ケテ居リマスカラ、御憂慮ノヤウナコトハ現在デハナイト思ヒマス

○尾崎委員 外地ニ對シマシテハ、別ニ立法サレルヤウナ御方針ノヤウニ承リマシタガ、ソレハ非常ニ困難ナ事情ヲ伴ヒマセウカ、外地ト申シマシテモ一括シテ統制法ヲ作ル譯ニハ行カヌト思ヒマス、又ソレハ立法上ドウ云フ形式ニナリマセウカ、大體ノ打合せハゴザイマセウカ、ゴザイマシタラ承リタイ

○小野政府委員 ソレハ勅令デ此法案ヲ其儘施行スルト云フ形ニナルノデアリマス

○尾崎委員 分リマシタ、ソレハ一般ノ慣例デスカラ——次ニ伺ヒタイノデゴザイマスガ、此航路統制法ニ付キマシテ、先程御質問ガアリマシタ禁止制限デス

〔清委員長代理退席、委員長著席〕

此重大ナ權力行爲ガ加ハルノデアリマスガ、是ガ一回ノ決議ニ依ッテモウ確定サレルノデアリマスガ、斯ウ云フモノニ對シテハ何等カ別ニ救濟手段——救濟ト云フノハ補

償ノ意味デナク、方便ノ意味デス——上訴ノ意味デス、サウ云フヤウナコトニ付テ立案當時ニ説ハ出ナカッタノデアリマスルカ、ソレヲ拜承シタイノデアリマス

○小野政府委員 其點ハ先程船田サンノ御質問ガアリマシタガ、何等カ之ニ對スル上訴ノ方法ハナйкаト云フノデアリマスルガ、原案ト致シマシテハ、此點ヲ考慮致シテ居ラナイノデアリマス

○尾崎委員 私ノ質問ハ之ヲ以テ終了シマス

○戸澤委員長 ソレデハ岡崎君

○岡崎委員 私ハ此統制法案ガ至急ニ行ハレナケレバナラヌト云フ其意味ヲ聞キタイト思ッタノデアリマスガ、先ノ質問ニ依ッテソレハ分明シマシタ、政府委員カラモ御説明ニ依ッテ略知ルコトガ出來マシタノデスガ、國內問題ニ對シマシテハ、統制ト云フコトモ宜イト思フノデアリマスガ、今承リマスルト南洋海運會社ガ出來マシテ、其外ニ南洋航路會社ト云フモノガ出テ競争ヲスルト云フコトハ、ソコニ何等カノ所謂間隙ガアツテ、新ニ南洋航路會社ト云フモノガ出來上ツタノデアリマスルガ、サウシタ場合ニ統制法ヲ適用シタ後ニ、サウ云フ間隙ガアルト、ソコヘ外國船ガ割込ンデ來ルト云

フ形ヲ有ツノデハナйка、現在南洋海運會社ト云フモノガアルニ拘ラズ、今ノ南洋航路汽船會社ガ出來タノデアリマスルカラ、サウ云フ形ヲ取ッテ外國船ガ乗込ンデ來ルト云フコトニナレバ、統制法案ト云フモノモ非常ニ考ヘナケレバナラヌコトニナルト思フ、ソレデ私ハ國內問題トシマシテハ、統制法ト云フモノモ宜イト思フノデアリマスガ、併シ外國ニハ勿論此統制法案ハ及バヌノデアリマスカラ、ソコニ間隙ノ出テ來ルト云フコトハドウ云フ譯デアルカ、南洋海運會社ガ經營シテ居ルソコニ間隙ガ出テ來ルト云フノハ、ヤハリ一ツノ經營ノ中ニ缺陷ガアルト思フノデアリマスガ、此會社ニ對シマシテ、航路補助ト云フモノガ——所謂補助金ヲ交付サレテアルノデセウカ、ソレヲ伺ヒタイト思フノデアリマス

○小野政府委員 南洋海運會社ニ對シマシテ、本年度ノ豫算デ四十萬圓ノ補助金ヲ計上シテ居リマス

○岡崎委員 ソコデ私ハ本會議デモ申上ゲタノデアリマスガ、斯ウ云フ統制法案ヲヤル結果トシマシテ、後ニ航路補助金ト云フヤウナモノガ出テ來ル、現在モ出テ居ルガソレニ更ニ強化シテ加ヘタ補助金ヲヤルニ至ルノデハナйка、其一段階ニナリハシナ

イカト云フコトヲ私ハ申上ゲタノデアリマスガ、今日ニ於キマシテハ各國トモ所謂國家主義ト云フコトガ加味サレマシテ、皆國家ノ厚キ補助ヲ受ケテ競争ノ形デアリマス、先程前ノ質問者ノ言ハレタ通りニ、日本デ船舶改善補助金ト云フモノヲ出シマス、今度ハ英國ニ於テハ「トランパー」ニ對シテ二百萬磅、低利資金一千萬磅出スト云フヤウニ、ヤハリ船舶改善ノ爲ニ資金ヲ出スト云フヤウナ形デ、各競争ヲヤルコトニナル、又現在ヤリツ、アルノデアリマス、サウシタ關係デ統制サレルト云フト、ソコニ安心シタヤウナ形ヲ以テ其會社ガ所謂補助金ノ中ニ眠ルト云フヤウナ形ヲ取ルノデハナйкаト云フ考ヲ持ツノデアリマス、ソレデ補助金ノ中ニ眠ルト云フコトハ、又更ニ多クノ補助金ヲ欲スルト云フコトニナルノデ、其一例ハ伊太利ガ近來ニ於テ一番多クノ補助金ヲ船舶會社ニ出シテ居ルト云フ實例ヲ見マシテ、多クノ補助金ヲ出シテ居ッテモ、伊太利ノ船舶會社ハ景氣ヲ得ナイ、利益ヲ得テ居ナイノデアリマス、ソレデ私ハサウ云フヤウナ形ニ——日本モ伊太利モ資源ト云フモノガ乏シイノデアリマスルカラ、外國ニ行ク時ハ荷物ヲ積ンデ行キマスケレドモ、歸リハ空デ歸ルト云フヤウナ狀

態ニナルノデアリマシテ、是ハ相當能ク考ヘナイト伊太利ノ轍ヲ履ムヤウニナリハシナイカト云フ危險ヲ有ツノデアリマス、ソレカラモウ一ツハ今前ノ質問者ニ依リマシデアリマシタガ、統制委員會デアリマスガ、第十一條ノ中ニ船長ト云フ者モ含ンデ居ル、支配人及其他ノ代理人又ハ船長、サウ云フヤウニ罰則ノ方ニ於キマシテ、船長ト云フ者モ含ンデ居ルノデアリマスルカラ、統制委員會ノ方ニハヤハリ船員ノ代表モ加ヘテ戴キタイト思フノデアリマス、モウ一ツハ補助金ヲヤッテ經營スルト云フコトニナリマスルト、ヤハリ今ノ補助金ノ中ニ眠ルト云フ關係カラ、其經營ガ段々却テ寧ロ困難ニナツテ、其經營ノ困難ノ點ヲ、其事業ニ從事スル勞働者ニ轉嫁スルト云フ嫌ヒガアルノデアリマス、所謂勞働強化トナルモノデアリマス、ソレハ恰度統制ト云フコトガ、國家主義ト云フト語弊ガアリマシデセウガ、斯ウ云フ統制法案ト云フヤウナコトガ出テ來マス、ヤハリ日本自國民ハ自國船ヲ選ベ、或ハ自國ノ荷主ハ自國ノ船舶ニ荷物ヲ積メト云フヤウナ狀態カラ、高イ金ヲ出シテモ日本ノ荷主ハ日本ノ船ニ積マナケレバナラヌト云フヤウナコトニナル、ソレト同ジョウニ不利益ヲ見マシテモ

日本ノ船ニ積マナケレバナラスト云フ今日
各國競争ノ所謂補助金政策、サウ云フ保護
政策ノ下ニ段々ナッテ來ルトサウ云フコト
ニナル、結局ノ所サウナルト思フノデアリ
マス、デ是ハソコニ勞働問題ト何等關係ガ
ナイヤウデアリマスケレドモ、ヤハリ勞働
者ノ方モ斯ウ云フ場合デアアル、國家ガ所謂
國際非常時ノ時デアルカラ、オ前達ハ安イ
賃銀デ我慢ヲシロト云フヤウナコトニナル
ノデアリマス、是ハ嘗テ獨逸ニ於テモ、獨
逸ノ復興時代ニサウ云フコトガ勞働者ニ叫
バレタノデアリマス、サウ云フ點ヲ見マシ
テモ所謂勞働強化ト云フコトニナルノデア
リマス、ソレデ私ハ此統制案ヲ施行スルト
同時ニ、一方ニ勞働者ノ保護法ヲヤッテ戴
キタイ、斯ウ云フ考ヲ持ッ者デアリマス、
國際競争ヲヤルノニ、所謂本當ノ補助ヲ其
會社ニ直接ニ與ヘルノデハナクシテ、其會
社ガ自主的ニ立チ行クヤウナ補助金ヲヤル
ノガ本當デアアル、サウスレバ勞働者ノ方ニ
保護金ヲ出ス、保護ノ爲ニ金ヲ出スト云フ
コトハ、一面其會社ノ經營ヲ圓滑ニ爲シ得
ルト思フノデアリマス、其例ハ獨逸ニ於キ
マシテハ陸上ノ産業ニ於キマシテサウデア
リマス、勞働者ニ厚キ「ウエルフェヤ」ヲ
ヤッテ居ル爲ニ賃銀ハ現狀維持デ宜イ、或ハ

着物モ其儘デ暫ク我慢スレバ、ソレハ我慢
シ得ラレル狀態デアルノデアリマス、何故ナ
ラバ此家屋トカト云フモノハ、其會社ガ作ッ
テソシテ皆與ヘテ居リマシテ、物價ノ騰貴
ニ因ッテ家賃ガ上ルト云フコトハ絕對ニナ
イノデアリマス、ソレト同ジョウニ吾々ハ
海運勞働者ニ對シマシテ厚キ保護ヲ與ヘル
ナラバ、現狀ノ儘デ國際場裡ニ競争ヲスル
ト云フヤウナコトモ出來ルト思フノデアリ
マス、謂ハハ私共ノ總テノ要求ノ根本ヲ爲
ス所ノ、海員養老年金制ト云フヤウナモノ
ヲ施行サレルナラバ、吾々ハ暫クノ間總テ
ノ要求ヲ控エルト云フコトモ出來得ルト思
フノデアリマス、サウ云フ立前カラ私ハ此
勞働者ニ保護ヲヤル必要ガアルノデハナイ
カト云フ風ニ考ヘル者デアリマス、一應ノ
御答辯ヲ得マシテ私ハ再ビ申上ゲタイト思
ヒマス

○小野政府委員 補助會社ガ補助金ノ上ニ

眠ッテ居ルト云フヤウナ情勢デアアルガ、此統
制法デ當然補助金問題ニ觸レルノデハナイ
カト云フヤウナ御質問ト思ヒマスガ、此統
制法自體ハ本會議ニ於キマシテ大臣ノ御答
辯ノ如ク補助金自體ニ關聯ハナイノデアリ
マス、唯岡崎君ノ、補助金ノ上ニ眠ル船會社
ガアルト云フコトガ事實ト致シマスレバ、

私共十分監督致シマシテ、大臣モ所謂補助
施設ノ再檢討ト云フコトヲ言明致シタノデ
アリマスカラ、私共モ其趣旨ヲ以テ補助金
ヲ取ッテ拙イ施設ヲシテ居ルト云フコトニ
付テハ、相當是ガ充實ヲ圖ラセル積リデア
リマス

ソレカラ勞働立法、特ニ養老年金制度等
ニ付テ考ヘテ居ルカト云フヤウナ御話デア
リマスガ、實ハ私ノ方デ船員ノ勞働立法ニ
付テハ相當研究シテ居ルノデアリマス、最
近私著任後ニ於キマシテモ、何トカ船員關
係ノ法規ニ修正ヲ加ヘテ此方面ノ福利ノ爲
ニ圖リタイト云フコトハ固ヨリ思ッテ居ル
ノデアリマスガ、此點ニ付キマシテモ、大
臣ガ本會議デ何トカ具體案ヲ作ラセル積リ
デアリマスト云フ御話デアリマシタカラ、
私共モ此御趣旨ニ於キマシテ十分ナ研究ヲ
致シマシテ、海上勞働者ノ方トモ御諮リノ上
ニ考慮シテ見タイト思ッテ居ルノデアリマ
ス、是ハ既ニ昭和五年頃ニ臨時海運調査會
ト云フモノデ、海員ノ方々トモ御相談ノ上
デ出來ターツノ案ガアルノデアリマスガ、
時勢モ相當變ッテ居リマスカラ更ニ檢討致
シタイト思ヒマス

○戸澤委員長 岡崎サン、一寸御諮リ致シ

マスガ、マダオ長イヤウデスナラ食後ニ引

續キ開會シタイト思ヒマスカラ……

○岡崎委員 極ク簡單ニ申上ゲタイト思ヒ

マス、是ハ統制委員會ノ構成ヲ先程政府委
員カラ伺ッタノデアリマスガ、其中ニ所謂第
十一條ニハ船長モ罰セラレルト云フヤウニ
ナッテ居リマスカラ、海員ノ側カラ代表者ヲ
其中ニ入レルヤウニ御願ヲ致シタイト申上
ゲタノデアリマスガ、如何ナル御考ヲ有ッテ
居リマスカ

○小野政府委員 一寸失念致シマシタ、現在

ノ吾々ノ腹案ニ於キマシテハ船主側三名ト
云フヤウナコトデ船員ノ代表者トシテ船主
側ヲ入レテアルノデアリマスガ、若シ船員自
體ノ利害關係ニ非常ニ重大ナ結果ヲ齎スト
云フヤウナ統制ノ場合ニ於キマシテハ、臨
時委員ト云フ制度ヲ設ケテ居リマス、其制
度デ船員側ノ主張ハ容レタイト考ヘマス

○岡崎委員 モウ一點、簡單デアリマス、モ

ウーツ先程ノ一例ニ依リマシテ南洋海運會
社ガ經營シテ居ル所ヘ南洋航路汽船會社ガ
割込シテ來ル、サウ云フ狀態デアラナラバ、
統制サレテモソコニ更ニ外國船ガ割込シテ
來ルデハナイカト云フコトヲ申上ゲタノデ
アリマスガ、其御答辯ヲ願ヒマス

○小野政府委員 蘭印問題ニ付キマシテハ

現在外務省デ會商ヲ致シテ居ルノデアリマ

スルカラ、此會商ノ結果外國船ガ、特ニ蘭印側ノ船ガ尙ホ割込シテ來ルト云フコトモ含マレテ居ルト思ヒマス、私共此蘭印問題ヲ離レマシテ、一般的外國船ガ割込ムト云フ、何カソコニ缺陷ガアル——外國船ガ割込ムト云フ御質問ガ能クアルノデアリマスガ、此案ハ外國船ヲ割込マセナイヤウニ、内國船ノ増加ヲ圖ラウト云フコトデアリマシテ、外國船ノ割込ム餘地ガアル場合ニ於テハ、事實問題トシテ統制ヲスルコトガ宜イカドウカト云フコトニ付テ相當考慮ノ餘地ガアルコト思フノデアリマス、ソコデ此法案ノ眼目ト致シマシテ、外國船ヲ排斥スル爲ノ——排斥ト云フト語弊ガアリマスガ、外國船ニ對シテ強力ニ競争サセルト云フ趣旨デアリマス、之ニ依ッテ外國船ガ、侵入スルト云フコトガナイノデアリマスガ、今ノ蘭印問題ニ付キマシテハ、只今所謂「パーセンテージ」比率ノ問題ト云フコトデ交渉中デアリマス、尙ホ外國船ガ割込ムヤ否ヤト云フコトハ、只今言明致シ兼ねルノデアリマス

○岡崎委員 委員長ニ御伺ヒ致シマスガ、是デ閉デルノデアリマスカ

○戸澤委員長 アナタガ濟ミマシタラ暫時休憩シテ午後ニ致シタイト思ヒマス

○濱野委員 一寸關聯シテ居リマスガ、岡崎サンノ御發言ノ中ニ、船長ガ處罰セラレルト云フ御言葉ガアツヤウニ思フ、間違ヒカモ知レマセヌガ、十一條ニハサウ云フコトガアリマス「支配人其ノ他ノ代理人又ハ船長其ノ他ノ從業者ガ」ト云フノガ支配人以下ノ文句ノ中ニ入ッテシマフノデ、船長ガ處罰セラレルト云フ意味デハナイノデスカ、サウダトスレバ是ハ不都合ナンデスガ、本法三條四條ニ背イテ處罰サレル場合ガ想像セラレマスカ

○小野政府委員 岡崎サンノ御讀違ヒカトモ思ヒマスルガ、海運業者ハ、船長ガ此命ニ從ハナイト云フ場合ニ、自己ノ指揮ニ出デザルノ故ヲ以テ海運業者ガ處罰ヲ免レナイト云フ規定ニ過ギナイノデアリマシテ、船長ヲ直接處罰スルト云フ意味デハアリマセヌ

○濱野委員 能ク分リマシタガ、念ノ爲ニ確メテ置キマス、政府委員ニ重ネテ聞キマスガ、三條ト四條ニ違反セルノ故ヲ以テ、船長ハ船長タルノ資格ニ於テ、本法ニ違背シタト云フコトデ處罰セラレル場合ハ絶對ニゴザイマセヌネ、ソレヲハッキリ言明シテ戴キタイ

○小野政府委員 アリマセヌ

○中井委員 議事進行ニ付テ發言ヲ求メマ

ス、既ニ十二時ヲ過ギマシテ、他ノ委員會ハ全部濟ンデ居リマスガ、委員長ハ吾々ニ飯ヲ食ハセズシテ委員會ヲ進行サセルノデアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイト思ヒマス、ソレニ付テハ此程度デ質問ヲ打切ラレテ、午後ハ一時半カラ質問ノ繼續ヲセラレンコトヲ願ヒマス、尙ホ本日ハ本會議ニ於テ重要法案ガ提出サレルノデアリマス、本法固ヨリ吾々特別委員トシテ重大ナル關心ヲ持ツ者デアリマスケレドモ、本日ハ格別重大ナル國家的ナ色々ナ法案ガ本會議ニ於テ上程サレルノデアリマスカラ、本委員會ノ質問ハ午後終了セラレルコトニハ異議ハアリマセヌガ、本會議ニ於ケル議事ノ進行ノ工合ニ依リマシテハ、本日ハ宜イ加減ノ所デ質問ヲ中止セラレテ、之ヲ然ルベキ機會ニ延期サレンコトヲ豫メ申上ゲテ置キマス

○戸澤委員長 中井君ノ御希望デモアリマシタガ、無論時間ガ來テ居リマスカラ此際暫時休憩シマシテ、午後ハ一時半ヨリ此會議ヲ開クコトニ致シマス

午後零時十五分休憩

午後一時四十分開議

○戸澤委員長 午前ニ引續キ是ヨリ開會致シマス

○岡崎委員 世界各國ガ保護政策ニ段々變ッテ來タ、所謂軍國主義ガ濃厚ニナツタ爲ニ各國トモ保護政策ニ轉向シタノデアリマスガ、其結果トシマシテ補助金政策ヲ皆探ルヤウニナツテ來タヤウニ思ヒマス、ソレデ今日ノ海運界ノ景氣ト云フモノハ此補助金ノ政策ノ結果デアッテ、眞ノ意味ノ景氣デナイト思フノデアリマス、謂ハバ今日ノ日本ノ軍需「インフレ」ト同ジヤウナ一ツノ傾向ヲ持ッテ居ルノデハナイカト思フノデアリマス、ソコデ補助金政策ト云フコトモ段段各國トモ強クナツテ來ルノデアリマスガ、先程モ遞信大臣ハ補助金政策ヲ再檢討シナケレバナラスト云フコトヲ言ハレタノデアリマスガ、所謂世界各國ノ此補助金政策ヲ見マスル時分ニハ、ヤハリ日本デモ補助金制度ノ再檢討ヲスルト云フコトニナルノデハナイカト私モ思フノデアリマス、ソコデ此統制案ガ行ハレマスルト、勢ヒ補助金ノ方ニ行クノデハナイカト云フコトヲ本會議デ申上ゲタノデアリマス、所謂一ツノ段階ヲ成スノデハナイカト云フコトヲ申上ゲタノデアリマス、ソレハヤハリドンナニ補助金ヲヤリマシテモ、國際性ト云フ一ツノ特異性ガアルノデ、謂ハバ其處ニ自由主義ト云フモノガ國際性ノドン底ノ中ニアアルノ

デ、國際競争スル時分ニハ、ドウシテモ自由主義ノ基礎ガ出テ來ルノデ、ソレデ其矛盾カラ各航路ノ經營ガ段々困難ニナル、外國ト競争スル場合ニ如何ニ補助金ヲヤデモ、段々困難ニナルト云フ今日ノ狀態デアリマス、デアリマスルカラ、私ハ統制ヲヤレバ尙ホ一層補助金ヲヤルヤウニナルノデハナイカト云フ風ニ考ヘルノデアリマス、デアリマスルカラ補助金ノ再檢討ヲヤラル、場合ニハ、私ハ航路ノ自主的ニ發展シ得ルヤウニ、自主的ニ經營シ得ルヤウニト云フヤウナ方法ノ下ニ、此補助金ヲ與ヘルト云フコトヲ御願シタイト思フノデアリマス、甚ダ言葉ガ少イノデ、或ハ分ラナイカモ知レヌノデアリマスガ、例ヘバ造船ノ爲ニ、或ハ船ノ改造ノ爲ニヤルト云フヤウナ補助金ナラバ宜イノデアリマス、其航路ヲ續ケル爲ニ唯會社ニ金ヲヤルト云フヤウナ形デナク、實際ノ發展ヲ其會社自身ニ爲シ得ルヤウナ補助金ヲヤラレンコトヲ御願シマシテ、私ノ質問ハ是デ打切りマス

○戸澤委員長 小谷君、ドウゾ

○小谷委員 私ハ極ク簡單ニ質問ヲ申上ゲ、同時ニ少シ希望ヲ述べサシテ貰ヒタイト思ヒマス、今度ノ此統制法ハ洵ニ専門家ノ方ガ色々ト御研究ノ結果御作りニナッタ

モノデ、結構ナモノダラウト思ヒマスガ、併シ私共ハ實際ニブツカッテ居ル問題デ、統制ノ爲ニ却テ航路ノ發展ナリ、改善ナリガ阻礙シテ居ラレル實例ヲ見ルノデアリマス、極ク世界的ナ大キナ問題カラ考ヘマスレバ、小サナ問題ノヤウデモデアリマスルガ、現ニ大阪ト青島ノ航路デスガ、是ハ北支那ノ工作ヲ進メル上ニ於キマシテ考ヘテモ、特ニ重要ナ航路デアリマスルガ、遞信大臣モ御承知ノ通りニ、モウ二十年前カラ殆ド形ヲ改メテ居ラヌノデアアル、多少船室ハ改良サレマシタケレドモガ、相變ラズ五日目ニ一週ト云フヤウナ航路デアリマシテ、昨年カラ色々運動致シマシタ結果、四日目ト云フノガ入りマシタケレドモ、アレダケ日本ト密接ナ關係ガアリ、北支那ノ發展ノ上ニ非常ニ重大ナ關係ヲ持ッテ居リマス航路ガ、原田汽船ト日本郵船ト商船會社トノ三社ノ協定ノ下ニ、ドウシテモ發展シマセヌデ、同ジヤウナ狀態デ以テ二十年一日ノ如クヤッテ居ル譯デス、私共アノ方面ニ居住シテ居リマスル人間トシテ、國家的ニモ地方的ニモ何トカシテ貰ヒタイト云フノデ、實ハ此前、前ノ管船局長ノ時代ニ補助金ガ最初ハ十五萬圓アッタノデアリマスガ、其十五萬圓ノ補助金ガ半分ノ七萬五千圓ニ

ナッタ、更ニ其七萬五千圓ガ三萬五千圓ニ減額サレタ時分ニ、北支那ノ重要性ヲ御認識ニナルナラバ、補助金ヲ増シテ貰ヒコソスレ、ドウシテモ減ジテ貰フト云フコトハ困ッタモノダト云フコトヲ申上ゲタ、所ガソレハマアコッチデモ考ヘテ居ルカラ、議會デ餘リ喧シイ問題ニシナイヤウニシテ居ッテ吳レロト云フコトデ、實ハ私モ控ヘテ居ッタノデアリマス、所ガ其後、少シモ改善ノ實ガ舉リマセヌデ、此議會ニナリマシタカラ、此機會ニ是非共斯ウ云フ方面ニ、詰リ統制ノ形ガ出來テ居ル爲ニ却テ發展ヲ阻礙シテ居ルヤウナ問題ニ對シテハ、自由競争デ以テ、餘リ競争ヲヤリ過ギテ工合ガ惡イ、此時ニ遞信大臣カラ御監督ラシテ載ク、或ハ補助金デモ増シテヤルト云フコトニ依ッテ、此航路ヲ改善シテヤッテ載キタイト思フノデアリマス、勿論荷物ヤ人ガ澤山乗レバ、獨リ手ニ船モ改造シ、度數モ殖エルト思ヒマスガ、又一面カラ言ヘバ度數ガ殖エ、澤山船ガ出ルト云フコトニナリマス、上海ノ方カラ北支那ノ方ニ廻ッテ日本ニ歸ル人、或ハ滿洲ノ方カラ北支那ヲ見テ歸ルト云フ人ガ青島ヲ廻ッテ歸ルコトモ出來ルノデアリマスガ、今ハ一ツ船ヲ取逃シタラ五日モ待タナケレバナラヌト云フヤウナコト

ナノデ、青島ニ寄ル譯ニ行カヌト云フヤウナ事情ニナッテ居リマスカラ、特ニ一ツ此點ニ對シテ御考慮ヲ願ヒタイト思フノデアリマス、會テ三社ガ餘リニ運賃ノ値上其他横暴ヲヤッテ、山東省ノ連中ガ集ッテ同盟汽船ヲ作ッテ露西亞ノ義勇艦隊ノ中ノ「シンリュース」ト云フ船ヲ一艘手ニ入レテ三社ニ對抗運動ヲヤッタコトガアル、其時分ニハ青島ヲ朝早く出テ、サウシテ一晚泊リデ其翌日ノ晩ニ門司ニ著イタト云フヤウナ經驗ガアルノデアリマス、今上海ト長崎ノ間及大連ト門司アタリノ間ハ此立派ナ船ガ度數モ多ウラゴザイマスシ、ドン／＼通ッテ居リマスガ、最モ今日以後ニ於テ重要性ヲ帶ビテ居リマス山東方面、青島アタリノ航路ガ斯ウ云フ工合ニナッテ居リマスノハ非常ニ遺憾デゴザイマスカラ、此前ノヤウニ闇カラ闇ニ葬ッテシマハレルト困ルノデス、勿論私共トシテモ出來ルダケノコトハヤリタイト思ッテ居リマスガ、遞信省方面デサウ云フ方面ニ御力添ヘテ願フヤウニ此機會ニ於テ御考慮ヲ煩ハシタイト思ヒマス、ドウカ一ツ御當局ノ御答辯ヲ戴キタイト思ヒマス

○小野政府委員 青島航路ノ問題ニ付キマシテハ、最近北支那ノ情勢モ變化シテ居ルヤウニ心得マスシ、又私共ノ方トシテハ勿

論大藏省ニ要求致シテ居ルノデアリマス、

其點ハ十分考慮致シタイト思ッテ居リマス

○小谷委員 明年度ノ補助金ハドレ位カ御示シテ願ヘマセヌカ

○小野政府委員 明年度ノ分ハ今カラト思ッテ居リマス

○小谷委員 今カラデゴザイマシタラ、私ノ考ヲ十分考慮ノ中ニ御入レ下サイマシテ、補助金ヲ殖ヤシテ戴クトカ、若クハ外ノ方法ニ依ッテ勸誘シテ戴イテ、大連汽船ナドハ相當希望ヲ持ッテ居リマスカラ、大連汽船ヲ割込マシテ四社ト云フコトニナレバ度數モ殖エルカラサウ云フ工合ニシテ戴キタイト思ヒマス

○戸澤委員長 小谷君是デ宜シウゴザイマスカ——ソレデハ金井君ニ願ヒマス

○金井委員 本法案ニ付キマシテハ本會議竝ニ午前中ニ於テ同僚諸君ト主務大臣トノ質疑應答ニ依リマシテ大體諒解致シタ所モアリマスシ、又諒解シナイ所モアルノデアリマス、併シ私共此點ニ付テ申上ゲマシテモ、結局議論倒レニナルコト思ヒマスカラ、私ハ之ニ關聯シタ點ヲ簡單ニ質問ヲ致シタイト思フノデアリマス、本案ハ要スルニ不正競争ヲ防止シテ、海運業ノ發達ヲ期セシメラレルト云フノガ其立法ノ趣旨ノヤ

ウニ見受ケラレルノデアリマス、ソコデ此法律ハ二以上ノ海運業者ガアルト云フコトヲ前提トサレテ居ルト思ヒマスガ、若シ獨占航路ニナリマシテ其獨占航路ノ結果非常ナ弊害ヲ今日色々ナ所ニ於テ吾々ハ耳ニスルノデアリマス、其場合ニ於キマシテ政府當局ト致サレテハ、此統制法案ニ依ッテ監督セラル、ヤウナ方法デモアリマセウカ

〔委員長退席、中井委員長代理著席〕

○小野政府委員 此法案ノ趣意ハ金井君モ申述ベラレタ二ツノ對立シタル不當ノ競争ガアル場合ニ付テハ、單純ニ運賃ガ上ツタト云フヤウナコトハ此法案デ考ヘラレテ居リマセヌ、今御話ノ場合ハドウ云フ場合デセウカ、此法案デハ考ヘテ居リマセヌガ……

○金井委員 先刻來色々議論ヲ拜聽致シタノデアリマスガ、寧ロ此統制法案ニ依ッテ、自由競争ヲ避ケル爲ニ、海運界ノ發達ヲ妨グコトニナリハシナイカト云フ風ナ議論モアツタヤウデアリマス、私モ一應斯様ニ考ヘテ居ル次第デアリマスガ、先程濱野君カラモ御話ガアリマシタヤウニ、紀州民ガ非常ニ大阪商船ニ依ッテ壓迫ヲ受ケテ居ツタト云フ事實モアルノデアリマス、所ガ偶々此處ニ鐵道ガ敷設セラレタト云フコトガ原因ニ

ナツテ、此鐵道其モノニ依ッテ直接ノ利益ヲ得ナクテモ、大阪商船ガ反省シテ其橫暴ヲ自省シタト云フダケデモ非常ナ效果ガアツタト云フコトデアリマスガ、斯ウ云フ例ハ吾々ノ地方ニモ澤山アルノデアリマス、即チ鹿兒島縣ノ大島郡、沖繩縣等ニ於キマシテ多年私ガ本會議ニ於テ大阪商船ノ橫暴ヲ攻撃シテ居ルノモ此點デアリマス、大阪、神戸カラ鹿兒島ニ行キマスル運賃ハ割合ニ安イ、然ルニ大島、沖繩方面ニ行クニ付テハ運賃ガ高イト云フコトモ先刻ノ紀州鐵道ノ例ニ依ッテ、鹿兒島マデハ陸路、所謂鐵道ニ依ッテ行ケルガ、併シ大島沖繩ニナリマスルト、ドウシテモ陸路ノ運搬ト云フコトガ出來ナイカラ、ソコデ勝手放題ナコトヲシテ運賃ガ非常ニ高イト云フコトニナツテ居ルノデアリマス、其意味カラ見マシテモ、主務省ニ於カレテハ十分ニ此點ノ橫暴ヲ矯正シテ行カレル方法ヲ御考ニナルコトガ私ハ必要ダラウト思ヒマス、此鹿兒島縣大島郡其他沖繩ハ島々カラ成ツテ居リマスノデ、唯船以外ニ吾々ノ交通ノ便益ヲ圖ルコトガ出來ナイノデアリマス、所ガ此航路ニハ現在マデ大洋汽船ト大島汽船トガアツタノデアリマスガ、併シ此大洋汽船、大島汽船ト云フノハ結局大阪商船ニ委託經營

ナツテ居リマス爲ニ、補助金ハ結局大阪商船ガ取ッテ居ルト云フコトニ相成ッテ居ルノデアリマス、其航路ニ於テ偶々或ル社外船ガ出テ來タ、ソコデ赤子ノ手ヲ捻ルヤウナヤリ方デ、モウ後デハ運賃モ取ラズニ競争ニイヤウニシテ、其アトデ獨占航路ノ橫暴ヲ極メテ、運賃ヲ又高ク上ゲタト云フヤウナヤリ方モアツタノデアリマス、斯ウ云フヤウナ例ヲ一應申上ゲテ置クノデアリマス

○小野政府委員 今ノ御話ハ大島ノ問題デアルト思ヒマスガ、昨日モ御質問ガアリマシタガ、島嶼ニ關スル遞信省ノ政策云々ニ觸レルノデアリマスガ、遞信省ト致シマシテハ成ベク島嶼方面ノ航路ノ運賃ト云フコトハ引下ゲルヤウニ考慮致シテ居ルノデアリマス、現ニ大島ノ航路ニ付キマシテモ、是ハ金井君等ノ御盡力ノ結果、大島振興計畫ト云フモノガ出來マシテ、遞信省ニ於キマシテハ其振興計畫ヲ採用致シマシテ、著考慮致シテ居ルノデアリマスルガ、本年度ニ於キマシテハ、大島鹿兒島間ノ航路運賃ハ一割位減額サセル積リデ只今知事ニサウ云フ命令ヲ發シテ手配中デアリマス、幾分アタノ希望ニ副フヤウニナルドラウト思ヒマス

○金井委員 航路補助ノ問題ニ關シマシテ、

遠洋航路ノ補助ニ關シマシテハ特別ナ法律
ガアルヤウデアリマス、サウシテ噸數、速力
或ハ船齡又ハ旅客貨物ノ運賃等カラ種々ノ
點ニ付テ、詳細規定ヲ致サレテ居ルヤウデ
アリマスルガ、併シ此近海航路ノ補助ニ關
シテハ、何等是ト類似シタ規定ヲ見受ケナ
イノデアリマス、遠洋航路ニ付キマシテ
ハ、其補助規定ニ依ッテ、或ハ監督モシテ行
カレルガラウト思ヒマスガ、近海航路ニ對
シテハ、ドウ云フヤウナ法條ニ依ッテ監督ヲ
致サレテ居リマスルカ、又ドウ云フヤウナ
程度マデ監督シ得ラル、權限ヲ御持チニ
ナッテ居ラレルノデアリマスカ、此點ヲ承ッ
テ置キマス

○小野政府委員 遠洋ニ付テハ遠洋航路補

助法ガアルノデアリマス、是モ遠洋ノ大キ
ナ——例ヘバ桑港航路「シヤトル」航路、南
米航路等ト云フヤウナ大キナ航路ニ適用サ
レルノデアリマシテ、全體的ニハ遠洋航路
補助法ハ適用ガナイノデアリマス、近海ニ
付テモ法律自體ハアリマセヌガ、地方航路
デアリマスルナラバ、遞信省カラ縣知事ニ
斯ノ如キ條件、即チ今御話ノ船齡、ソレカ
ラ速力、總噸數等ヲ決メマシテ、斯ウ云フ
風ナ標準デ命令ヲシロ、而シテ運賃ガ相當

暴騰シタ場合ニハ運賃ノ引下ヲモ命ジロト

云フ風ナ、所謂命令條項ヲ遞信省カラ標準
ヲ示シテ居ル譯デアリマス、ソレニ則ッテ地
方廳デハソレノ手配ヲシテ居ル譯デアリ
マスガ、今申上ゲマスルヤウナ鹿兒島大島
間ニ付キマシテハ、遞信省ノ命令ノ條項ニ
依リマシテ、手配ヲシ、且ツ今年度カラハ運
賃ノ引下ヲ命ズルヤウナコトニナッテ居リ
マス、是ハ遞信省ト地方廳トノ訓令關係ニ
ナッテ居リマシテ、法律ハ無イノデアリマ
ス

○金井委員 大體御説明ニ依リマシテ近海

航路ノ補助ヲ與ヘラレタ船會社ニ對シテ
ハ、ヤハリ遠洋航路ノ補助規定ニ依ッテ監
督モシテ行カレルト云フコトデアリマス
ガ、若シ此補助ヲ與ヘテナイ船會社ニ對シ
テハ、其運賃或ハ船客ノ待遇トカ云フコト
ニ付テ、ハドウ云フヤウニ御取扱ニナッテ居
リマセウカ

○小野政府委員 補助ノナイモノニ付テ

ハ、現在ノ所全ク自由ニ任シテ居ル次第デ
アリマス

○金井委員 此統制法ノ第四條ニ於テハ

「政府ハ運賃其ノ他ノ航路ノ經營條件ガ公
益ニ反スト認ムルトキハ海運業者ニ對シ其
ノ經營條件ニ關シ必要ナル命令ヲ爲スコト

ヲ得」ト云フ條項ガアリマスガ、此統制法ノ
規定ニ依レバ、何レノ船ニ對シテモ、亦獨
占航路ノ場合ニ於テモ此法條ガ適用爲シ得
ルヤウニモ解釋出來マスガ、如何デセウ
カ

○小野政府委員 ソレハ解釋ノ問題デアリ

マスガ、此點ニ付キマシテハ大臣ノ此委員
會ニ於ケル説明ニモアリマシタ如ク、第四
條ハ第三條ノ方策、所謂統制ヲヤリマシタ結
果運賃ガ暴騰シタト云フヤウナ場合デアリ
マシテ、一般ノ運賃問題ニ付キマシテハ統
制法デハ觸レテ居ラスノデアリマス、一般
ノ運賃暴騰ニ付テハ別ナ考慮ヲ拂ハナケレ
バナラスト思ヒマスルガ、此統制法ハ之ニ
關係シテ居リマセヌ、左様御解釋ヲ願ヒマ
ス

○金井委員 先程ノ此航路補助ニ關シマシ

テ、近海航路ニ對スル所ノ補助規定ガ別ニ
ナイヤウデアリマシテ、唯訓令ニ依ッテ御
取扱ヲシテ居ラレルヤウデアリマスガ、特
ニ政府ニ於カレマシテハ、今後斯ウ云フヤ
ウナ方面ニ對シマシテモ法律ヲ御設ケニナ
リ、又先程質問致シマシタ補助ヲ與ヘザル
船會社ニ對シテモ、運賃船客ノ待遇ニ關シ
テ、此統制法ノ第四條ノヤウナ趣旨ヲ含ン
ダ法律ヲ御制定セラレルヤウナ御意思ハナ

イノデアリマセウカ

○小野政府委員 ソレハ極メテ重大ナ問題

デアリマシテ、今後適當ニ考慮致シタイト
考ヘテ居リマス

○金井委員 地方航路ニ依ッテ所謂補助ヲ

與ヘラレテ居ル船會社ニ對シマシテハ、先
刻ノ御話ニ依リマスルト、皆地方長官ニ委
任シテ居ラレルヤウデアリマスルガ、船會
社ノ營業狀態、ソレカラ收支決算表トカ云
フモノヲ一々此命令航路ヲ定メラル、場合
ニ於テハ提出セシメテ、此運賃ナドニ付テ
ハ嚴重ナル監督ヲ致シテ居ラル、ノデアリ
マセウカ、此點ハ如何デアリマセウカ

○小野政府委員 御說ノ通りニ、補助金ヲ

出ス場合ニハ、嚴重ニ監督ノ方法ヲ講ジテ
居リマス、收支計算等モ出サシテ居リマ
ス

○金井委員 昨日豫算分科會ニ於テ特ニ私

ハ政府當局ニ所謂島嶼ノ交通問題ヲ御願シ
タノデアリマス、ソレハ鹿兒島縣ノ大島郡
ノミナラズ、佐渡、壹岐、小笠原、皆島嶼
ニ於テハ同ジヤウデアリマスルガ、此點ハ
特ニ遞信省ニ於テ交通機關ノ完備ト云フコ
トニ對シテ、十分ノ御注意ヲ拂ッテ貰ハナ
ケレバ、非常ニ地方民ノ産業開發ヲ阻止
シ、地方民ノ生活不安ヲ來ス虞ガアルト云

フコトヲ申シテ置イタノデアリマス、ヤハリ航路ノ改善ハ先刻ノ質問ニモアリマシタヤウニ、港灣政策、道路政策ト相俟ッテデナケレバナライ、其趣旨ニ於テ先年來政府ニ御盡力ヲ願フタ大島振興十年計畫ニモ

港灣ノ建設、或ハ道路ノ改修、進ンデ又航路ノ補助金ノ増額ト云フコトニシテ計畫案ノ成立ハ見テ居ルノデアリマス、併シ不幸ニシテ財政關係カラ致シテ、十分ノ補助金ヲ貰フコトガ出來ズ、今日ニ至ッテ居ル次第アリマス、從來大島ノ航路ハ先刻申上

ガタヤウニ大阪商船ニ委託經營ト云フコトニナッテ居ッテ、補助金ハ大阪商船ガ貰ッテ、所謂變態的經營ニナッテ居リマス爲ニ、吾々

ト致シテハ此改善ニ對シテハモウ少し立派ナ有力ナル獨立汽船ヲ茲ニ持ッテ來タラ大島航路ノ改善モ圖ルコトガ出來ルガラウト

思ッテ居ルノデアリマスケレドモ、不幸ニシテマダ立派ナ汽船會社ヲ持ッテ行クコトガ出來ナイ、先年十島航路——是ハ村營デア

リマスガ、ヤハリ是モ大阪商船ノ横暴ノ結果ドウシテモ此儘ニ於テ大阪商船ニ航路ヲ委シテ置クコトハ出來ナイト云フ趣旨カラ、此村營ノ十島航路ガ開設セラレタノデアリマスガ、若シ此意味ニ於テ今後大島ニ於テ、或ハ村營或ハ他ノ有力ナル船ガ出マ

シタ場合ニ於テハ政府ト致シテハ其モノニ對シテモ航路補助ヲ御與ヘニナルヤウナ御意思デアリマセウカ、ドウデセウカ

○小野政府委員 大體地方廳ノ命令航路ニ付キマシテハ、某ニ補助金ヲヤルトカ、某ニ命令ヲスルカト云フコトハ當該知事ニ任

セテ居ル次第デアリマス、ソコデ今ノ如キ場合ニハ必ズ其モノニ補助金ヲヤルト云フコトヲ逡信省限リデハ言明出來マセヌ

○金井委員 最後ニ希望ヲ申上ゲマシテ私ノ質問ヲ打切りタイト思ヒマス、地方問題

ト致シテ、非常ニ紛糾ヲ重ネテ居タ大島汽船モ經營困難ニ陥リマシテ、已ムナク解散ヲシナケレバナライト云フヤウナ場面ニ

陥ッタノデアリマス、ソコデ五月一日知事ノ命令ニ依ッテ大阪商船ニ大島航路ノ委託ヲサレタヤウニ新聞紙上ニ見受ケタノデアリ

マス、ソコニ於テ知事ノ委任條件ト致シテハ、先刻御話ノヤウニ運賃ヲ一割減ズル、航海度數ヲ從來ヨリ八回増加シ、尙ホ噸數ニ於テ從來五百噸デアッタノヲ七百噸以上ニ増加スルト云フヤウナ條件モアルヤウデアリマスルガ、併シ之ニ對シ一部ノ人々ニ於テハ從來大阪商船ノ横暴ヲ極メテ居タノデアルカラシテ、唯主ナルモノニ對シテ一割減額スル代リニ他ノモノニ運賃ヲ高クシ

テ、即チ旅客ノ手荷物ニマデ運賃ヲ課スルト云フコトニナッテハ、表面上所謂形式上ノ一割減額ニ過ギズ、實質ニ於テハ何ノ利益

ニモナラナイカラ、ヤハリ大阪商船ノ獨占航路トシテハイケナイト云フヤウナ反對運

動モ盛ンアルヤウデアリマスカラ、ドウカ此點ニ付キマシテハ、縣當局ト十分打合セラサレマシテ、又大阪商船ハ從來吾々カ

ラ運賃ノ低減運動ヲ持ッテ行キマスルト、收支償ハナイカラト云フ一點張リデ之ヲ拒絕

シテ居タ例モアリマスルカラ、會社ノ收支決算ニ對スル報告モ能ク御調べニナッテ、十分ノ御監督ノ下ニ此地方民ノ利益ニナルヤ

ウ今後航路ノ改善ヲ圖ッテ戴ケルヤウニ御願ヒ申上ゲテ置キタイト存ジマス

○中井委員長代理 紅露昭君

○紅露委員 同僚諸君ノ御質問ニ依リマシテ大體本案ニ對スル輪廓ダケハ諒承致シテ

居ルノデアリマスガ、私ハ尙ホ數點點政府ニ御伺致シタイト思フノデアリマス、先ヅ第一ニ提案ノ理由、十二日ノ本會議及ビ本委員會ニ於ケル逡相ノ御説明ニ依リマシテ、一應本法案ノ趣旨ハ諒承致シマシタガ、御提案ノ趣旨ガハッキリ私ニハ了解ガ出來ナイノデアリマス、ソレハ會期ガ非常ニ少イ此特別議會ニ、其運用ノ如何ニ依ッテ

ハ、我が海運業ノ將來並ニ外國貿易ニ重大ナル關係ヲ有スル本法案ヲ急ニ上程サレルニ至ッタト云フコトハ、ドンナ理由ニ依ルカ、ソレヲ率直ニ御説明ヲ願ヒタイ

○賴母木國務大臣 先刻來ノ御質問ニ依ッテ、私ハ其趣旨ハ十分御説明申上グタ積リ

デゴザイマススケレドモ、尙ホ只今ノ御質問ガゴザイマスルノデ、重ネテ申上ゲマス、此特別議會ハ非常ニ會期ガ短イ、ソレニ斯

ウ云フ重大法案ヲ出シタ理由ハドウ云フ譯カ、通常議會ニ出セバ宜イデヤナイカト云

フヤウナ意味合ガラウト考ヘマス、從來ノ例ニ依リマシテ、選舉直後ニ於ケル特別議會ト云フモノハ、極メテ會期ガ短イノデア

リマス、併シ今回ノ會期ハ三週間デアリマシテ、前議會ガ解散ニナッテ、前年度ノ豫算ヲ遂行スルト云フコトニナリマス結果、非常ナ不便ヲ感ズルモノガ澤山アリマスノデ、

前内閣ノ編成致シマシタ豫算ヲ踏襲シテ、之ヲ實行豫算ニ致シテ、本議會ニ提出スルコトニ致シタノデアリマス、本議會ニ於テノ質問應答ハ、何故ニ現内閣ハ庶政一新ヲスルト言ウテ居リナガラ、何等ノ重大ナル政策ヲ實行シナイデハナイカト云フ非難ガ非常ニ多イノデアリマス、私ハ洵ニサウ云フ非難ニ對シテ御尤モノヤウニモ承ルノデ

アリマス、故ニ成ベク必要已ムベカラザルモノ、將來ノ計畫ニ、將來ノ方針ニ便宜ヲ與フルモノデ、豫算ニ餘リ大イナル關係ヲ持タナイモノハ成ベク此特別議會ニ提出スベキモノデアルト私共ハ考ヘマシテ、斯ウ云フヤウナ法案モ重大デアリマス、重大デアリマスガ、將來ノ帝國ノ海運國策カラ考ヘマシテ、斯ウ云フ弊ガ將來ニ起リ易イ、段々船質ガ良クナリマシテ、先刻モ御質問ノ紐育航路ナドニモ新シイ優秀船ガ集中シテ、日本ノ船舶ガ五ニ競爭ニ陥ッテ或ハ將ニ獨占ヲセントスル此紐育航路ニモ、内國船ノ競爭ニ依ッテ、互ニ傷ツクト云フヤウナ虞モ十分ニアアルデアリマス、殊ニ私共考ヘテ居リマス六百萬噸ヲ目標トシテ、將來ノ世界ノ第一位トハ行キマセヌ迄モ、兎ニ角第二位グラキヲ目標ニシテ進ミタイ意ヲ持ッテ居リマスル時ニ、將來ノ國策ヲ遂行スル上ニ於テ、斯ノ如キ法案ヲ出シテ、而シテ成ベク外部トノ競爭ニ當ルニ大イナル力ヲ我が帝國ノ海運業者ニ與ヘル、而シテ内デ五ニ競爭シテ二重投資ヲ爲シ、又無駄ナ費用ヲ使フト云フコトヲ、外國船ニ向ッテ競爭ヲシテ打勝ツカヲ養ハシタイ、斯ウ云フ意味ニ於テ提出致シマシタノデアリマシテ、私ハ二十一日ノ會期ハ決シテ短イ會期

デハナイト考ヘマス、隨分長イ會期デアルト思フノデアリマス、恐ラク諸君ノ非常ナル御勉強ト——貴衆兩院議員諸君ノ非常ナル御勉強ト、政府モ一生懸命ニ早カラ晩クマデ出席致シマシテ努力ヲ致シマスル、此兩者ノ勉強ニ依ッテ、今日ノ議會ガ閉デラレタ後ノ成績ヲ御覽ニナレバ、恐ラク通常議會以上ノ時間ヲ質問應答ニ費シテ、サウシテ此議會ハ終了スルモノト信ジテ居リマス、議會中途デアリマスカラ、成績ハマダ分リマセヌガ、併シ今日マデノ成績ヲ見マシテモ、恐ラク時間ニ於テハ、眞實ノ議會ニ於ケル論議ト云フモノハ、三箇月ノ會期ニ匹敵スル論議ガ盡サレルモノト私ハ信ジテ居リマス、故ニ此法案モ諸君ノ慎重審議ニ依ッテ、私ハ兩院ヲ必ズ通過スルモノト信ジ、尙ホ國策遂行ノ上ニ我が海運國策ヲ遂行シテ、世界ノ大海運國ノ實ヲ舉ゲシムル上ニ於テ、斯ウ云フ法案ガ成立シマスレバ、國家ノ爲ニ洵ニ慶賀ニ堪ヘナイト信ジテ居ルノデアリマス、但シ此運用ニ付キマシテハ、皆様ノ御心配ノアル點ハ十分考慮致シマシテ、此航路統制委員會モ所謂決議機關トシテ、十分過チノナイヤウニ致シタイト考ヘマス

徹底致シテ居ナイヤウニ思フノデアリマス、私御質問申上ゲマシタノハ、サウ云フ意味デハナイノデアリマシテ、私ノ御答辯ヲ願ヒタイノハ、政府ノ海運業ニ對スル國策、或ハ此法案ニ對スル審議期間ガ短イト云フ意味ノコトヲ申上ゲテ居ルニアラズシテ、今御同致シマシタノハ、私ノ先程申上ゲマシタ所ノ、所謂本案ニ對スル立案ノ趣旨ダラウト思フ、立案ノ趣旨ハ私能ク諒承致シテ居リマス、併シ私ガ御伺シタイノハ、此會期ハ何ト大臣ガ仰セラレテモ、僅ニ三週間ノ短期間ニ是ダケノ法案ガ出テ居ル上、又斯ウ云フヤウナ國家ノ海運業ノ將來ニ大影響ノアル案ヲ御出シニナラナケレバナラヌヤウナ切迫シタ所ノ事情ガオアリニナルナラバ、其事情ヲ率直ニ御答辯ガ願ヒタイ、此點ダケナノデアリマス

○賴母木國務大臣 只今申上ゲル通りデス、詰リ例ヘテ申シマスレバ、電氣事業ニ對シテモ同ジコトデ、若シモ電氣事業ニ對スル歷代ノ政府ノ大方針ガキチツト決ッテ居リマシテ、其大方針ニ向ッテ總テノ立法、其他ヲヤテ居リマスレバ、今日ノ如キ洵ニ統一ヲ缺イタ、御存ジノ通りニ料金ニ於テモ非常ナ等差ガアリ、又或ルモノハ例ヘテ言ヒマスレバ、電力ヲ殆ド總テ——原料モ、ソレカラ消費ニ關スルモノモ、皆殆ド電力一ツガ主ナルモノト云フヤウナ窒素肥料ノ如キモノデモ、普通ノ料金デハ迎モイケナイノデ、ソレハ特別ニ安クスル、今日デハ安クナッテ居リマスケレドモ、ソレデモ私共カラ見マスと、マダ非常ニ高イト考ヘテ居ルノデアリマス、斯ウ云フヤウナ政策ガ、詰リ何等ノ一ツノ指導精神ト云フカ何ト云フカ、サウ云フモノガナイ結果、斯ウ云フコトニナッテ居ルノデアリマスカラ、將來ニ於テ競爭ノ起ルベキ部分ハ澤山ニアル、又其虞ハ十分ニアッテ、ソレガ爲ニ日本人同志ガ非常ナ競爭ヲシテ、遂ニ共倒レニナル、而シテ之ニ依ッテ外國汽船ニ活躍ノ餘地ヲ與ヘルヤウナコトガ起ルト考ヘマスカラ、今ノ中ニ早クサウ云フコトノナイヤウニチャント指導ノ精神ヲ決メテ行キタイト云フ趣旨デ之ヲ拵ヘタ譯デアリマス

○八角委員 一寸關聯シテ——只今遞信大臣ノ御説明ニ依レバ紅露君ノ質問ニ對シテドウモ聽違ヘラレテ居ルヤウニ聽エルノデスガ、先程ノ御話ノ中ニ、將來ニ起リ易イ不利ヲ防グト云フコトデアリマスガ、此立法ハ將來ノ豫防ノ爲ニ作ラレルノデアリマスガ、現ニ現實ノ問題ニ對シテオ作りニ

ナツタモノデスカ

○頼母木國務大臣 恐ラク私ヲアナタガ御考ニナツテ居ル所へ釣込マウト云フヤウニ私ニハ聽エルノデアリマスガ、只今色々ナ問題ガ想像サレテ居ルガ、サウ云フコトヲ私ハ考ヘテハ居リマセヌ、近キ將來ニ起ルコト、又現ニ色々ノ弊ヲ生ゼントスルモノニ對シテモ、此立法ニ依ッテ有利ニ導キタイ、斯ウ云フ趣旨デアリマス

○八角委員 此趣意書ノ御説明ノ中ニ「無用ナル競業ノ傾向ヲ馴致シ、斯業ノ圓滿ナル發達ヲ阻害スルハ勿論、我が通商貿易ニモ自然惡影響ヲ及ボスノ虞アリタルヲ以テ」トアリマスガ、ドウ云フ惡影響ガ何處ニ及ンデ居ルノデアリマスカ、ソレヲ伺ヒタイ

○頼母木國務大臣 今朝蘭印協商ニ是ガ關係ガアルカナイカト云フヤウナ御質問ガアツタ、即チ外務省ガ蘭印協商ヲ有利ニ導ク爲ニ、之ヲ遞信省ヲシテ持ヘシメタンデハナイカト云フ御質問ガアリマシタガ、外務省ガ遞信省ニソレヲ強要シタ譯デモ何デモアリマセヌデ、遞信省ハ遞信省獨自ノ考デ此案ヲ作りマシタ、其趣旨ハ現ニ申上ゲタ通りデアリマス、併シ是ガ日本ノ貿易ニ非常ナ影響ヲ及ボシマス、蘭印ニ輸出スル日本

ノ商品一億五千萬圓、蘭印側カラ日本へ買フ物ハ六千萬圓、差引九千萬圓ガ日本ノ輸出入貿易ニ重大ナ意義ヲ持ッテ居ル數字デアリマスカラ、此案ガ出來マシタ爲ニ、サウ云フ方ニモ好イ影響ヲ及ボシマスナラバ、サウ云フ副作用ヲ致シマスナラバ、ソレハ洵ニ國家ノ爲ニ慶賀ニ堪ヘナイコトト私ハ思ヒマス、併シソレヲ有利ニ導カンガ爲ニ此案ヲ作ッタト云フ趣旨デアリマセヌ、趣旨ハ先刻申上ゲタ通りニ、國策トシテ同胞相闘グ、斯ウ云フヤウナコトハ絕對ニ避ケテ、海外ニ經濟的進出ヲシナケレバナラヌ、躍進日本トシテハ外國船ト十分ノ競争スル、ソレニ對スル補助ハ政府カラ之ヲシナケレバナラヌ、又「トランパー」モ若モ競争ニ立チマスナラバ、ソレニモ力ヲ付ケサシテ、無駄ナコトヲサセナイデ、其方ヘ力ヲ入レサセル、斯ウ云フ趣旨ニ外ナラヌノデアリマス

○八角委員 私ハ關聯質問デアリマスカラ是以上ハ申シマセヌガ、只今ノ御説明デハ、私ノ質問ノ要點ニハ少シモ觸レテ居リマセヌ、ソレカラ又先程ノ紅露君ノ御答ノ中ニ二十一日間ハ短イトハ思ハナイ、諸君ノ勉強ニ應ジテ政府ガ一生懸命ニヤルト仰シヤイマシタガ、昨日委員會へ出テ見マシ

タラ、政府委員ハ一人モ出デニナラナイ、參考資料モ御出シニナラナイ、ソレデモ、御勉強ニナツテ居ルノカドウカ私疑フノデアリマス

○頼母木國務大臣 其事ニ付テハ私皆様ニ御斷リヲ申サナケレバナラスト思ヒマス、昨日ノ公報ハ委員長、理事ノ選舉トナツテ居リマス、前例ニ依リマスレバ、會議ヲ續行スル場合ハ委員長、理事ノ選舉、續イテ會議續行ト云フコトニナツテ居リマス、ソレデ私ハ時間前ニ之ヲ尋ネマシタ、サウ致シマスト、今日ハ委員長、理事ノ選舉ノミデアリマシテ、會議ハ速記者ノ不足ノ爲ニ開カナイコトニ相成ッテ居ルト云フ御返事ヲ受ケマシタ爲ニ、私ハ出席致シマセヌデシタ、此點ハ私後デ續行ナサルト云フ御意思デアツタト聞キマシテ、洵ニ相濟マナイト考ヘテ居リマス、明日カラ、或ハ今晚モ十二時マデ繼續ナサルト云フコトデアリマスガ、決シテ私ハ諸君ノ御命令ニハ背カナイ積リデアリマス、何處マデモ勉強シテ十分御理解ノ行クヤウニ御説明ヲ申上ゲタイト思ッテ居リマス、左様御諒承ヲ願ヒマス

○紅露委員 餘興ガ入リマシテ大分長カッタヤウデアリマスガ、(笑聲)私本筋ニ入リマス、ドウモ大臣ノ御答辯ハ八角君モ言

ハレル通り私ニビッタリト來ナイノデアリマスガ、併シ立案ノ趣旨及ビ海運業ノ國策ニ付テ抱負經綸ヲ承リマシテ、是以上申上ゲマセヌガ、假ニ大臣ノ御答辯ナリ、又先刻來同僚ノ質問ニ對シテ政府委員ヨリノ御答辯ヲ伺ヒマス、本案ニ付テハ政府當局デハ既ニモウ六年前カラ御調査ニナツテ居タト云フコトヲ度々繰返サレテ居リマス、殊ニ本朝初メテ戴キマシタ臨時海運調査會ノ調ヲ見マシテモ、昭和五年ノ十月ニ決議ラシテ居リマス、ソレカラ海事審議會ノ同

ジ決議ノ月日ヲ見マシテモ、昭和七年ノ七月ニ當業者ハ其必要アリト認メテ決議ラシテ、政府當局ニ對シテ意思表示ヲ致シテ居ル、サウスレバ臨時海運調査會ノ決議ハ既ニ七年前デアリマス、ソレカラ海事審議會ノ決議モ是亦五年前ニ政府當局ハ御承知ノ筈ナノデアル、而モ此海事審議會ノ決議ノ内容ヲ見マス「現下ノ狀況ニ鑑ミ不當ナル競争」云々ト云フコトヲ書イテアル、既ニ七年前、若ハ五年前カラ政府當局ニ於テモ、當業者ニ於テモ、本法案ノ如キ立案ノ必要アリト云フコトヲ御認メニナツテ居リナガラ、今日マデ放任サレテ居ッテ、サウシテ今日突如トシテ御提案ニナツタ、今大臣カラ、縷々昨日ノ政府委員ノ御執務ノ事ニ付テ

御断リガアリマシタカラ、私ハ強ヒテ申上
ゲマセヌガ、私共モ昨日實ハ憤慨致シタノ
デアリマス、此非常時ニ、此短期間ニ、此
法案ヲ澤山出シテ置キナガラ——ソレハ成
程大臣ノ仰セラレル如クニ、或ハ委員長若
クハ理事其他ノ選舉ダケデアツタカモ知レ
マセヌ、先例ハサウナッテ居タカモ知レマ
セヌ、併ナガラ御承知ノ通りニ、先例ガド
ウデアラウト、或ハ其時ノドナタカニ御聽
キニナツタカハ知リマセヌガ、其後ノ協議ニ
於テ、交渉會ノ都合ニ依リ、色々ノ協議ニ
依リマシテ、現ニ一昨日ノ如キハ幹事ハ皆
他ノ委員會ニ出テ居リマスノデ、三時半マ
デ晝飯モ食ハヌデ實際勉強シテヤッテ居
リマス、然ルニ昨日ハ此參考書類モ私共ニ
呉レナイ、私共モ今日此委員會デ戴イテハ
無論質問モ出來ヌト云フノデ、私政府委員
室ニ戴キニ參リマシタ、其時ノ或ル一人ノ
政府委員ノ御言葉ガ斯ウデス、事務局ニア
ルト斯ウ言フノデス、今一人ノ政府委員ノ
方ハ委員課ニアルト言フノデス、現在其處
ニ給仕ガ二人モ三人モ居ルノデアッテ、アソ
コカラ委員課ニ取りニ行ッテモ二分トハ掛
リマセヌ、給仕ガ三人モ居ルノニ、取ッテ來
テヤラウト云フ親切ナ政府委員ハ一人モ居
ナイ、而モ煙草ヲ喫ッテ居ル、斯ウ云フ御意

慢振リデアル、此參考書類ノ形式ノ上カラ
言ッテモ此御意慢振リデアル、サウシテ此
法案ヲ突如トシテ御提出ニナッテ、サアヤレ
ト云フ、前ニ之ヲ戴イテ置ケバモト徹底
シタ質問ガ出來タカモ知レマセヌ、而モ私
共ノ方カラ戴キニ行ッタラサウ云フヤウナ
コトヲ言ハレル、政府委員室ト委員課トハ
僅カ二分ト掛リマセヌ、而モ給仕マデ居ル
ノニ持ッテ來テ呉レヨウトシナイ、現在私戴
キニ行ッタノデス、サウ云フヤウナ事情デア
リマス、ソレカラ私ハ最後ニモウ一點政府
委員ノ御答辯デモ宜シウゴザイマスガ、兎
ニ角昭和七年ノ七月、昭和五年十月ニ、當
業者總テガ認メテ、斯ウ云フヤウナ決議マ
デシテ居ル法案デアルカラ、立案ノ趣旨ハ
分ッテ居リマス、居リマスケレドモ、今日突
如トシテ此短期間ノ特別議會ニ御出シニ
ナツタ所ノ、緊迫シテ居ル事情ガアルナラ
バ、率直ニ御表明ヲ願ヒタイ、斯ウ云フ點
デアリマス

○賴母木國務大臣 其參考ニ出シマシタ決
議ヲ直チニ逓信當局ガ實行ニ附サナカッタ
コトハ逓信當局ノ責任デアリマシテ、洵ニ
申譯ガナイコトデアリマス、今後十分注意
ヲ致シマシテ、サウ云フヤウナ重要ナル決
議ガ提出セラレマシタ時ニハ、直チニ其可
否ヲ決シマシテ、之ヲ議會ニ提出シテ協賛
ヲ求メルコトニ將來ハ致シタイト考ヘテ居
リマス

ソレカラ昨日ノ時間ニ逓信當局ガ出テ居
ナカッタト云フコトニ付テハ私御詫ビヲ申
上ゲマシタガ、ソレデモイカヌト云フコト
デアリマスレバ、私ハ其當面ヲ致シマシタ
議會ノソレノ掛リニ對シテ相當ノ手續
ヲ執リマスガ、併シ前例ハ公報ニ總テ明瞭
ニスルノガ前例デアリマス、即チ委員長理
事ノ選舉、是ガ詰リ其日ノ委員會ノ當然行
ハネバナラヌ仕事デアリマス、デ、續イテ
ヤリマス場合ニハ、公報ニ載セマスカ、然
ラザレバ、委員會ノ決議ニ依ッテ今日ハ委
員長理事ノ互選ダケデアルト公報ニ載セテ
アルガ、委員會ハ會議ヲ續行スルコトニナ
ルカラ直グニ出席ヲシロト云フ命令ガ參リ
マス時ニ、初メテ出ルノガ先例ニナッテ居
リマス、併シ此會期ノ短イ時ニ此案ヲ出シ
テ、政府委員ガ一人モ出テ居ナカッタト云
フコトハ怠慢デアルト云フ御叱リハ御尤ト
考ヘマスカラ、先刻御詫ビヲ申上ゲタノデ
アリマス、是レ以上私ノ執ルベキ手段ハナ
イノデアリマス、ソレカラ突然ト出シタノ
ハドウ云フ譯カ、ンレハモウ私ガ只今マデ
御説明申上ゲタコトデ十分デアルト考ヘマ

スルガ、例ヘテ言ヘバ、斯ウ云フヤウナ事
情ガアルノデアアルカト云フ、何カアナタガ
御持チニナッテ居ル例ガアラウト思ヒマス
カラ、其例ヲ御示シ下サレバ、私ハ御示シ
ニナル例ニ付テ答辯シタ方ガ的確デアルト
思ヒマスカラ、ドウゾ左様ニ御諒承願ヒマ
ス

○紅露委員 ソレデハ申上ゲマスガ、私ノ
知り得タ所ニ依リマスルト、南洋海運ト南
洋航路ノ如キ場合ヲ想像サレルノデヤナイ
カト思フノデアリマス、ソレトモ又之ニ類
似シタ具體的ノ事情ガ御アリニナルナラバ
御示シヲ願ヒタイ

○賴母木國務大臣 其問題デアリマスレ
バ、今朝船舶局長カラモ御答辯ヲ致シマシ
タガ、其時ニ御出デニナラナカッタノデア
ルカモ知レマセヌカラ、必要デアレバ尙ホ
申上ゲマス、ソレカラ外ニ事例ガアルノデ
ハナイカト言ハレタノデアリマスガ、ソレ
ハ私ハナイト存ジマス、今差迫ッテ、直グド
ウシナケレバナラヌト云フ直グノ問題ハ茲
ニハ存シテ居ラナイト思ヒマス、立案ノ趣
旨ハ私ガ是マデ申上ゲタ趣旨ニ外ナリマセ
ヌ、ドウゾ左様御承知ヲ願ヒマス

○紅露委員 大臣ノ今ノ御答辯ヲ伺ヒマス
ト、他ニ南洋海運、若クハ南洋航路ニ類似

シタヤウナ具體的ノ事情ハ何等ナイ、ソレカラ南洋海運ト南洋航路ノ問題ニ付テハ、質問者ハ其席ニ居ラナカタノデアラウカラ、政府委員カラ答辯サセテモ宜イト斯様ニ伺ッタデアリマスガ、サウシマスルト、結局反面カラ推論致シマスルト、南洋航路ト南洋海運以外ニハ差迫ッタ事情ハナイト、斯様ニ承知致シマシテ宜シイデアリマスカ

○小野政府委員 差迫ッテノ問題ハ大臣ノ申シタ通りデアリマスルガ、今朝來申上ゲマシタヤウニ、統制ノ必要ヲ生ズルノ虞ノアル場合ハ此外ニ一、二點アルデアリマス、政府ノ助成金ヲ貰ッテ居リマスル優秀船ガ、例ヘバ紐育航路ニ全部集中シテシマフノデハナイカ、現在デモ十七、八艘入ッテ居リマス、第三次ノ助成施設ガ出來マスト、又茲ニ八艘バカリ殖エル、其船ガ又紐育航路ニ入ルト云フヤウナ虞ガアル、是ハ

虞デアリマス、現在直面シテ居ル問題デハナイノデアリマス、其外ニモサウ云フ虞ノアルモノハチヨイ／＼アリマスルガ、ソレヲドレカト云フコトハ一寸申上ゲ兼マス、ドウカ左様御承知ヲ願ヒマス

○紅露委員 大臣ノ御答辯ニ依リマス、南洋海運ト南洋航路以外ニハ差迫ッタ事情

ハナイト言ハレマスシ、局長ノ御話デハマダ他ニ一、二件アル、但シ差迫ッタ事情デハナイト云フ點カラ見マス、結局此南洋海運ト南洋航路ダケニナルデアラウト思ヒマスガ、是ハ重ネテ細カイ點トシテ法案ニ付テ後デ御伺シヨウト思ッテ居ッタデアリマスガ、關聯シテ一寸御尋シタイト思ヒマス、今御説明ノヤウナコトニ相成リマスルト、法案ノ第二條ノ「勅令ヲ以テ定ムル沿海區域ニ於テ云々」斯ウ云フヤウナモノハ適用ハ殆ドナイト云フコトニ相成ルノデハゴザイマセヌカ

○小野政府委員 是ハ現在デハナイノデアリマス、併シ此「勅令ヲ以テ云々」ハ今朝程モ説明致シマシタガ、朝鮮内地間ノ航路ハ沿海航路デス、ソレデ朝鮮内地間ノ航路ニ付テハ、將來相當競争ノ虞ガ生ズラウト思ヒマス、ソコ等ノ豫想ガアリマスモノデスカラ、勅令ヲ以テ原則トシテハ近海航路以上デアリマスガ、勅令デサウ云フモノヲ指定シテ沿海航路ノ或ルモノニハ適用スル、斯ウ云フ用意ラシテ居リマス、現在直面シテ居ル問題ハアリマセヌ、併シ將來ハ相當生ズラウト思ヒマス

○紅露委員 能ク分リマシタ、併シ大體ヲ總括致シマスルト、結局大臣ナリ政府委

員ノ御答辯ニ依リマス、差迫ッテ問題ハ唯南洋航路ダケニナルヤウニ思フ、サウスルト昭和五年乃至七年頃カラ當業者ハ既ニ競業ノ弊害ヲ認メテ決議マデシテ居ルモノヲ今日突如トシテ御立案ナスッテ、コンナ國家ノ海運業ニ將來重大ナル影響ノアル大問題ヲ御出シニナルト云フ必要ハ、ドウモ私共ナイヤウニ思フ、最後ニ此問題ニ付テハ是デ打切りタイト思ヒマスカラ、率直ニ御答辯願ヒタイノデスガ、結局斯ウ云フコトニナリマス、此大法案ハ國家ノ海運業ニ大影響ガアル、之ヲ臨時議會ニ緊急ノ必要アリトシテ御提案ニナッタニ付テハ、南洋航路一ツヲ解決センガ爲ニ御提案ニナッタ、斯ウ云フ非難ヲ致シテモ差支ナイヤウニ思フノデアリマス、此點ノ御辯明ヲ伺ヘレバ伺ッテ見タイト思ヒマス

○賴母木國務大臣 度々申上ゲタ通り、南洋海運ノ問題ガ茲ニ最近ニアルカラ、ソレデ此法案ヲ出シタ——是ハ左様ナ法案デアリマセヌ、ソレハ本日午前ニモ十分ニ御話ヲ申上ゲタト考ヘルノデアリマス、此海運業者ノ決議ガ昭和七年デアリマス、サウ云フ統制ヲシロト云フ決議ラシテ、サウ云フ時期ガ達シテ居ッタニモ拘ラズ、ソレヲ其當時立案シナカタコトハ、遞信省ノ怠慢デア

ルト云ッテ宜シイ、ソレニ付テハ私ガ先程御詔ヲ申上ゲタ、私ガ遞信省ニ御厄介ニナリマス、ト直グニソレヲ見マシテ、サウシテ此案ガ既ニ出來テ居ル、故ニ私ノ將來海運政策ニ關スル意見ヲ遂行スル上ニ障礙トナルベキコトガ、此案ガナイト起リ易イト私ハ考ヘマシタカラ、遂ニ今度ノ議會ニ提出シタ譯デアリマス、外ニハ何モ理由ハアリマセヌ

○紅露委員 此點ニ付キマシテハ質問ヲ打切ラウト思ヒマシタガ、大臣ハ洵ニ奇怪ナルコトヲ御答辯ニナリマスノデ重ネテ伺ヒマス、此提案ノ理由書ニ何ト仰セニナッテ居リマス、近時海運業者間ニ不當ノ競業ヲ惹起シ云々、ソレカラ其末段ニ行ッテ「仍テ速ニ如斯弊害ヲ」云々はハドウ云フ理由デスウナッテ居リマス、今ノ御答辯ト矛盾撞著スルヤウニ思ヒマスガ、此點ノ御答辯ヲハッキリ御願シタイ

○賴母木國務大臣 私ハ少シモ矛盾シテ居ナイト考ヘマス、提案ノ理由ハ先程申シマシタ通りデアリマシテ、ソレカラ只今御讀ミニナッタコトモ其通りデアリマス

○紅露委員 ソレデハ益／＼分ラナクナルノデアリマスガ、先程來大臣及政府委員ニ此法案ヲ緊急ノ必要アリトシテ、此臨時議會

ニ御出シニナツタ特別ノ事情ハアルカト云フコトヲ御同致シマス、ソレハナイト云フ、サウシテオ前サウ云フコトヲ言ハヌデモ、若シオ前ガ知り得テ居ル所ノ具體的事實ガアルナラバ示セト云フカラ、私ハ南洋海運ト南洋航路ノヤウナ問題デヤナイカ、若シ之ニ類似シタ所ノ問題ガアルナラバ、御示シヲ願ヒタイト云フコトヲ申上ゲルト、大臣モ政府委員モ、此南洋航路及ビ南洋海運以外ニハナイト仰セラレル、ナイト仰セラレルナラバ、此南洋海運ト南洋航路ニ歸著スル、然ルニ提案ノ理由ニハ「近時動モスレバ海運業者間ニ不當ノ競業ヲ惹起シ」云々「海運ノ健全ナル發達ヲ阻害スルノ憂ナシトセズ仍テ速ニ如斯弊害ヲ剪除シ」云々はハ何ヲ一體剪除スルノデスカ、何處ニ競業ノ事實ガアルノデスカ、何處ニ不當ナル競業ガ惹起サレテ居ルカ、前ノ御答辯ト殆ド矛盾著シタ御答辯ト私ハ考ヘル

○賴母木國務大臣 先程私ハ兎ニ角國策ノ上カラ考ヘテ、將來ノ統制ガ亂レト云フ虞ガアルノデ之ヲ出ス、大局カラ出スト云フコトニ述ベマシタノデアリマスガ、先程管船局長モ御答辯申上ゲマシタ中ニ、紐育航路ニ又今後八艘モ入り込ム虞ガアルト云フコトヲ申上ゲタノデアリマスガ、若モ私

ガ考ヘテ居リマスルコトヲ段々行テ行キマスナラバ恐クソレ以上ニ澤山ナ競争ヲ惹起スルヤウニナルト考ヘマス、ソレヲ具體的ニ何處ガドウダ、何處ガドウダト云フコトハ私ニハマダサウ云フ小サイコトマデハ分テ居リマセヌ、大體管船局長ガ能ク知ッテ居リマスカラ、若モソレガ不満足デアリマシタナラバ政府委員カラ御説明ヲ申上ゲマス、兎ニ角此案ガ海運國策トシテ必要ナモノデアルト私ハ信ジテ提出致シテ居ルノデアリマス、左様デアリマスカラ、若モ此案デハ國策ノ上ニ非常ナ海運業ノ發展ヲ阻止スルモノダト御考ヘニナルナラバ、ドウゾアナタ方ノ考ヘ通りニ御判斷シテ戴キタイト思ヒマス

○紅露委員 私ハ此案ノ運命ヲドウスルカ或ハ此案ヲ否決スルカサウ云フヤウナコトヲ申上ゲテ居ルノデハナイノデアリマス、大臣ノ今ノ最後ノ御話ヲ伺フト、御前達勝手ニ此案ヲ審議シロ、是ハ大臣カラ仰セラレル迄モナク吾々ハ審議權ヲ持ッテ居ルノデアリマス、審議致シマスガ、私ノ御伺セントスルコトハ、苟モ此特別議會デ法律案ガ多數アル所ヘ此案ヲ出シテ、吾々ハ夜ノ十二時マデモ大臣ト一緒ニ苦ンデ、此案ヲ審議シテ、サウシテ此案ガ生レ

テ一體何ヲ統制シ、何ヲ一體剪除スルノダ、南洋航路カ南洋海運以外ニナイト云フコトニナル、又管船局長ガ云々ト仰セラレルガ、ソレハ管船局長ハ大臣モ御聽キノ通リ北米航路ハ憂ガアルト仰シヤッテ居ルノデスカ、此理由書ニ依レバ憂デハナイ「近時本邦海運ノ顯著ナル發展ニ伴ヒ動モスレバ海運業者間ニ不當ノ競業ヲ惹起シ」云々ト切ッテアル、サウシテ惹起シタ結果「海運ノ健全ナル發達ヲ阻害スルノ憂ナシトセズ」ト云フノハ其ノ後ノ文ヘ付イテ居ル、不當ノ競業ヲ惹起スルト云フコトヲ書イテ居ル、而モ「近時」ト書イテアル、然ラバ近時「動モスレバ海運業者間ニ不當ノ競業ヲ惹起シタ」事實ハ何カ、ソレヲ伺ヒタイト言ッタ所、大臣ハ此案ヲオ前達勝手ニ審議シロト言ハレタ、ソレハ大臣カラ仰セラレルマデモナク吾々ハ審議權ヲ持ッテ居ルカラ審議スル積リデ居リマスガ、審議スルニハ政府當局トシテモ誠心誠意、此案ハ斯ク々々ノ理由、斯ク々々ノ事情デ提出シタト云フコトヲ御差支ナイ限り御發表ヲ願ヒタイ、又ソレヲ發表スルコトガイケナイト云フナラバ私ハ質問ヲ打切りマス、併シ大體第一點トシテ私ノ御伺セントスルコトハ私自身ニハ分リマシタカラ

〔中井委員長代理退席、委員長著席〕
更ニ第二點トシテ伺ヒタイコトハ、第一點ニ關聯シテ殆ド御伺シテシマッタノデアリマスガ、不當競業ノ具體的事實、之ヲ御差支ナケレバ御示シヲ願ヒタイ、同時ニ此法案ハ外務省ナリ、海軍省ナリ、總テノ各省ト御協議ノ上デ、各省モ御同意ノ上御提案ニナツタドウカ此點ヲ伺ヒタイ

○小野政府委員 今ノ御話デアリマスガ、私共ノ何ハ蘭印問題ガ直面シテ居リマスガ、憂ト云フノハ割合ニ近キ憂デアリマシテ、相當何トカシナケレバナラヌ事能ガ直面シテ來ルノデハナイカト云フコトガアルノデアリマス、紐育航路ニ付テモアルノデアリマス、其點ハソレト致シマシテ各省ニ相談シタカト云フ御話デアリマスガ、是ハ外務、陸海兩省、皆諒承ノ上、本案ヲ此議會ニ出スコトガ最モ適切デアルト云フ御趣意ノ下ニ出テ居リマス、又色々御質問ノ中ニ、蘭印問題ニ付テ言明ガ出來ルナラバト云フ御話ガアリマシタガ、實ハ午前中ニ或ル程度ニ御話シタノデアリマス、此處ニ外務省通商局長モ見エテ居リマスカラ、若シ御必要トアリマスレバ蘭印問題ニ付テ午前中説明致シタコトト思ヒマスガ、又説明シテモ宜シイト思ヒマス

○紅露委員 ソレハ又速記録ヲ拜見致シマ

スカラ宜シウゴザイマスガ、私カラモ御斷リシテ置カケレバナラヌノハ私ハ外ニモ委員ヲ二三ヤッテ居リマスノデ、アッテ、コッチ飛ビ廻ッテ居リマスカラ、或ハ重複シテ質問ヲ申上ゲルカモ知レマセヌガ、ドウカ重複シタ點ハ仰シヤッテ戴キマシタナラ、早速記録デ拜見致シマシテ、又明日デモ質問致シタイト思ヒマス、ソレカラ尙ホ陸海軍兩省及ビ外務省ニモ御相談ノ結果御協力ヲシテ此法案ガ出來タヤウニ伺ヒマシタカラ、陸軍省、海軍省、外務省ニ對スル質問ハ又明日デモ致スコトニ致シマシテ、逓信省ノ所管ニ對シテノミ質問ヲ進メタイト思ヒマス

第三點ハ海運業ノ航路統制ノ是非トデモ申シマセウカ、サウ云フ點デ一ツ伺ッテ見タイノデアリマス、現代ハ所謂統制流行ノ時期デアリマシテ、政府モ色々統制ヲヤッテ居ラレルヤウデアリマスガ、私考ヘマスルニ、此統制ト云フコトハソレノ對社會的ノ立場カラ、業者ノ專行ヲ多少ナリトモ掣肘セントスル色彩ヲ持ッテ居ル、然ルニ此法案ハ海運業者自體ヲ制限スルト云フ所ニ此法案ノ他ノ統制法案ト異ル所デアルト思フ、ソレデ此法案ヲズット見マス、ドウモ國內ノ統制ノミニ重キヲ置キ、外國ノ船舶

ニ對スル統制ト云フモノガ一ツモ入ッテ居

ナイ、サウ云フヤウナ今申上ゲマシタ外國船舶ニ對スルモノガナイノミナラズ、今一寸申上ゲマシタ特殊ナ情勢ヲ持ッテ居ルンダカラシテ、特殊ナ法案ヲ立案シテ戴カケレバナラナイト思フノニ、他ノ統制法案ト比較シテ其特殊性ヲ特ニ考慮シタト云フヤウナ點ガナイヤウニ思フ、例ヲ申上ゲマスト、他ノ産業ヲ多少デモ掣肘スルト云フ意味ガナイカラシテ、其業者自體ヲ掣肘シ、統制シヨウトスルカラシテ、此法案ヲ實施シタ結果ヲ考ヘマスルニ、大海運業者ヲ保護スル結果ニナッテ、所謂弱小ノ船舶ハ恩惠ヲ受ケナイ、隨テ我が海運業ノ將來ノ發展ニ却テ貢獻スル所デハナイ、寧ロ發展ヲ阻止スル結果ニナリハセヌカト云フヤウナ憂ガ隨分アルト思ヒマス、此特殊性ニ關スルコトヲ何故法文ニ考慮シナカッタカ、ソレカラ大海運業者ヲ保護スル結果ニ陥リハセヌカ、此二點ニ付テ御意見ガ伺ヘレバ伺ヒタイ

○小野政府委員 外國船ニ取締ラシテ居ラ

ヌト云フ點デアリマスガ、是ハ逓信大臣カラモ御説明申上ゲマシタ通り、日本ノ海運ハ外國ニ進出スルコトヲ使命トスル、海外進出ヲ使命トシテ居ル日本海運デアルカ

ラ、外國船ヲ内地デ排斥スルコトハ難デ日

本人ガ海外デ排斥セラレル處ガアル、ダカラ此法案ハ外國船ニ取締ヲ及ボサヌコトガ一ツノ特種事情ト思フノデアリマス、斯ノ如ク海外進出ヲ眼目トシテ居ル結果、內國船同志ノ無用ノ爭ヲヤメテ、外國船ニ當ラウト云フノガ此法案ノ趣旨デアリマス、又第二點ノ或ル大會社ヲ擁護シテ群小ノ會社ニ害ヲ及ボス、斯ウ云フ御質問デアリマスルガ、是ハ實ハ今朝程カラ何デモ御質問ガアリマシタ所デアリマスガ、私共ノ方デハ既

設ノ會社、既設ノ大資本ヲ擁護シヨウト云フ意味ハ毛頭ナイノデアリマス、是ガ大會社同志ノ爭デアラウト、社外的船同志ノ爭デアラウト、苟モ其不當ナ事實ガアレバ之ヲ統制致シテ、打ッテ一丸トシテ強力ニ海外ニ出ルヤウニシヨウト云フコトニ致シテ居

リマス、大會社ノ擁護ニナルト云フコトニハ毛頭考ヘテ居ラヌノデアリマスルガ、是ガ運用ニ付キマシテハ、私共モ相當慎重ナル態度ヲ執リマシテ、今ノヤウナ若シ大會社ノ擁護ノヤウナ弊害ニ陥ル如キ場合ヲ是非トモ避ケルヤウニシタイト考ヘテ居リマス

○紅露委員 其點ニ付テモ質問ガアッタトスレバ打切りマシテ、然ラバ其次ニ御伺シ

タイノハ、或ハ是モ質問ガアッタカモ知レ

マセヌガ、アリマシタラドウゾ左様御察シテ願ヒタイ、此法案ノ第四條デスガ、此法文自體ノ細カイコトハ又後デ伺ヒマスガ、公益ニ反スル認定デアリマスガ、是ハドウ云フヤウナ範圍ニ於テドンナ制度ニ於テ御認定ニナルノカ御示シテ願ヒタイ

○小野政府委員 是ハ實際問題ニ互リマシテハ、相當困難ナ場合モアルカモ知レマセヌガ、例ヘバ石炭ノ運賃ガ非常ニ暴騰シテ、石炭ノ消費者階級ニ運賃暴騰ニ依ル生活上ノ不安ヲ來タス、或ハ公益ニ觸レルト云フ程度ニ運賃ガ暴騰致シマスレバ、最前島嶼ノ問題ガアリマシタガ、例ヘバ島嶼ノ貧困ナ住民ノ爲ニ、此島嶼關係ノ運賃ガ非常ニ高クナル、サウシテ産業上公益ヲ害スルト思ハレル程度ノ壓迫ヲスルト云フヤウナ場合ニ之ヲ發動致ス積リデアリマス、公益ノ具體的標準ニ付キマシテハ、之ヲ具體化スルコトハ極メテ困難デアリマス、大體只今ハサウ云フ積リデ居リマス

○紅露委員 其「公益」ノ一定ノ基準ヲ政府トシテ御發表ニナルコトハ困難カモ知レマセヌガ、或ハ社會通念ニ依ルトカ、何トカ、ソコニ據リ所ガナケレバナラヌ、是ハ公益ニ反スルノダ、是ハ反シナイノダト

云フコトヲ其時ニ無暗矢鱈ニ決メラレタノ
デハ困ルト思フノデス、所謂公益ヲ定ムル
基準如何ト云フヤウナコトニナルカモ知レ
マセヌ

○小野政府委員 是ハ今質問者ノ方デモ非
常ニ困難ダト云フコトデアリマスガ、大體
ニ於テ社會通念ト云フコトデアルト思ヒマ
ス、唯ソレノ基準ヲ具體的ニ示スト云フコ
トハ非常ニ困難デアリマス、此處デ之ヲ左
樣致シマスルニ付キマシテハ、航路統制委
員會ト云フモノノ可決ヲ必ズ經ルコトニナ
テ居リマス、ソレガ公益ニ觸レタカドウ
カト云フコトハ委員會デ決定スルコトニナ
ルノデアリマスカラ、大體ノ基準ハアリマ
ス、社會通念ニ依ルト云フコトニナルノダ
ト思ヒマス、一々ノ具體的ノ事情ヲ能ク研
究致シマシテ、是ハ果シテ消費者階級ノ利
益ヲ害スルモノダト云フコトヲ研究シタ上
デ決メルコトニナルト思フノデアリマス

○紅露委員 ソレカラモウ一ツソコデ御伺
シタイノハ「海運業ノ健全ナル發達」ト云
フ文句ヲ使ッテ居ラレマスガ、此「海運業ノ
健全ナル發達」ト云フ觀念ノ中ニ、業者ノ
利益ト云フヤウナコトヲ含メテ解釋シテ宜
シイノデスカ承リタイ

○小野政府委員 業者ノ利益ト申シマス
ト

幾分語弊ガアリマスガ、或ル業者ガ相當ニ
立行ク程度ト云フコトハ考ヘラレル、動モ
スレバ共倒レニナル、サウシテ我ガ海運ハ
却テ外國船ノ侵入ヲ導クト云フヤウナコト
ニナラナイヤウニ、業者自體ノ或ル程度ノ
事業ノ利益ヲ考ヘテヤルコトガ必要ダト思
ヒマス、要スルニ經營ノ合理化ト云フ所ニ
著眼シテ置キタイト思ヒマス

○紅露委員 サウスルト反面國家經濟ノ上
カラ言ッテ、今局長サンノ御答辯ニ依リマス
ト、當業者ノ利益ト云フモノヲ考ヘテヤッ
テモ宜シイト云フヤウナコトニナルト、國家
經濟、モット具體的ニ言ヘバ國家ニ現在以
上ノ負擔ヲ負ハセテモ宜イ、斯ウ云フ風ニ
考ヘテ宜シイノデスカ、業者ノ利益ヲ保護
シテヤレバ、健全ナル發達ヲ圖ルニハ、ド
ウシテモ國家ガ或ル程度ノ補償ヲスルト
カ、損失スルトカト云フコトガ當然起ッテ來
ル、サウスルト此健全ナル發達ヲ圖ルト云
フ觀念ノ中ニ、本人ノ利益ト云フコトヲ考
ヘテヤルノダト云フコトニナレバ、現在以
上ニ國家ガ損失ヲ受ケテモ宜イト考ヘテ宜
シイノデスカ

○小野政府委員 經營ノ合理化ヲスル爲ニ
或ル程度國家ガ補償シナケレバナラヌ場合
ガアリハセヌカト云フ御質問デアリマス

ガ、ソレハ實ハ今朝モ非常ニ出タノデアリ
マス、現在デハ補償ト、此統制ニ依ッテ假ニ
解釋セラレルモノガアリマシテモ、ソレニ
對スル補償ハナイコトニシテ居ルト答辯ヲ
致シテ居ル次第デアリマス

○紅露委員 ソレデハソレハ速記ヲ拜見ス
ルコトニ致シマス、ソレカラモウ一ツ大體
ノ御質問ト致シマシテ、是ハ私ハ素人デ餘
リ知リマセヌガ、海運業ニハ「同盟」ト云フ
モノガアリマシテ、非常ニ強力ノヤウニ伺ッ
テ居ルノデアリマス、其他通商擁護法トカ
色々アルノデアリマセウガ、是ト本法案ト
ノ關係ハドウ云フヤウニナッテ居リマスカ、
御説明ヲ願ヒタイ、是モドナタカノ質問ガ
アリマシタラ宜シウゴザイマス

○小野政府委員 海運業ノ特殊ノ一ツト致
シマシテ、如何ナル所デモ大體大概同盟ヲ
結ンデ居ルノデアリマス、例ヘバ此近イ所
デハ、最近壞ハレテ居リマスルガ、朝鮮米ヲ
内地ニ輸入スル鮮航同盟、朝鮮米ヲ積取リ
ノ同盟、ソレカラ北洋ノ木材ヲ内地ニ持ッ
テ來ル北洋同盟、ソレカラ大キナ所デハ歐
航同盟、歐洲同盟、大體此同盟ガ網ヲ張ッ
テ居ルノデアリマスルガ、是ガ此離合集散
ヲ致シマシテ居ルノデアリマス、此法案ト
其同盟ガドウ云フ關係ガアルカト云フ御話

デアリマスルガ、私共ノ方デハ成ベク海連
界ニハサウ云フ同盟ヲ作ラセルヤウニ助長
シヨウト思ッテ居ルノデアリマス、而シテ
此法案ハ此同盟ニ相當密接ナ關係ヲ持ッ
テ居リマス、第三條ニモ書イテアリマスル
ガ、私共ハ不當ナ競争デアルト思ハレマシ
タ場合ニハ先ヅ勸告ヲシテ、勸告ヲ肯カナ
ケレバ同盟ヲヤレ、斯ウ云フ風ニ第二段ノ
工作トシテ、海運同盟ヲ結ブヤウニ、所謂
近頃ノ言葉デ申シマスト自主的統制、サウ
云フ方法ヲ探レト云フ方ニ推シ進メル積リ
デアリマス、同盟ト此法案トノ關係ハ斯ウ
云フヤウナ次第デアリマス

○紅露委員 ソレカラ法文ノ細カイ質問ヲ
申上ゲル前ニ、一體今度御提案ニナリマシ
タ航路統制法ノヤウナモノヲ、各國デハ既
ニ實施シテ居ルノデアリマスカ、御調査ニ
ナッテ實例ガアリマシタラ御示シテ願ヒタ
イ

○小野政府委員 是ト同ジヤウナ法律制度
ハ各國ニハナイト思ヒマス、唯日本ノ特殊
事情ト申シマスカ、日本ハ東洋ノ太平洋ヲ
控ヘマシテ、非常ニ大キナ「マーケット」ヲ
有ッテ居ルノデアリマスカラ、其東洋ニ唯
一ツ海運國トシテ日本ガ非常ナ優勢ナ地歩
ヲ占メテ居リマス、ソコデ英吉利デアリマ

ストカ、佛蘭西デアリマス。海運國ガ直グ近クニアッテ、鎬ヲ削ッテ居ル状態ト非常ニ異ルデアリマス、ソコデ日本ノ東洋ニ於ケル特殊ナ事情カラ、日本船同志ノ競争ト云フコトガ、外ノ海運國ヨリハ相當多イト私ハ心得テ居リマス、随テ外ノ海運國ニハアリマセヌガ、日本ノ東洋ニ於ケル地位カラ見テ、特殊ノ事情デ斯ウ云フ必要ラ感ズルノデアリマス、唯一ツ外國ノ制度デ之ニ似タモノガアリマス、最前大臣カラモ申シマシタヤウニ、將來ノ非常ノ爲ニ必要デアル、將來遞信省デ或ル積極的政策ヲ假ニ施行致シマスルト致シマスレバ、政府ノ助成金ナリ補助金ナリ貰ッタ船ガ相食ムト云フ實情ニ至ル虞ガ十分アルノデアリマス、其點カラ致シマシテ、英吉利ニ於キマシテハ、一昨年來二百萬磅ノ社外船ニ助成金ヲ出シテ居リマス、英吉利ハ法律デアリマセヌデ、其助成金ヲ出ス條件ト致シマシテ、政府ノ助成金ヲ貰ッタ船ハ競争ヲシテハイカスト云フコトニナリマシテ、是モ不定期船統制委員會ト云フモノヲ設ケマシテ、助成金ヲ貰ッタ船ガ荷物ヲ奪ヒ合ヒヲシナイヤウニ統制シテ居リマス、是ハ法律デアリマセヌケレドモ、制度トシテハサウ云フモノガアリマス、其外ニハ現在ノ

所、之ニ類似シタモノハナイト思ヒマス

○紅露委員 大體大臣始メ政府委員カラ色々伺ヒマシテ分リマシタノデスガ、最後ニモウ一點、大臣ニ御伺シテ見タイト思フノデアリマス、本會議デ大臣ノ御説明ヲ伺ヒマス、世界三大海運國ノ一ツニ日本ガ列シテ居ル、併ナガラ第三位デアルト云フヤウニ伺ッタノデアリマス、實際ノ力ハ英米ニ比シテ、遙ニ下位ニ在ルト思フノデアリマス、此際我ガ海運ノ隆盛ヲ期スル意味カラ行キマシテモ、今第三位ニ在ル我國ノ海運業ヲ茲デ統制セヌデモ、モット先デ統制シタライ、デヤナイカ、所謂其時期ニアラズ、本法案ヲ提出スル時期ニアラズト云フヤウナコトデ非難シテ居ル者モアルノデゴザイマスガ、其點ニ對スル大臣ノ御所見ガ伺ヘレバ結構デゴザイマス

○賴母木國務大臣 今朝政府委員カラ御説明申上ゲタト思ヒマスガ、日本ニニツノ説ガアル、即チ自由競争ニ任セタ方ガ宜イ、一ツハ只今政府ガ船舶ヲ改良スル爲ニ、新シイ船ヲ造ル者ニ助成ヲスル、サウシテ優秀船ヲ成タケ多クスルト云フ政策ヲ執リ、尙ホ其上ニ此航路統制法ヲ出スト云フ一ツノ流ト、二ツガアッテ、各主張スル所、聽クベキ理由ガアルト思フノデアリマス、併ナガラ私ハ屢、申上マスル通りニ、最近ノ海外ニ於ケル日本ノ船舶ノ發展ハ要スルニ優秀船ヲ造ッテ、サウシテ外國船ト競争ヲシテ有利ナ地位ニ進ンダト云フ所ニ、餘程實際ノ理由ガアルト私ハ考ヘテ居ルノデアリマス、ソレデ自由競争ニ任セルト云フコトニナリマスレバ、今局長カラ申シマシタヤウニ、日本ガ四面海ニ圍マレタ、殊ニ東洋ノ海運國トシテ、周圍ノ接近シタ國ニ大イナル海運ヲ有ッテ居ル國ガアリマセヌカラ、自國船同士ノ競争ヲ免レナイヤウナ状態ニナルコトハ、大體ニ於テ考ヘラレルノデアリマス、デアリマスカラ、ヤハリ私ハ六百萬噸ヲ目安トシテ進マウトシテ居リマス、私ノ考カラ申シマシテ、ヤハリ相當ノ統制ヲ附ケテ行カナケレバ、折角造ッタ優秀船ハ、日本ノ優秀船ト互ニ相食ムト云フ結果ヲ招來スルト考ヘマシテ、此案ヲ作リマシタ次第デアリマス、ドウゾ左様御承知ヲ願ヒマス

○紅露委員 ソレデハ此法案ノ細カイ點ニ付テ、數點御伺シタイト思フノデアリマスガ、政府委員ノ御答辯ヲ煩ハシタイト思ヒマス、第二條デゴザイマスガ「又ハ勅令ヲ以テ定ムル沿海區域」ト云フ此勅令ノ内容ハモウ御決マリニナッテ居リマスノデスカ

○小野政府委員 是ハ今御手許ニ出スマデニ至ッテ居リマセヌガ、先申上ゲマシタヤウニ、極メテ簡單デアリマシテ、原則トシテハ近海以上デアルガ、朝鮮内地間ハ沿海デアル朝鮮内地間ヲ含マセル、ソレカラ北海道、樺太内地間ト云フモノハ是ハ沿海デアリマスケレドモ、是モ一ツ勅令デ決メマシテ、是モ統制ヲ適用シ得ル區域ニシヨウ、今考ヘテ居リマスモノハ朝鮮内地間、樺太内地間、是ハ鮮米又ハ北洋材積取モ適用ヲ受ケサセヨウト云フ腹案ヲ持ッテ居リマス、勅令ノ内容モ恐ラクソレト變リナイト思マスガ、若シ何ナラ案ヲ差上ゲテモ宜シウゴザイマス、極メテ簡單ナモノデアリマス、沿海航路デモ比較的重要ナモノヲ

……

○紅露委員 ソレダケ伺ヘバ分リマシタ、次ハ第三條以下デアリマスガ、此三條ノ中デ一寸分ラナイノハ「不當ナル競争ノ防止」トアルノデアリマスガ、其反對ニ正當ナル競争ト云フモノハ許サレルノデアリマスカ、正當ナル競争ト云フコトハラカシイノデアリマスガ、競争モ或ル程度マデハ許サレルノデスネ、不正ニ行カナケレバ、所謂不正競争ノ意義、ソレカラ程度範圍ト云フモノヲ御示シガ願ヘレバ結構デアリマス、ソレ

……

ニモウ一ツ「必要アリト認ムルトキハ」ト云フコトガ書イテアリマスガ、其他ノ條文ニモ第二項ニモ「前項ノ勸告其ノ效ヲ奏セザル場合ニ於テ政府ハ必要アリト認ムルトキハ」第四條、第五條皆、政府ハ必要アリト認メル「ト」書イテアル、是ハ認定權ハ全然政府ニアルノカナイノカ、若シ認定權ガ政府ニアリトスレバ第八條及第九條ノ統制委員會ハ諮問機關ニナルノデスカ決議機關ニナルカ分リマセヌガ、或ハ午前中ニ質問ガアツカ知レマセヌガ、其統制委員會トノ關係、此三點ダケ一ツ御示シ願ヒタイト思ヒマス

デアリマス、特ニ現在考ヘテ居リマスルノハ、抽象的ニ申シマスレバ、日本ノ海運ノ健全ナル發達ヲ阻害スルヤウナ場合、抽象的ニ申シマスレバソレガ不當ナル競争デアアル、斯ウ申上ゲ得ルノデアリマス、サウシテ日本ノ海運ノ健全ナル發達ヲ阻害スル場合トハドンナコトカト云フコトニナリマ

シテ居ルト云フコトガ非常ニ明瞭デアアル、然ルニモ拘ラズ既設ノ航路ヲ通シテ見ヨウトカ、或ハ一時其航路ガ少シ良イヤウナ氣配が見エルカラ所謂先行キガ良ササウデア

フコトハ、必要ト云フノハ行政官廳ノ實ハ自由裁量デアリマシテ、逓信大臣ガ已ムヲ得ズ之ヲヤラナケレバナラスト云フ場合ニハ裁定ヲ致スノデアリマス、最後に統制ノ委員會ノコトハ御手許ニ委員會ノ組織モ差

○紅露委員 説明ノアリマシタ點ハ速記録ヲ拜見致シマスカラ結構デアリマス

ト見ラレルトカ云フ具體的ノ問題ニナリマスト、色々ナ場合ガ想定サレルノデアリマス、唯非常ニ交通量ノ少イ所ニ持ッテ行ッテ、ソレ以上ナ配船ヲスルト云フヤウナ場合ガ相當アル、而シテ交通量ガ多イカドウ

今考ヘテ居リマスノハ抽象的ニハ申上ゲ得ラレマスガ、具體的ニ述ベルト云フコトハ極メテ困難デアリマスカラ、言ヒ得ル程度ハ交通量ノ非常ニ少イニ拘ラズ、無謀ナル配船ヲスルト云フ程度デ、抽象論トシテハ

○紅露委員 今朝戴イタ參考書ハ委員ノ數ヲドウスルトカ、ドウ云フ方面カラ採ル

○小野政府委員 不當ナル競争トハ何ゾヤト云フ點モ實ハ午前中ニ申シデアリマス

カト云フコトハ政府ノ認定デ甚ダアヤフヤデヤナイカト云フ議論モソコニ起リマスガ、吾々ノ現在ノ考ト致シマシテ、又過去ノ實例カラ見マシテ、誰ガ見テモ殆ド明瞭デアルト云フ競争ガ行ハレテ居ル、サウ云フ不當競争ガ澤山アルノデアリマス、ソレ

○紅露委員 ソレハ拜見致シマシタガ、唯上ゲデアリマスカラ……

○小野政府委員 一應ノ認定權ハ逓信大臣ニアル、併シ最後ニ逓信大臣ガ不當ト認メ

○小野政府委員 一向私ノ説明ハ厭ヒマセヌガ、是モ實際ノ公益上ノ問題デ何ガ不當ナリヤ否ヤト云フコトニ付テハ結局ハ社會見解ト云フコトノ結果ニ落チルカモ知レマ

セヌガ、ソレハ統制委員會デ之ヲ決メルノ

○小野政府委員 一應ノ認定權ハ逓信大臣ニアル、併シ最後ニ逓信大臣ガ不當ト認メ

○小野政府委員 一應ノ認定權ハ逓信大臣ニアル、併シ最後ニ逓信大臣ガ不當ト認メ

限ハ遞信大臣ガ持ッテ居ルノデアリマス。一應不當競業ト認メテ統制委員會ニ掛ケル權限ハアル

○紅露委員 サウスルト一寸ヲカシイノデスガ、何ト言フノデスカ、言葉ハ語弊ガアルカモ知レマセヌガ、所謂一般の認定權ハ遞信大臣ニアッテ、最後のト云フカ所謂最後

ノ決ハ委員會ニアルト云フコトニナリマス。ト、遞信大臣、所謂遞信大臣ト云ッテ所デアナタ方ガ御決メニナルノデアリマセウガ、アナタ方ガ勝手ニ決メテヤッテモ宜イト云フコトニナルノデヤナイノデスカ、所謂一般

的認定權ハ——今局長サンノ御話デハ、一應ノ認定權ハ遞信大臣ニアルト云フコトニナルト、變ナモノニナリハシマセヌカ

○小野政府委員 今申上ゲマシタ通りニ、第一次ノ認定權ハ遞信省ニアルノデアリマスガ、是ハ遞信省ト雖モ事實ニ誤ッテ居ル認定ヲスルカモ知レマセヌガ、私共ハ適正ナル運用ヲ期スルノデアリマス、第一次ノ認定ハ遞信省デ可ナリト認メタ場合ニハ或ル程度ノ勸告ヲヤル、ソレデ諸カナイ場合ニハ航路ノ協定ヲ命ズル、而シテ航路ノ協定成立セザル場合ニ於テ最後ノコトニ出ル、サウ云フコトデアリマシテ、行政官廳ノ第一次的ノ不當ナル認定ハ其法律デ認メテ居

ルモノト解釋スルノデアリマス、ソレデ最後ニ諮問委員會デ否決サレル場合ガアルカモ知レマセヌケレドモ、今勝手ニ私共ガヤルト云フ御話ガアリマシタガ、成ベク慎重ニ取計ヒマシテ、行政官ノ勝手氣儘ニナライヤウニ慎重ノ考慮ヲ拂ッテ行キタイト思ヒマス

○紅露委員 ソレハ一寸ヲカシイノデスガ、第八條ヲ見マス「第三條第二項又ハ第四條ノ規定ニ依ル命令ヲ爲サントスルトキハ勅令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外」ト云フノデアルカラ、此勅令ノ内容ヲ勝手ニ何カ規定シテ置ケバ、統制委員會ニ掛ケナクテモ宜イデアリマセヌカ、若シ大臣ニ一應ノ認定權ガアッテ、最後に認定權ハ——統制委員會ニ掛ケル場合ハ別デスガ、勅令ニ別段ノ規定ガアル場合ノ外ハ統制委員會ニ掛ケナイデモ宜イノデスカラ、結局遞信大臣ニ認定權ガアルト云フコトニナルト思ヒマスガ——第八條ノ第一項ノ末段カラ見ルト見ラレマス

○小野政府委員 勅令ニハ極ク例外ノ場合ダケ委員會ニ掛ケナクテモ宜イト云フ規定ガアリマスガ、殆ド原則ト致シマシテ、必ズ委員會ニ掛ケルト云フコトニナッテ居リマス、委員會ニ掛ケヌデモ宜イト云フコト

ハ、是ハ意見ノ相違ニナルカモ知レマセヌガ、遞信大臣ハ不當ナリト認定致シマスルガ、事柄ヲ慎重ニスル爲ニ委員會ノ議ニ諮ラ、委員會ガ右カ左カ、不當ナリヤ不當ニ非ザルヤト云フ決定ヲスル譯デアリマスカラ、遞信大臣ノ認定ヲ慎重ニスル爲ニ、一般ノ知識ヲ要求シテ統制委員會ニ諮ルコトデアリマスカラ、私ハ茲ニ矛盾ガナイト見

ルノデアリマスガ、遞信大臣ノ認定通りニ最後マデ行ッテ、委員會ニ掛ラナイト云フ制度ニハ勿論賛成シ難イノデアリマス、ドウ云フコトナンデゴザイマセウカ、第一次ノ認定權ハ遞信大臣ガ持ッテ居ル、或ハ行政訴訟デモ或ル處分ヲ行政官廳ガスル、行政裁判所デソレヲ否決サレル場合モ勿論アルノデアリマスカラ、遞信大臣ガ不當ダト認メ

テモ、統制委員會デ是ハ正當ダ、斯ウ云フコトハ有リ得ルト思ヒマス、併シ第一次ノ認定權ハ遞信大臣ニアリマスケレドモ、九分九厘マデハ最後ハ統制委員會ニ諮ッテ不當ノナイヤウニスル、其決定ヲ仰グ其決定ニ拘束サレルト云フ仕組ニナッテ居ルノデアリマス

○紅露委員 ソレデハ第四條、第五條、第六條、第七條ヲ飛バシマシテ、第八條ニ付テ御同致シマスガ、勅令ノ内容ヲ一ツ御示

シヲ願ヒマス

○小野政府委員 御手許ニ航路統制委員會官制要綱ト云フモノヲ差上ゲデアリマス、此第二ニ今ノ例外ノ場合以外ニ、統制委員會ノ議ニ附セザルコトヲ得ルコトニナッテ居ルノデアリマス

○紅露委員 是ハ能ク拜見シマシテ明日又御尋シマス、ソレカラ第四條デゴザイマスガ、公益ニ反スルト云フノハドウ云フコトヲ意味スルノデアリマスカ

○小野政府委員 實ハ最前一寸御答シタヤウニ思ヒマスガ、公益トハ何ゾヤト云フコトニ付キマシテ、極テ難シイ問題デアルト云フコトヲ申上ゲタ積リデアリマスガ、社會ノ事情ト云フコトニナルカモ知レマセヌガ、例ヘバ石炭ノ運賃ガ非常ニ暴騰シ、又島嶼、離島ノ關係上、其生産物ノ運賃ガ暴騰スル、離島ノ住民ノ生活ヲ脅スト云フ時ニハ、公益規定ガ發動スルト考ヘマス

○紅露委員 第四條ノ公益ニ反シタ時ハ經營條件ニ關シテ必要ナル命令ヲ爲ス、此經營條件ト云フコトト、必要ナル命令ト云フノハドンナコトヲ言フノデスカ

○小野政府委員 運賃ヲ幾ラニスルカト云フコトモ一ツノ經營條件デアラウト思ヒマス、ソレカラ配船ヲ何隻ニスルト云フコト

モ航路ノ經營「フアクター」デアラウト思ヒマス、運賃トカ配船ト云フコトガ經營條件デアリマスガ、ソレニ必要ナル命令ト申シマスノハ、運賃ガ非常ニ高イカラ一割下

デロ、或ハ配船ガ非常ニ少ナ過ギルカラモウ少シ船ヲ充實シロ、或ハ非常ニ艦襖船ヲ使ッテ居ル、ダカラ艦襖船ヲ入替ヘロ、ソレガ若シ公益ニ觸レマスナラバ、是ガ是正ノ命令ヲ出ス、斯ウ云フコトデアリマス

○紅露委員 サウスルト此命令ハ強制命令デスネ、サウ致シマス三條ト、四條ハドウモ一寸矛盾シタヤウニ考ヘルノデス、ソレハドウ云フ點カト申シマス、處罰ノ點デ、ドウモ三條ト四條トハ意味ガ受取レナイノデアリマス、即チ第三條ハ海運業者ガ不當ノ競業ヲシテサヘモ、勸告ヲシテ應ジナイ場合ニハ經營ノ禁止若クハ制限ヲ附シテ居ル、ソレナノニ第四條ノ方ハ苟モ公益ニ反スルヤウナ重大ナコトヲヤッテ居ルニ拘ラズ、單ニ強制命令ダケ出ス、其強制命令ニ對シテドシナ制裁ガアルカト云フト、罰金五千圓以下——國家ノ公益ニ反スルヤウナ重大違反ヲヤッテ居ルモノニ對スル制裁ハ強制命令——違反ニ對シテタッタ五千圓ノ罰金、競業ヲシテサヘモ營業行爲自體ヲ禁止スル——又制限スル——之ニ對シテドウ

云フヤウナ御見解デコシナ偏頗ナ罰則ヲオ付ケニナツタカ、御説明ヲ願ヒタイト思ヒマス

○小野政府委員 公益ニ反スル者ニ罰金五千圓ハ非常ニ少イデヤナイカト云フノデアリマスガ、實ハ是ガ多イカ少イカハ極メテ議論ノアル所デアリマシテ、重要産業統制法其他ニ於テハ千圓トナッテ居ルノヲ私共ノ方デハ引上ゲテ五千圓トシテアリマスガ、第三條ノ命令違反ニ付キマシテモ、是ハ禁止制限ノ命令ニ反シタ場合デアリマシテ、是トノ權衡デアリマスガ、私共ノ方デハ著シク權衡ヲ失シテ居ルト考ヘテハ居ラヌノデアリマス、是ハ少シ低ク過ギハセヌカト云フコトデアリマスガ、外ノ法令デハ是ヨリ尙ホ低クナッテ居リマス

○紅露委員 外ノ法令ハドウナッテ居ヤウトモ、是ハ法文ノ體裁カラ言ッテモ、亦實質カラ言ッテモ殆ド問題ニナラヌ規定ダト思フノデス、現在外ノ法令ヲ御取リニナルナラバ民法ハドウデスカ、其九十條ニ於テ、公ノ秩序又ハ善良ノ風俗ニ反スル事項ヲ目的トスル法律行爲ハ無効ニシテ居ルノデアリマスガ、若シ外ノ法令ヲ御採リニナルナラバ、民法ノ公序良俗ニ反シタ規定ハ法律上ニ於テ何等ノ效力ヲ發生シナイ、然ルニ

此第三條ハ單ニ競争ヲシテサヘモ——アノ龐大ナ資本ヲ投ジ、アレダケノ人ヲ使ヒ、アレダケノ勞力ヲ以テヤッテ居ル營業行爲自體ヲ制限シタリ禁止スル、ソレダノニ苟モ政府ガ認メテ公益ニ反スル行爲ヲヤッテ居ルノニ、其公益ニ反スル營業行爲自體ニハ何等ノ制限ヲ加ヘズ、又營業禁止ノ罰則モ與ヘズニ唯罰金五千圓、公益ニ反スルヤウナコトヲヤッテモ唯罰金五千圓カ何カ納メレバ何デモヤレルト云フヤウナ結果ニナラダラウト思フ

○小野政府委員 是ハ行政命令デアリマスカラ今ノ運賃ガ非常ニ暴騰シテ居ルト云フノヲ其儘認メナガラ五千圓ヲヤルノデナクシテ、其運賃ノ高イノハヤラセヌデ其上ニ五千圓ノ罰金ヲ課スル譯デアリマスカラ、五千圓ヲ課ケテ、又上ゲルト云フコトニナルト何度モ——抑ヘテハ又ソコニ其罰金ヲ課スルヤウニナリマスガ、結局ハ其運賃ヲ上ゲサセナイト云フ所ニアルノデアリマシテ、公益ニ反スルコトハ放ッテ置イテ五千圓罰金ヲ課ケルダケト云フノデナイノデアリマス、其營業權自體モ止メサセテ不當ナコトヲ止メサセルト同時ニ、一旦命令ニ違反シタト云フ事實ガアレバ罰金モ尙ホ課スル、是ハ今ノ禁止ノ場合ト同ジデアリマシ

テ、禁止ヲスル其禁止命令ニ反シテ尙ホ船ヲ動カスト、罰金モ課シマスガ、又船ヲ動カシタ場合ニハソレヲ動カサヌヤウニ行政執行力何カデ船ヲ動カサヌ方法ハ又別ニ講ズル積リデスカラ、行政命令ノ效果ト罰金ノ效果ト兩方並用サレル譯デス、御話ノヤウナ憂ハナイト思ヒマス

○紅露委員 或ハ私ノ誤解カモ知レマセヌガ、併シ此運賃ノ値上ゲトカ値下ゲト云フコトハ免許制度デモナク、届出モ必要トシナイノデゴザイマスカ

○小野政府委員 届出ハ必要デゴザイマス○紅露委員 サウスルト今私ノ申スヤウナ弊害ハナイ譯デスネ、ソレデハ第五條ハ參考書ヲ戴キマシタノデ脱シマス、ソレカラ第六條ハ洵ニ危險極マリナイ條文ダラウト思フノデアリマスガ、別ニ命令違反モナク、公益ニ反シモシナイノニ——而モ是ハ政府ト書イテゴザイマセヌデ行政官廳ト書イテアリマス、行政官廳ガ必要アリト認メタラ、海運業者ノ財産モ、職務上ノコトモ、業務上ノコトモ、何デモ皆勝手ニ調べラレル、ソレデ其報告ヲシナケレバナラヌ、検査報告ニ應ジナカタナラバ、三百圓以下ノ罰金ニ處ス、斯ウ云フコトニナレバ、營業ノ始定ト云フコトハ絕對ニ保タレヌノデアリマ

ス、慥カ大藏省アタリデハ相續税ノ調査ナシカニ關シマシテモ、金錢出入ナドハ金錢出納簿ノヤウナモノマデ提出ヲ命ジマスガ、出サナケレバ唯公正價格ノ認定權ガアルト云フコトダケニ止メテ置キヤウデアリマス、此第六條或ハ第三條若クハ第四條ノヤウニ、不當ナル競業ヲヤッタカ、或ハ公益ニ反シタヤウナ營業條件ヲ持出ストカ云フヤウナ、ソコニ何カアレバ宜シウゴザイマスケレドモ、而モ行政官廳ガ何レ局長サン——地方ナラ局長サンアタリガヤツケルノデセウガ、必要アリト認メレバコンナ檢査ヲドン——ヤレルト云フコトニナレバ海運業者ハ堪タモノデナイト思ヒマス、而モ此命令ノ發動ニハ統制委員會ニ無論掛ケル必要モナイヤウニナッテ居リマス、是ハ餘リ越權ト云フカ、不法ト云フカ、ドウモ是非常ナ問題ダラウト思ヒマスガ、ドウ云フ御見解力承リタイ

○小野政府委員 必要アリト云フコトハ、非常ニ廣ク取ルトサウ云フ御解釋モ出來ルカモ知レマセヌガ、要スルニ航路統制上必要アリト認メル場合デアリマシテ、是ハ外ノ統制法ニモ皆アリマスノデ、ソコ德斯ウ云フ行政官廳ガ色々ナ命令ヲ出シ、色々ナ届出報告ノ義務ヲ命ゼラレルコトハ非常

ニ苦痛デアルカモ知レマセヌガ、此法ノ施行ノ上ニ必要ナ程度ノ檢査ヲ取ル爲メデ、決シテ之ヲ濫用スル積リハ毛頭ナイノデアリマス、唯是ガ地方廳ガヤルト云フ御解釋デアリマスガ、是ハ遞信省ガヤル、行政官廳トアリマスノハ、遞信省ノ意味ニ御解釋ヲ願ヒマス

○紅露委員 ドウモ政府ハ何時モ法律ヲ拵ヘル時ニハサウ仰セラレル、現在ノ選舉法デ、私共同業者ガ永久ニ辯護士ノ資格ヲ奪ハレル者ガ全國デ數百人ゴザイマス、私其時辯護士法案ノ委員ニナッテ居リマシテ、極力其點ヲ主張シタノデアリマスガ、當時ノ小山法相ハ、ナニニ大丈夫ダ、選舉違反デ禁錮以上ノ刑ナンカヤリハセヌ、大丈夫ダト仰シヤツタカラ政府ノ御説明ヲ信賴シテ通シタ所ガ、禁錮ドコロデヤアリマセヌ、現在私ノ縣ナンカデモ、五圓カ六圓——而モ買収シタノデヤアリマセヌ、會計簿ヲ出シテサウシテ其清算ガ附イテ居ナイト言ッテ五圓カ六圓ノ清算未済ト云フノデ大抵懲役三箇月、四箇月、其事務長ニナッタ者ハ是ハ永久ニ辯護士ノ資格ヲ剝奪サレル譯デス、今司法省ニ聽イテ見ルト、法文ニソシナコトハ書イテナイ、恐ラク今度ノ選舉法デ事務長若クハ候補者デ永久ニ辯護士ガ出

來ナイ人ハ私ハ數百人ニナルダラウト思フ、此法律ヲ拵ヘル時ニハ政府ノ方デハ、ナニニ簡單ダ、大丈夫ダ、マア俺達ニ委セテ置ケト云フノデ委セテ見ルト、勅令ヤ施行細則ナンカデ大變難カシイモノガ出來テ、又後デ現ニ内務大臣モ司法大臣モドウモ選舉法ハ改正シナケレバナラヌカト思フト云フヤウナコトヲ仰セラレルノデスガ、仰セラレタ所デ法律ノアル以上ドウモ何トモ仕樣ガナイ、此點ハドウシテモ私ハ修正シテ戴カヌト、必要アリト認メル時ハ——サウシテ又三條、四條トノ比較カラ言ッテモサウデス、兎ニ角一方ハ勸告ヲ先ヅ以テスル、ソレカラ色々ヤアルノデアリマスガ、ソレデモ此制裁ヲ加ヘルニハ統制委員會ニ掛ケテ——第四條モサウ云フコトニナッテ居ルニ拘ラズ、而モ遞信省デハアルカモ知レマセヌガ兎ニ角行政官廳デス、遞信省モ勿論其係ノ局長カ課長サンガヤツケルノデセウガ、勝手ニ何々ノ帳面ヲ持ッテ來イ、ドレ位ノ經費ガ掛ルトカ、ドレ位ノ人員ガ居ルト云フヤウナコトヲサア報告ヲ出セトヤラレタラ營業ノ祕密ハ絕對ニ保テヌト思フ、必要アリト認ムルトキハ——ト云フヤウナコトデナク——

一ツ此點ハ遞信大臣ノ御所見ヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス

○小野政府委員 一寸私カラモ申上ゲマスガ、政府ノ行政上斯ウ云フ程度ノモノハ——斯ウ云フ程度ト云フト大變語弊ガアリマスガ、斯ノ如キ色々ナ檢査ハ現在デモ相當命ジテ居ルノデアリマス、資源調査法ト云フモノデス、當該官吏又ハ吏員ハ人的及物的資源ノ統制運用計畫ノ設定及遂行ニ必要ナル資源調査ノ爲必要ナル場所ニ立入り、檢査ヲ爲シ、調査資料ノ提供ヲ求メ又ハ關係者ニ對シ質問ヲ爲スコトヲ得此場合ニハ——云々ト云フヤウナコトガアリマス、實ハ資源調査令ト云フノハ遞信省デ其施行令ハ出デ居リマス、商工省等ニ皆關係ガアルノデアリマスガ、此程度ノコトハ相當ヤラレテ居ルノデアリマス、石油事業法ニ於キマシテモ斯ウ云フコトニナッテ居リマス、私ノ方デハ成ベク民間ノ方々ニ、資源調査令デモ行キ、是デモ行キ重複シテ煩雜ヲ極メルト云フヤウナ處カラ、現在遞信省關係ノ資源調査法令デ此民間カラ取ッテ居ルモノハ是ト重複シナイヤウニヤル積リデ、成ベク御心配ノ點ヲ——是デモカ——ト追ッ掛ケテヤルヤウナコトハヤラヌ積リデ居リマス、必要アリト認ムルト云フコトニ付キマシテハ、私共モ相當運用ヲ慎重ニ致シタ

一ツ此點ハ遞信大臣ノ御所見ヲ御伺ヒ致シタイト思ヒマス

イト思ヒマス、私ノ事務的ノ考ハサウ云フ
コトデアリマス

○頼母木國務大臣 私ハ第一ハ十分ニ由來
ヲ説イテ勸告ヲ致シ、第二ハ是非協定ヲヤ
ラセルヤウニ、協調ノ出來マサウニ兩者

ノ間ノ斡旋ノ勞ヲ執リマス、ソレデモ聽カ
ヌト云フ場合ハ決議機關デアル委員會ニ掛
ケマシテ委員會ノ決定ニ依ッテ、此法ノ命ズ
ル所ニ依ッテ最後ノ斷案ヲ下シマス、是デ私

ハ十分ニ色々ノ誤ナク目的ヲ達スルコトガ
出來ルト考ヘテ居リマス

○紅露委員 大臣モ仰セラレル通り餘リ達
シ過ギテモ困ルト思フ、サウ云フヤウニド
ンドンヤラレテハ民間ノ業者ハ實際不安ニ
驅ラレルダラウト思フ、成程局長サンノ今
ノ御説ヲ伺ッテ居ルト、之ニ類似シタ法令ハ
アルヤウデス、局長サンハ此法文ヲ支持ス
ル爲ニ同一ノ法文ヲ舉ゲルガ、私共ハサウ
云フ條文ハアッテモ構ハヌ、選舉法ヤ、辯護
士法ガ出來ル時ニ於テ今日日本全國ノ事務
長或ハ應援辯士、候補者デ數百名ノ辯護士
ガ辯護士ノ資格ヲ奪ハレルト云フヤウナコ
トヲ考ヘタ者ハナカッタ、併シヤッテ見ルト
數百人ノ辯護士ガ失格スル、失格スルト復
權シナイ以上ハ永久ニ辯護士ハ出來ナイ、
斯ウ云フ風ナコトハ餘程慎重ニ考ヘテヤラ

ナイト非常ナ影響ヲ受ケルノデアリマス、
併シ私共考ヘマスニ、一體「必要アリト認
ムル」ト云フノハ、ドンナコトヲ想像シテ

此規定ヲ御作りニナッタノカ、具體的ノ場合
ヲ一ツ示シテ戴キタイト思ヒマス

○小野政府委員 第五條デ届出ヲサセルノ
デスガ、定期航路ヲ開ク場合ニハ、斯ウ云
フ航路ヲ開クト云フヤウナコトヲ届出ヲサ
セルノデスガ、是ガ足ラヌ場合ニハ、相當

船ヲ持ッテヤリ得ルト云フ資産狀態——吾
吾ノ過去ノ經驗ニ於テモ隨分無謀ナコトヲ

ヤッテ、非常ニ地方民ニ迷惑ヲ及ボスヤウナ
場合ガアルノデアリマス、直グ倒レルヤウ

ナ資産狀態デアルニ拘ラズ、一時ノ地方民
ノ聲ニ驅ラレテヤル、サウシテ五六箇月デ

直グ倒レルト云フヤウナ場合ガ相當アルノ
デアリマス、サウ云フ場合ヲ豫想シテ餘リ

ニ貧弱ナル會社、個人ノ場合ニ於テモ相當
ノ調査資料ヲ取ッテアレバ、ソレガ重要ナ航

路ヲ營ミ得ルヤ否ヤ、先程モ申上ゲマシタ
ヤウニ、ヤッテ見テ直グ倒レル、船員等ノ失

業モ來スト云フヤウナ事態ニ瀕スルノデス
カラ、成ベク届出ノ足ラザル部分ヲ補フ意

味ニ於テ、資産狀態其他ノ報告モ檢討シテ、
是ナラバト云フ相當ノ自信ヲ得タイト思ッ
テ居ルノデアリマス

○紅露委員 サウ云フヤウナ場合デスト、
結局萬已ムヲ得ザル場合ト云フヤウナコト

ニナルノデスガ、併シサウ云フヒドイコト
ヲヤル前ニ、一應第五條ガアッテ届出デア

ノデスカラ、其届出タ時ニソレヲ信用スル
カシナイカト云フコトハ分ル筈ナンデス、

成程局長サンノ仰シヤルノハ、サウ云フヤ
ウナ特殊ナ場合ヲヤル積リデ豫想シテ御書

キニナリマセウガ、併シ苟モ此六條ガ生レ
タ以上ハ、今ノ御説明ノヤウナモノデナイ

モノニ之ヲヤッタ所デ忌避スルコトモ出來
ナイ、吾々ハ甘ンジテ受ケナケレバナラヌ、

是ハドウシテモ、當局デハ、モウ少シ緩和
スルコトハ御考ヘニナル必要ガアルト思

フ、諄ク申シマスケレドモ、御承知ノ通り大
藏省アタリデハ憲法上納税ノ義務トシテ當

然負擔シテ居ル——其税金ノ徵收ニ際シテ
スラ、而モ憲法上納税ノ義務ヲ背負ッテ居

モノニ對シテスラモ、大藏當局ハ一應調ベ
ル、帳面ノ提出ヲ命ジテ尙ホ出サナケレバ、

仕方ガナイ、決定スルト云フ方法ヲヤッテ居
ルノデアリマス、別ニ不當ノ競争ヲヤレバ
三條モアルシ、又公益ニ反スルコトヲヤレ

コトハ——大臣ノ御説明ニ依ルト、我國ノ
海運業ノ發達ヲ助長スルト云フ意味デ、此

法案ガ生レタト言フノニ、内容ヲ細カク拜
見シテ見ルト、マルデ海運業者ヲ泥棒扱ヒ

ニシテ居ル、ヤア制限スル、検査スル、勸
告スル、帳面ヲ出セ、イケナカッタソツチ

ヘ行ッテ業務ヲ調べルゾ、財産マデ調べルゾ
ト云フコトハ、餘リニフン縛ッテ置イデ叩ク

ヤウナ規定ダト思フ、ソレ程ニ一體爲サラ
ナケレバ此海運業ガ發達シナイカト云フ

ト、海運ノ歴史ノ上カラ言ッテ、却テ自由ニ放
任シテ置イタ方ガ發達シテ居ルノデアリマ

ス、現ニ本會議デスカ委員會デスカ、大臣モ
仰セラレテ居リマス、今マデ自由ニ放任シ

テ置イデモ今日ノ海運業ハ發達シテ來テ居
ルト云フコトハ御認メニナッテ居ル、併シ不

正ノ競争ヲヤルトイカヌカラ、マア斯ウ云
フ法律ヲ拵ヘルト云フノナラ、此六條ナン

カハ寧ロ私ハ必要ナイト思フ、一體勸告ナ
ント云フモノハ大抵第一段、第二段宜イ、

此法案デ行クト第四段ニナッテ居ル、勸告ヲ
スル、制限ヲスル、検査ヲスル、ソレカラ
四條デ公益ニ反スルコトガアレバ行政命令
ヲ出ス、其他ニ尙ホ行政命令ガ届出ヲ規定
シテ居ル、又ソレデイケナケレバ行政官廳
ガ勝手ニ業務財産狀態ヲ調べ得ルト云フコ

トニナレバ、是ハ海運業者ガ安心シテ業務ニ従事スルコトハ出来ヌト思フ、是デハ獨裁政治ヂヤナイカ、是ハ官憲萬能デス、私ハ此第六條ハ一ツ削除スルカ、寧ロ政府ノ方デ御撤回願フデモ宜イト思フ、而モ如何ナル場合ニ必要カト云ヘバ、開業後一箇月カ

二箇月位デ破綻スルヤウナ詰ラヌ會社ガアレバソレヲトツチメル規定ダ、ソナコトナラ幾ラモ外ニ方法ガアルト思フ、又サウ云フモノハ放任シテ置イテモドウセ潰レルノデアリマス、公益ニ反スルヤウナ條件ノ場合ヲ決メテ置イタ所デ、サウ云フヤウナ營業行為ハ事實上爲シ得ナイ、サウ云フヤウナ極端ナ弊害ノモノヲ取締ル、フン縛ル規定ヲ拵ヘテ之ヲ惡用サレタ日ニハ迎モ海運業者ハヤッテ行ケヌ、寧ロ是ハ一ツ御考慮ヲ願ッテ、削除シテ戴クヤウナ譯ニハ行カナイデアリマセウカ

○小野政府委員 要スルニ之ヲ惡用スルカドウカト云フ問題デアリマスガ、我國ニ於テハ極メテ慎重ナル態度デヤル積リデアリマス、左様御諒承願ヒマス、之ヲ止メマシテモ今資源調査法デ同ジヤウナコトヲヤハリ命ゼラレテ居ルノデアリマス、ソコデ是ハ重複シナイヤウニ私共ノ方デ規定シタ、斯ウ云フコトデアリマシテ、止メテモ外ノ

方デヤハリヤラレテ居ルノデ、之ヲヤメタ效果ハ餘リナイヂヤナイカト思ヒマスガ、私ノ方ハ資源調査法ト能ク調子ヲ合セマシテ、當業者ヲ餘リ苦シメナイヤウニ良ク運用ヲ致ス積リデアリマス

○中井委員 一寸議事進行ニ付テ動議ヲ提出致シマス、先程希望致シテ置キマシタ通り、本會議ニ於テハ重要ナ不穩文書取締法案其他ノ諸案ガ只今上程サレテ論議進行中デアルト云フコトデアリマシテ、委員中ニハ本會議ニ出席シタイト云フコトヲ希望スル者モアリマスカラ、本日ハ此程度デ質問ヲ中止致シマシテ、明日更ニ此委員會ノ續行ヲセラレンコトヲ希望致シマス

「贊成」「贊成」ト呼フ者アリ

○紅露委員 私ノ質問ハマダ大分殘ッテ居リマスガ、ソレデハ留保シテ明日或ハ明後日スルコトニ致シタイ

○戸澤委員長 明日午前九時カラアナタノ質問ヲ續ケマセウ

○紅露委員 私ノ質問ハ明日ニ留保シテ今日ハ打切ッテ置キマス

○中井委員 政友會ノ方ノ委員カラ各種ノ參考資料ノ要求ガゴザイマシタカラ、此際之ヲ申上ゲテ、少シモ早ク政府ヨリ御提出アランコトヲ希望致シマス、其第一ハ日本

船舶ノ一千噸以上、二千噸以上、三千噸以上、四千噸以上、一萬噸以上ノ區別ニ付テ各其隻數、各其合計噸數ノ概算竝ニ各其船齡、二十五年以上ノモノノ隻數、第二ニハ一千噸以上ノ汽船ヲ速力十五節以上ト其以下トニ區分シ、其隻數、噸數及ビ就航路ノ狀況、右ノ事情ニ付テ六千噸以上ノ汽船ニ對シテモ同ジ、一萬噸以上ノ汽船ニ對シテモ同ジ、其詳細ヲ明ニ爲シ得ベキ表ヲ戴キタイノデアリマス、且ツ此速力ヲ基礎トスル問題ニ付テハ英、米、獨、佛、諸國諸國ノモノトノ比較對照ヲ明ニシテ戴キタイノデアリマス、ソレカラ第三ニハ第一次、第二次船舶改善施設ノ實績、殊ニ其補助金額、補助ヲ受ケタルモノ、及ビ之ニ依ッテ新造セラレタル船舶ノ隻數、噸數竝ニ之ニ依ッテ解體セラレタル船舶ノ隻數、噸數、第四ニハ日本船舶ノ航行セル内地ト外地、外地ハ朝鮮、臺灣、關東州、南洋委任統治領ヲ含ムノデアリマスガ、其間即チ内地ト外地間竝ニ外國ニ於ケル定期不定期航路ノ現狀ヲ明ニシ得ベキモノ、特ニ其航路各航路ニ從業スル船舶ノ運業者、竝ニ其船舶ノ隻數及ビ噸數、又其航路中補助ヲ受ケ居ルモノアラバ其金額、補助ヲ受ケ居ルモノ竝ニ補助金ノ支出者又補助ヲ受ケ居ル航路ノ營業狀

態、即チ其收支損益ノ概略ヲ明ニシテ戴キタイト云フ趣旨デアリマス、第五ニハ内地内、又ハ先程申シタ外地内ニ於ケル航路ニシテ、補助ヲ受ケ居ルモノアラバ、其金額、補助ヲ受ケ居ルモノ、及ビ補助金ノ支出者竝ニ補助航路ノ營業狀態、先程ノト同ジク收支ノ損益ノ概略ヲ明ニセラレタイト云フ趣旨デアリマス、ソレカラ第六ニハ日本船舶ト外國船舶トノ競業中ノ航路、平行航路ト申シテモ宜シイ、竝ニ競業者ノ名前、第七ニハ船舶ノ新造ニ對シ、政府ノ利子補給ニ依リテ爲ス興業銀行ノ融資ノ實績、殊ニ融資ノ金額、又融資ヲ受ケ居ル者、船舶ノ種類、第八ニハ船舶用鋼鐵ノ昭和七年ト現時ノ價格、即チ其値上リノ狀態ヲ明ニ示シテ戴キタイ、第九ニハ内地、朝鮮、臺灣、關東州、南洋廳及ビ滿洲國ニ於ケル船舶、船員、其他一般海運ニ付キ、現存セル各種法令、但シ外地ノ法令ハ内地ノ法令ニ對照シテ示サレタイト、斯ウ云フ資料ヲ作製シテ御提出アランコトヲ望ミマス、尙ホ此資料ノ中ニハ、既ニ政府ヨリ提出セラレタモノモアルヤウデアリマスルガ、其場合ニ於テハ固ヨリ更メテ提出セラルベキ必要ハナイノデアリマス、而シテ此資料ハ所謂正確ヲ必要トハ致シマスルケレドモ、一分一厘違ハヌ

資料ヲ戴キタイト云フ趣旨デハナイノデア
リマシテ、大體ニ於テ大局ガ分リ得ル程度
ニ於テ御作製アレバ結構デアルト云フ趣旨
デアリマス、此資料ヲ御提出ニナルナラ
バ、所謂海運問題ニ關スル其他ノ疑問ハ、
此資料ダケデ明ニナリ得ルト思フ、隨テ質
問應答モ簡單ニ進メルコトガ出來ルノデヤ
ナイカト思ヒマスカラ、取急ギ御提出ヲ願
ヒタイト思ヒマス

○小山委員 私モ質問ノ資料ヲ戴キタイノ
デスガ、ソレハ昭和六年以降日本ノ内地ニ
寄港致シマスル外國船ノ噸數ヲ毎年別ニ戴
キタイ、ソレカラモウ一ツハ現在交付シテ
居リマスル補助金ヲ各會社別、航路別ニシ
テ戴キタイ、此二ツヲ願ヒマス

〔速記中止〕

○中井委員 尙ホ先程資料ノ要求ヲ致シテ
置キマシタガ、更ニ附加ヘテ資料ノ要求ヲ
致シマス、本法第二條、第五條、第七條、
第八條ノ中ニアル所ノ、所謂命令ヲ以テ定
ムル所ノ事柄、是ハ先程質問ノ中ニモ其片
鱗ハ現レテ居ッタノデアリマスケレドモ、
單ニ所謂實例ニ過ギナイノデアリマシテ、
此命令ヲ以テ定メラレル内容ハ、洵ニ重大
ナルモノガアル譯デス、隨テ此際政府ハ直
チニ此將來命令ヲ以テ定メラレントスル所

ノ内容ヲ具體的ニ收集メラレテ、委員會ニ
提出サレンコトヲ希望致シマス、尙ホ是ハ
審議ノ上ニ於テ最モ重大ナル關係ガアリマ
スカラ、特ニ是ハ他ノ資料ヨリ先立ッテ御
提出アランコトヲ希望致シマス

○小野政府委員 今ノ御要求ハ直グ出來ル
ト思ヒマス

○戸澤委員長 ソレデハ本日ハ此程度ニ止
メテ、明日午前正九時ヨリ開會致シマス、
本日ハ是ニテ散會致シマス

午後四時三十一分散會

昭和十一年五月十四日印刷

昭和十一年五月十五日發行

衆議院事務局

印刷者 常磐印刷株式會社